

# 食品安全委員会 20年の歩み

2023年（令和5年）9月  
食品安全委員会

本文の記載は、2023年（令和5年）3月31日  
現在のものである。

## 目次

巻頭言		・・・ 3
食品安全委員会の 20 周年にあたって	食品安全委員会委員長 山本 茂貴	
寄稿文		
(歴代食品安全委員会委員長)		・・・ 4
設立 10 周年前後の思い出	熊谷 進	
FSCJ 20th Anniversary に寄せて	佐藤 洋	
(歴代食品安全委員会事務局長)		・・・ 7
食品安全委員会 20 年に寄せて	姫田 尚	
食品安全委員会の思い出と期待	川島 俊郎	
食品安全委員会設立 20 周年に当たり	小川 良介	
第 1 部 文章編		
1 はじめに		・・・ 10
2 組織・予算		・・・ 10
(1) 委員会委員		・・・ 10
(2) 専門委員		・・・ 11
(3) 事務局		・・・ 13
(4) 予算		・・・ 13
3 食品健康影響評価の実施と評価指針の策定・改正		・・・ 13
(1) 委員会の開催		・・・ 13
(2) 評価の実績		・・・ 20
(3) リスクプロファイル		・・・ 30
(4) ファクトシート		・・・ 32
4 食品の安全性の確保に関する施策の実施状況の監視		・・・ 32
5 科学的調査及び研究の実施		・・・ 36
(1) 研究・調査企画会議		・・・ 36
(2) 食品安全確保総合調査事業		・・・ 39
(3) 食品健康影響評価技術研究事業		・・・ 40
6 リスクコミュニケーションの実施		・・・ 41
(1) 意見交換会等の開催		・・・ 42
(2) 情報提供		・・・ 58

(3)    食品安全モニター	・・・61
7 緊急時対応	・・・63
8 国際関係	・・・68
9 関係府省間の連携	・・・74
10 法令・委員会決定	・・・75
(1)    法律	・・・75
(2)    政令	・・・76
(3)    内閣府令、訓令	・・・76
(4)    委員会決定	・・・77

## 第2部 資料編

1 委員会会合開催実績一覧	・・・82
2 専門調査会開催実績一覧	・・・83
3 食品健康影響評価の諮問案件に対する審議状況	・・・84
4 自ら評価案件一覧	・・・85
5 実施状況調査実績一覧	・・・86
6 食品安全確保総合調査課題一覧	・・・88
7 食品健康影響評価技術研究採択課題一覧	・・・92
8-1 リスクコミュニケーション実績一覧	・・・97
8-2 食の安全ダイヤル年度別受付件数（グラフ）	・・・99
8-3 季刊誌「食品安全」発刊実績	・・・100
8-4 食品安全委員会メールマガジン「食品安全 e-マガジン」会員登録者数	・・・107
8-5 Facebook 実績	・・・108
8-6 YouTube 実績	・・・112
8-7 Twitter 実績	・・・115
8-8 食品安全モニター会議の開催状況	・・・117
9 国際会議等対応実績一覧	・・・119
10 海外の専門家による講演会等開催実績一覧	・・・127
11 英文電子ジャーナルの発行実績	・・・132
12 歴代政務一覧	・・・142
13 食品安全委員会委員の変遷	・・・143
14 専門調査会等座長・座長代理の変遷	・・・144
15 専門委員一覧	・・・147
16 予算及び定員の推移	・・・173
17 事務局組織の変遷	・・・174
18 事務局幹部の変遷	・・・175

食品安全委員会委員長  
山本 茂貴

食品安全委員会は2023年7月1日で設立20年を迎えました。牛海綿状脳症の発生を契機として、また、国際的な食品安全の意識の高まりの中、国際的に通用する新たな食品安全の仕組みを取り入れるため、食品安全基本法が制定され、食品安全委員会が設立されました。

そして、食品安全を確保する仕組みであるリスクアナリシスの考え方が導入されました。リスクアナリシスはリスク管理、リスク評価及びリスクコミュニケーションの3要素から構成されますが、食品安全委員会はリスク評価とリスクコミュニケーションを担当しています。

私は、食品安全委員会とは、設立当初からプリオン専門調査会の専門委員として、また、2017年からは委員として、2019年から委員長として関わって参りました。

食品安全委員会は国民の健康保護が最も重要であるという基本認識のもと、科学的知見に基づき様々な危害要因について食品健康影響評価を行っており、これまでに3100を超える食品健康影響評価を行ってきました。

食品安全行政にリスクアナリシスの考え方が導入され、20年間でこの考え方は確実に国内外で定着してきました。食品の安全に関わる関係者の取り組みも進展してきたと思います。これまで行われたリスク評価の中で、「生食用食肉（牛肉）における腸管出血性大腸菌とサルモネラ属菌」は定量的リスク評価に基づき数値的目標値の設定が行われた初めての事例で、今後は可能な限り、微生物に関連して、定量的リスク評価を行うことが必要と考えます。

一方、農薬の再評価、PFASやカドミウム等の汚染物質に関する評価を含め重要な食品健康影響評価が実施されています。引き続き、科学的知見に基づき、透明性を持って、中立公正な評価を進めて参ります。

今後は、世界的に新しいリスク評価手法も積極的に取り入れていくべきであると考えます。特に、これまでに蓄積されたデータを基に化学物質の作用、安全性をコンピュータ上で予測・評価する *in silico* 手法の導入、微生物分野での予測微生物学や定量的リスク評価の取り組み、さらにデジタルトランスフォーメーションやAI(人工知能)の導入も検討していく必要があると考えます。

また、食品安全委員会からの情報発信や関係者間の相互理解を深めるためのリスクコミュニケーションはさらに強化していくべきであると考えます。コロナウイルス感染症により対面でのリスクコミュニケーションが困難でしたが、インターネットを通じた情報発信やリスクコミュニケーションが行われました。今後もインターネット等による情報発信の強化は必要と思います。

20周年を迎えるに当たり、これまでの経験の蓄積を踏まえ、今後さらなる進化が必要と思います。食品安全委員会は、これからも食品の安全を確保するため、努力して参ります。

東京大学名誉教授  
熊谷 進  
(元食品安全委員会委員長)

委員長就任前の時期に、とくに深く記憶に残っている案件のひとつは、2011 年 3 月に発生した原子力発電所からの放射性物質による食品汚染であった。急遽、委員会で対応を集中審議し「緊急とりまとめ」を通知、ついで 7 月に健康影響評価書を公表した。もうひとつは、飲食店での死亡例を含む食中毒に関連して、短期間中にとりまとめた生食用食肉に関する健康影響評価である。いずれも公表後に批判的意見が少なからず寄せられたが、科学的に適切で丁寧な回答を示すことができたと思う。それらの経験を通じて、評価の根拠データを限られた時間内で入手することに加え、専門家を探し出して知恵を結集することの重要性を改めて強く認識した。

2012 年 7 月に委員長に就任し、新たに着任した委員を含め新体制で臨んだ。委員や事務局スタッフとは、業務上の打ち合わせ以外に、相互理解の促進を図るために会食の機会を増やし、そこでも貴重な意見を多くいただいた。2011 年に厚労省から要請を受けていた牛海綿状脳症 (BSE) 対策の見直しに係る食品健康影響評価の作業が鋭意進められ、2012 年 10 月に、と蓄牛の検査月齢引き上げを含む評価書を、翌年 5 月にはさらなる引き上げに係る評価書を仕上げることもできた。限られたデータに基づかざるを得なかったが、質の高い出来上がりになったと思う。これで長らく懸案であった検査月齢について一歩前進させることができ、安堵した。2013 年 7 月には、10 周年記念事業として国際シンポジウムを開催し、国内外から貴重な意見をいただいた。また、同年末には、食品健康影響評価の科学的基盤の発展を願い、オープンアクセス電子ジャーナル「Food Safety」を創刊することができた。当時の委員と事務局の理解と協力があったからこそのものである。

食品の安全確保は、健康影響評価が無くてはあり得ない。国民に信頼され、国際的に頼りにされる評価機関としての一層の発展を心より願っている。

東北大学名誉教授  
佐藤 洋  
(前食品安全委員会委員長)

食品安全委員会が創設二十周年を迎えるとのこと、おめでとうございます。わが国の食品安全行政の要としての役割を果たしてきたことに敬意を表するとともに、微力ながらも18年間にわたって力添えができたことを嬉しくも誇りに思います。

思い起こせば2003年の春「食品安全委員会がつくられ、リスクアセッサーを200名公募する」という話を聞いたのが、食品安全委員会を知るきっかけでした。その時は「手を挙げる人いるのか？多数のリスクアセッサーを集めるのは大変だな」と思っただけで忘れてしまいました。ところが、八月になると委員に就任した小泉直子先生から電話で要請があり、十月には汚染物質調査会の専門委員に任命されることになってしまいました。専門委員の9年間に、カドミウム、メチル水銀、鉛等と主に重金属の評価をしましたが、知見を集め議論しながら評価書を作っていく作業は大変ではあったものの楽しいものでした。

その後委員に任命されやはり9年務めました。汚染物質ばかりでなく専門調査会全体を見る立場になり、同じ「リスク評価」とは言え調査会ごとにずいぶん違うものだとということを実感しました。プリオン専門調査会では、まだBSEの発生が報告されていた時期でもあり、社会の関心も高く傍聴者が多数で緊張した雰囲気がありました。申請者がおり評価のための資料を提出する調査会での「リスク評価」も汚染物質とは異なるものでした。新開発食品や遺伝子組み換え食品等、また微生物・ウイルスの専門調査会などそれぞれ独自の雰囲気や方法があったように思います。

委員在任中に思うところがあり、実現を目指したこともありましたが、記したいと思います。

まず、評価にメリハリがあっても良いのではないかとということです。評価対象物質のハザードの強さやばく露状況によって詳細で慎重な評価が必要な場合と比較的シンプルな評価ですむ場合があります。そのためには評価対象物質を明らかに定義でき、正確なばく露評価が必要になります。アクリルアミドの評価では、モンテカルロシミュレーションで詳細にばく露評価をおこなったので、発がん性が懸念されるにもかかわらず明解な評価結果を出せたと思っています。

リスク評価に携わる専門委員は科学の各分野の専門家ですが、リスク評価では分野の知見を整理し総合的に判断をしなければなりません。したがって専門分野の知見の深さだけでなく、知見の意味つまり人の健康にどのように影響しうるのかを翻訳し判断でき、議論をリードする能力のある人が必要です。そのようなことができる人は必ずしも多くないのです。それはリスク評価を学べる機関がなく、機会も少ないことによるのです。これをなんとか解決する必要があります。

また、リスク評価書自体がリスクコミュニケーションになることが必要かと思います。科学的に正確・詳細な記述は評価書としては必要ですが、難解で読む気が失せる評価書では困ります。主に科学的な知見を整理する部分とリスクの判定を中心とした結論に至るまでを記述する部分に分冊にし、後者はできるだけわかりやすく書いて読んでもらえるリスク評価書にするということを六価クロム等でトライしてみましたが、どこまで達成できたかわかりません。

人々の健康に影響するのかどうかは、摂食量つまりばく露にかかっています。ばく露状況を把握することはリスク評価に必須です。また食品経路以外のばく露もあります。そのために、食品はじめ環境のモニタリングはもちろん、生体試料を用いた生物学的（バイオ）モニタリングが欠かせません。委員退任直前に答申した鉛の評価書でもそのことを強調しました。しかし、バイオ・モニタリングは食品安全委員会単独では不可能であり、環境省や厚生労働省はじめとして政府全体で行うべきことだと考えています。

二十周年を迎えた食品安全委員会が、さらに大人になっていくことを期待します。



公益社団法人中央畜産会副会長  
姫田 尚  
(元食品安全委員会事務局長)

食品安全委員会 (FSCJ) が独立性を保った機関として、また、国際的にも先進国のリスク評価機関としての地位を確立されていることに心からお祝い申し上げます。

まず、私が着任したときには、大学や研究機関でのアカデミックな研究をされている専門委員等の方々には、レギュラトリーサイエンスの考え方を理解してもらうことが必要でした。このため、新任委員を中心にリスクアナリシスやレギュラトリーサイエンスについての研修をしました。これらにより、極めて低いリスク（ゼロリスク）を追求することも少なくなり、的確な評価が順次できるようになってきました。

科学的な評価を進めるうえで、熊谷委員長から英文ジャーナルの創設と研究所の設置を要請されました。双方とも困難な案件でしたが、松元次官にお願いしました。多額の予算と人員が必要な研究所は、断念しましたが、ジャーナルについては、委員長をはじめ7人の委員の方々の強い熱意の下、理解を得て、現在では国内外に高い評価を受けています。

リスク評価については、栄養成分関連添加物、そしていわゆる「健康食品」、極めて微量な成分の評価など、幅広い科学的知見に基づいて、科学者の衆知を集めて評価しました。懸案だった BSE 国内対策の最終的評価も得られました。

国際的にも EFSA (EU)、FDA (USA)、ANSES (フランス)、BFR (ドイツ)、FSANZ (オーストラリア等) などの海外の評価機関とも密接な情報交換と連携が図られ、さらに JECFA (食品添加物)、JMPR (農薬)、JEMRA (微生物) などの国際的なリスク評価機関とも連携しており、食品安全委員会の国際的な地位の向上が図られています。これらは、佐藤委員長をはじめとして7人の委員と事務局職員で、委員長を中心として検討し、時にはワインや銘酒を傾けながら議論してきた結果だと思えます。

今後も、FSCJ が消費者、生産者、メーカー、マスコミ等ステークホルダーと十分なリスクコミュニケーションを行いながら、科学的知見を唯一の拠り所にリスク評価を行い国内外に信頼される組織として食品安全の守護神として世界に輝く FSCJ として EFSA、FDA 等に肩を並べる組織にさらに成長することを祈念いたします。

一般社団法人食肉科学技術研究所前理事長  
川島俊郎  
(元食品安全委員会事務局長)

食品安全委員会設立 20 周年おめでとうございます。

私が事務局に在籍した 2016 年～2019 年の 3 年間は、諸先輩方のおかげで設立時の「大変な時代」から既に「安定期」に入っており、また、食品安全にかかわる大きな事故・事件といったこともなく、各専門調査会でそれぞれの評価方法に基づき数多くの評価作業が着実に進められていました。そんな中で、あえて思い出としてひとつ上げると、「in silico (コンピュータ上での)」評価方法に関する検討です。多種多様な化学物質が新しく開発される中で、既知の化学物質の毒性試験データをデータベース化し、構造が類似した化学物質のデータから評価物質の毒性を類推するというもので、私自身は極めてアナログな人間であり、高度に専門的なその内容を理解することは難しかったのですが、とても新鮮で興味深いものでした。今や AI が我々の日常活動の様々な場面に急速に利用されるようになっていますが、食品安全委員会においても、in silico のような新しい評価方法が活用され、評価がより科学的に妥当性の高いものになっていくことを期待しています。

評価技術がどんなに高度化しても、評価を行うのは最終的には人であることを思えば、特に事務局職員のスキルアップとその支援が必要不可欠と考えます。私の時にも、職員の皆さんに、大学で社会人を対象にした博士号取得のコースに参加することをお勧めし、時間をかけて努力し実際に取得された方がおられます。当時も国内外の留学、在外研修等色々な制度が用意されていましたが、食品安全委員会事務局の場合、残念ながら職員数に余裕がなく、EFSA 等欧米の評価機関に長期に行っていただくことはかないませんでした。特に食品安全の世界では国際化が避けられないなか、優秀な人材確保の観点からも、親元機関の理解と協力も得て、研修・留学しやすい体制を充実していくことが大事ではないかと考えています。

食品安全委員会が科学的根拠に基づく公正・中立なリスク評価機関として、今後とも信頼され、発展することを願っております。

農林水産省農林水産審議官  
小川 良介  
(元食品安全委員会事務局長)

かつて、私は、平成 13 年 9 月の日本における B S E 感染牛の確認等を契機に行われた食品安全行政の見直しの担当をしていました。したがって、令和元年 7 月、食品安全委員会についても生みの親のような気持ちで、事務局長に着任しました。そして、食品安全行政にリスク評価が定着していることを実感し、立派に成長してくれているという印象を持ちました。

現在、リスク評価件数で最も数が多いのは、農薬で約 4 割を占めていると記憶していますが、毎年、同じことしていると、ルーティン化してしまう傾向があります。しかし、私が事務局長の頃は、平成 30 年の農薬取締法の改正により導入された農薬の再評価について、評価の考え方や評価体制の見直しを行う時期にあたり、新しい業務を経験することができました。余談ですが、平成 30 年の農薬取締法の改正時、私は農林水産省で法律改正の担当審議官であり、さらに、事務局長の後、再評価を担当する消費・安全局長として復帰したので、それぞれの場所で手抜きせずに良かったと思いました。

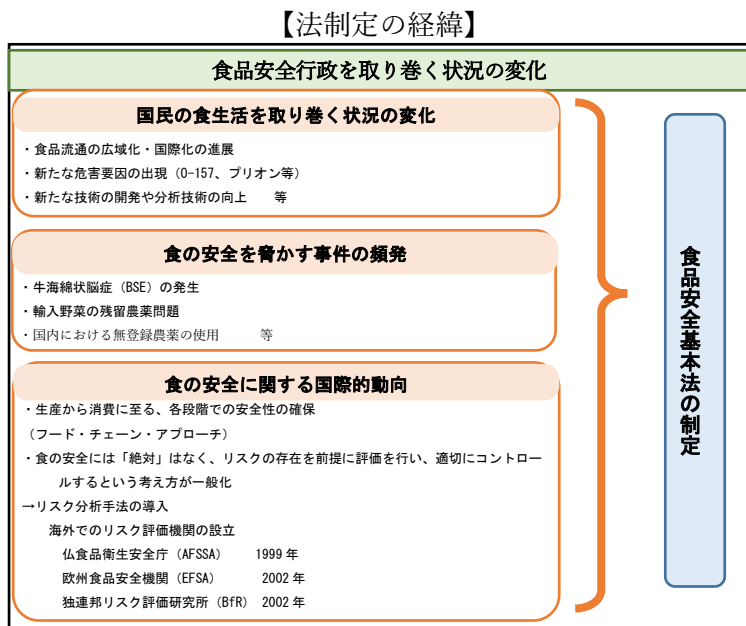
他方、令和 2 年になると、新型コロナによる緊急事態宣言が発せられるなど、通常の状態での勤務を行うことが困難になりました。しかし、既にリスク評価は食品安全行政にビルトインされており、年間 200 件程度の評価を止めることはできないので、直ちに、Web によりリスク評価を行うことができるよう、ルールの見直しや機器の整備に苦労しました。幸い、早い時期に Web 会議の体制を整えることができ、当時は、霞が関で最も進んでいるというお言葉をいただくことができました。

このようにリスク評価自体は順調に行われているが、農薬についても、あれだけ精緻に科学的に評価しながらも、専門知識を有しない消費者からは、依然として不安に思われていることを踏まえると、今後、力を入れるべきは、リスク・コミュニケーションであると思います。

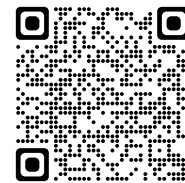
# 1 はじめに

2003年（平成15年）7月1日、食品安全委員会（以下「委員会」という。）は、食品安全基本法（平成15年法律第48号。以下「法」という。）に基づき、厚生労働省、農林水産省等の行政機関（リスク管理機関）から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正にリスク評価を行う機関として、内閣府に設置された。

2023年（令和5年）7月に設立20周年を迎えるに当たり、設立から10年を迎えた2013年（平成25年）7月に、それまでの委員会の歩みを記録した、「食品安全委員会10年の歩み」を編纂したことから、2013年度からの委員会の歩みを記す。



**【食品安全委員会10年の歩み】**



[https://www.fsc.go.jp/iinkai/iinkai\\_10nen\\_ayumi\\_2507.pdf](https://www.fsc.go.jp/iinkai/iinkai_10nen_ayumi_2507.pdf)

## 2 組織・予算

### (1) 委員会委員

委員会の委員は、法第29条第1項に基づき「食品の安全性の確保に関して優れた知見を有する者のうちから、両議院の同意を得て、内閣総理大臣が任命する」こととされており、法第30条第1項に基づき任期は3年とされている。

① 2014年（平成26年）改選

2014年（平成26年）の委員改選に当たっては、2013年（平成25年）11月5日に国会に人事案が提出され、同月8日に参議院本会議及び衆議院本会議でそれぞれ同意を得て、2014年（平成26年）1月7日に熊谷進委員（微生物等）が再任された。

② 2015年（平成27年）改選

2015年（平成27年）の委員改選に当たっては、同年5月19日に国会に人事案が提出され、

同月 21 日に衆議院本会議で、同月 22 日に参議院本会議でそれぞれ同意を得て、同年 7 月 1 日に、佐藤洋委員（公衆衛生等）、山添康委員（有機化学（化学物質等））、石井克枝委員（消費者意識・消費行動等）、村田容常委員（食品の生産・流通システム等）が再任され、三森国敏委員（毒性学等）に代わり吉田緑委員（毒性学等）が、上安平冽子委員（情報交流）に代わり堀口逸子委員（情報交流）がそれぞれ任命された。

③ 2017 年（平成 29 年）改選

2017 年（平成 29 年）の委員改選に当たっては、2016 年（平成 28 年）10 月 21 日に国会に人事案が提出され、同日に参議院本会議で、同月 25 日に衆議院本会議でそれぞれ同意を得て、2017 年（平成 29 年）1 月 7 日に熊谷進委員に代わり山本茂貴委員（微生物等）が任命された。

④ 2018 年（平成 30 年）改選

2018 年（平成 30 年）の委員改選に当たっては、同年 3 月 13 日に国会に人事案が提出され、同月 16 日に参議院本会議及び衆議院本会議でそれぞれ同意を得て、同年 7 月 1 日に、佐藤洋委員、吉田緑委員、堀口逸子委員が再任され、山添康委員に代わり川西徹委員（有機化学（化学物質等））が、石井克枝委員に代わり香西みどり委員（消費者意識・消費行動等）が、村田容常委員に代わり吉田充委員（食品の生産・流通システム等）がそれぞれ任命された。

⑤ 2020 年（令和 2 年）改選

2020 年（令和 2 年）の委員改選に当たっては、2019 年（令和元年）11 月 26 日に国会に人事案が提出され、同月 29 日に参議院本会議及び衆議院本会議でそれぞれ同意を得て、2020 年（令和 2 年）1 月 7 日に山本茂貴委員が再任された。

⑥ 2021 年（令和 3 年）改選

2021 年（令和 3 年）の委員改選に当たっては、同年 3 月 26 日に国会に人事案が提出され、同年 4 月 1 日に衆議院本会議、同月 7 日に参議院本会議でそれぞれ同意を得て、同年 7 月 1 日に、川西徹委員、香西みどり委員、吉田充委員が再任され、佐藤洋委員に代わり脇昌子委員（公衆衛生等）が、吉田緑委員に代わり浅野哲委員（毒性学等）が、堀口逸子委員に代わり松永和紀委員（情報交流）がそれぞれ任命された。

⑦ 2023 年（令和 5 年）改選

2023 年（令和 5 年）の委員改選に当たっては、2022 年（令和 4 年）10 月 28 日に国会に人事案が提出され、同年 11 月 1 日に衆議院本会議で、同月 9 日に参議院本会議でそれぞれ同意を得て、2023 年（令和 5 年）1 月 7 日に山本茂貴委員が再任された。

## （2）専門委員

法第 36 条第 1 項に基づき、委員会に、専門の事項を調査審議するため、専門委員を置くことができ、同条第 2 項に基づき、専門委員は学識経験のある者のうちから、内閣総理大臣が任命す

ることとされている。また、2003年（平成15年）7月9日の第2回委員会会合で決定された「食品安全委員会専門調査会運営規程」（以下「専門調査会運営規程」という。）において、委員会の下に設置される分野ごとの専門調査会及びその所掌、専門調査会に属すべき専門委員は、委員長が指名することが規定されている。

2013年度（平成25年度）時点で、12の専門調査会が設置されており、内訳は、企画等専門調査会、添加物専門調査会、農薬専門調査会、動物用医薬品専門調査会、器具・容器包装専門調査会、化学物質・汚染物質専門調査会、微生物・ウイルス専門調査会、プリオン専門調査会、かび毒・自然毒等専門調査会、遺伝子組換え食品等専門調査会、新開発食品専門調査会、肥料・飼料等専門調査会であった。

2015年（平成27年）9月29日の第578回委員会会合において、専門調査会運営規程の一部改正が行われ、同年10月1日に施行された。この改正により、規程の名称が「食品安全委員会専門調査会等運営規程」（以下「専門調査会等運営規程」という。）に改正された。また、化学物質・汚染物質専門調査会については、その業務を名称に正確に反映するため、汚染物質等専門調査会に名称変更されるとともに、既存の専門調査会の範囲を超えた特定分野に関する審議を行う場合に、必要に応じて専門調査会の下に設置されていたワーキンググループについては、委員会の直下に必要に応じて設置することとされ、専門調査会と同等の位置づけとなった。これにより、委員会の直下に、高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するワーキンググループ（～2018年（平成30年）4月）、いわゆる「健康食品」に関する検討ワーキンググループ（～2018年（平成30年）4月）、栄養成分関連添加物ワーキンググループ、加熱時に生じるアクリルアミドワーキンググループ（～2018年（平成30年）4月）及び薬剤耐性菌に関するワーキンググループが設置されることとなった。

なお、その後、清涼飲料水等に関するワーキンググループ（2016年（平成28年）4月～2018年（平成30年）4月）、評価技術企画ワーキンググループ（2016年（平成28年）4月～）、六価クロムワーキンググループ（2017年（平成29年）6月～2021年（令和3年）6月）、アレルギーを含む食品に関するワーキンググループ（2017年（平成29年）10月～2021年（令和3年）6月）、香料ワーキンググループ（2017年（平成29年）10月～）、鉛ワーキンググループ（2019年（平成31年）4月～2021年（令和3年）6月）、菌末を原材料として使用する調製粉乳に関するワーキンググループ（2019年（令和元年）10月～2021年（令和3年）3月）、ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ（2021年（令和3年）4月～）、有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ（2023年（令和5年）2月～）が委員会の下に設置された。

2020年（令和2年）3月24日の第777回委員会会合において、専門調査会等運営規程の一部改正が行われ、同年4月1日に施行された。これにより、農薬専門調査会が廃止され、農薬全般に関する事項や再評価に関する事項について調査審議を行う農薬第一専門調査会並びに個別の品目について調査審議を行う農薬第二専門調査会、農薬第三専門調査会、農薬第四専門調査会及び農薬第五専門調査会が新たに設置された。

以上の経緯を経て、2023年（令和5年）3月31日現在、16の専門調査会及び6のワーキンググループが設置されている。また200名の専門委員が任命されており、内訳は以下のとおりで

ある。

企画等専門調査会	16名	添加物専門調査会	17名	農薬第一専門調査会	13名
農薬第二専門調査会	12名	農薬第三専門調査会	13名	農薬第四専門調査会	12名
農薬第五専門調査会	13名	動物用医薬品専門調査会	14名	器具・容器包装専門調査会	16名
汚染物質等専門調査会	12名	微生物・ウイルス専門調査会	15名	プリオン専門調査会	11名
かび毒・自然毒等専門調査会	10名	遺伝子組換え食品等専門調査会	10名	新開発食品専門調査会	10名
肥料・飼料等専門調査会	13名	栄養成分関連添加物ワーキンググループ	12名	薬剤耐性に関するワーキンググループ	12名
評価技術企画ワーキンググループ	11名	香料ワーキンググループ	10名	ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ	8名
有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ	11名				

※複数の専門調査会、ワーキンググループを兼任している委員を含む。

### (3) 事務局

事務局は、2013年（平成25年）5月に、評価課を評価第一課及び評価第二課に分割し、勧告広報課及び情報・緊急時対応課を情報・勧告広報課に統合する組織再編を行い、局長、次長、総務課、評価第一課、評価第二課、情報・勧告広報課の体制となった。2015年（平成27年）4月には訓令室として評価技術企画室が設置された。

2023年（令和5年）には、農薬の評価体制の強化を図るため、リスクコミュニケーション官を廃止し、農薬評価室長を新設する組織再編があり、同年4月から局長、次長、4課1室1官体制となった。

### (4) 予算

2013年度（平成25年度）の予算は、9億1,800万円であった。2023年度（令和5年度）予算は、委員会の運営、リスク評価等に必要な技術研究・調査の実施、情報収集の充実及びリスクコミュニケーションの推進に必要な経費として、9億5,100万円を計上している。

## 3 食品健康影響評価の実施と評価指針の策定・改正

### (1) 委員会の開催

会合は原則として毎週1回公開で開催することとされ、2023年（令和5年）3月31日現在、

火曜日が定例日とされている。以下に各年度の会合開催状況を記載する。

① 2013 年度（平成 25 年度）

2013 年度（平成 25 年度）は、41 回の委員会会合が開催された。

2013 年度（平成 25 年度）には、234 案件について食品健康影響評価の要請があり、265 件について評価結果を通知した。

2014 年（平成 26 年）1 月 7 日の第 499 回委員会会合において、熊谷委員が委員長に再び選出された。

2 月 10 日の第 502 回委員会会合において、2013 年度（平成 25 年度）の委員会自らの判断により食品健康影響評価の対象案件を選定し評価を行う案件（以下「自ら評価案件」という。）として選定したものはなかったが、「麻痺性貝毒」についてはファクトシートを作成することとし、また、「ノロウイルス」及び「サプリメント」については情報収集及び情報提供を行うとともに、次年度も継続して議論を行うこととした。

② 2014 年度（平成 26 年度）

2014 年度（平成 26 年度）は、46 回の委員会会合が開催された。

2014 年度（平成 26 年度）には、219 案件について食品健康影響評価の要請があり、269 案件について評価結果を通知した。

2014 年（平成 26 年）12 月 16 日の第 542 回委員会会合において、「食品の安全性の確保のための研究・調査の推進のための方向性について」（平成 22 年 12 月 16 日委員会決定）を改正し、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日の第 555 回委員会会合において、研究・調査会議の下に、事前・中間評価部会、事後評価部会、プログラム評価部会の 3 つの部会を置き、研究・調査の各段階において、外部有識者による評価を実施する体制を整備した（詳細は「5 科学的調査及び研究の実施」参照。）。

2 月 10 日の第 548 回委員会会合において、2013 年度（平成 25 年度）の自ら評価案件の審議の際に、継続して議論を行うこととした「ノロウイルス」については、リスク管理機関と積極的に意見交換を行い、今後の方策について検討を行うこととされ、また、同じく継続して議論を行うこととした「サプリメント」については、いわゆる「健康食品」として、健康食品全般の安全性について委員会としての見解をとりまとめることとした。また、3 月 24 日の第 554 回委員会会合において、「フモニシン」を自ら評価案件として決定した。

③ 2015 年度（平成 27 年度）

2015 年度（平成 27 年度）は、45 回の委員会会合が開催された。

2015 年度（平成 27 年度）には、132 案件について食品健康影響評価の要請があり、207 案件について評価結果を通知した。

企画等専門調査会における 2014 年度（平成 26 年度）の自ら評価案件候補選定の審議結果（健康食品全般についてのリスクや懸念される事項、留意すべき点等について委員会の意見をとりまとめ、情報発信すべき）を踏まえ、2015 年（平成 27 年）6 月 2 日の第 563 回委員





2016年度（平成28年度）は、44回の委員会会合が開催された。

2016年度（平成28年度）には、267案件について食品健康影響評価の要請があり、271案件について評価結果を通知した。

2016年（平成28年）5月17日の第606回委員会会合において、「香料に関する食品健康影響評価指針」が決定された。

4月5日に「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」において薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが決定されたことを受け、6月14日の第610回委員会会合において、薬剤耐性菌の食品健康影響評価の一層の推進や改善に向け、今後5年間で実施する行動計画を策定することを決定し、薬剤耐性菌に関するワーキンググループでの審議後、2017年（平成29年）3月28日の第644回委員会会合において、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画を決定した。

#### ⑤ 2017年度（平成29年度）

2017年度（平成29年度）は、46回の委員会会合が開催された。

2017年度（平成29年度）には、138案件について食品健康影響評価の要請があり、181案件について評価結果を通知した。

2017年（平成29年）5月30日の第651回委員会会合において、化学物質・汚染物質専門調査会（平成21年当時）の下に設置された清涼飲料水部会において審議されていた六価クロムについて、新たに収集した知見を踏まえて専門委員による調査審議を行うため、「六価クロムワーキンググループ」を委員会に設置することを決定した。

7月18日の第658回委員会会合において、新たな評価指針である「栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針」及び「添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針」を決定するとともに、加工助剤（殺菌料及び抽出溶媒）の食品健康影響評価の考え方を附則として追加する「添加物に関する食品健康影響評価指針」（平成22年5月27日委員会決定）を改正した。

7月25日の第659回委員会会合において、海外で活用の動きがみられるコンピューター上（*in silico*）での化学物質の毒性評価方法である（Q）SAR及びRead acrossの今後の活用に向けた課題等について評価技術企画ワーキンググループでとりまとめた「新たな時代に対応した評価技術の検討～化学物質の毒性評価のための（Q）SAR及びRead acrossの利用～」を承認した。

9月26日の第667回委員会会合において、2016年度（平成28年度）の自ら評価案件としたアレルギー物質を含む食品に関して、「アレルギー物質を含む食品に関するワーキンググループ」を委員会に設置することを決定した。また、同会合において、今後香料の審議件数の増加が見込まれることから、2016年（平成28年）5月に策定した「香料に関する食品健康影響評価指針」に基づく評価を行うため、「香料ワーキンググループ」を委員会に設置することを決定した。

11月7日の第672回委員会会合において、「動物用ワクチンの添加剤の食品健康影響評価の考え方」（平成26年10月14日委員会決定）を改正した。

⑥ 2018 年度（平成 30 年度）

2018 年度（平成 30 年度）は、46 回の委員会会合が開催された。

2018 年度（平成 30 年度）には、134 案件について食品健康影響評価の要請があり、154 案件について評価結果を通知した。

2018 年（平成 30 年）4 月 10 日の第 692 回委員会会合において、新たな評価指針である「動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針」を決定した。

7 月 2 日の第 703 回委員会会合において、佐藤委員が委員長に選出された。

7 月 10 日の第 704 回委員会会合において、食品健康影響評価にベンチマークドーズ法を活用する上での技術的課題について評価技術企画ワーキンググループが取りまとめた「新たな時代に対応した評価技術の検討～BMD 法の更なる活用に向けて～」が報告され、今後、本報告内容を踏まえ、同ワーキンググループにおいて、指針のとりまとめに向けた調査審議を進めることとされた。

9 月 25 日の第 713 回委員会会合において、新たな評価指針である「飼料添加物に関する食品健康影響評価指針」を決定し、「内分泌活性を有する動物用医薬品の食品健康影響評価の考え方について」（平成 30 年 6 月 1 日動物用医薬品専門調査会決定）を指針の関連文書に位置付けるため、「動物用医薬品に関する食品健康影響指針」（平成 30 年 4 月 10 日委員会決定）を改正した。

10 月 16 日の第 716 回委員会会合において、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された酵素を新たに添加物として指定すること等について、法第 24 条の規定に基づき意見を求められた場合の取扱いについて」を決定した。

2019 年（平成 31 年）2 月 12 日の第 730 回委員会会合において、自ら評価案件として選定したものはなかったが、「メチル水銀」については将来的に再評価を行う可能性も考慮し情報収集を行うこととし、「アニサキス」については、3 月 4 日の第 78 回微生物・ウイルス専門調査会での審議を経て、3 月 26 日の第 736 回委員会会合において、知見等を収集した上で、リスクプロファイルの作成を進めることとした。

⑦ 2019 年度（令和元年度）

2019 年度（令和元年度）は、42 回の委員会会合が開催された。

2019 年度（令和元年度）には、145 案件について食品健康影響評価の要請があり、139 案件について評価結果を通知した。

2019 年（令和元年）4 月 23 日の第 740 回委員会会合において、2007 年度（平成 19 年度）に自ら評価案件として選定した「食品及び器具・容器包装中の鉛」に関する食品健康影響評価について審議を行う「鉛ワーキンググループ」を委員会に設置した。

食品用器具・容器包装についてのポジティブリスト制度導入に対応するため、2019 年（令和元年）5 月 28 日の第 743 回委員会会合において、「食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針」を新たに決定した。

8 月 27 日の第 754 回委員会会合において、科学技術・情報技術の発展、プログラム評価結

果等を踏まえ、「食品の安全性の確保のための研究・調査の推進の方向性について」（平成 22 年 12 月 16 日委員会決定）を改正した。

10 月 1 日の第 759 回委員会会合において、「残留農薬に関する食品健康影響評価指針」を新たに決定した。なお、2013 年度（平成 25 年度）に農薬専門調査会において策定した「特定農薬の食品健康影響評価における考え方について」、「農薬の食品健康影響評価における暴露評価対象物質に関する考え方」及び「農薬の急性参照用量設定における基本的考え方」、並びに 2017 年度（平成 29 年度）に農薬専門調査会において策定した「農薬の食品健康影響評価におけるイヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の取扱いについて」等を本指針の関連資料に位置付けた。

10 月 15 日の第 761 回委員会会合において、「菌末を原材料として使用する調製粉乳に関するワーキンググループ」を委員会に設置することを決定した。

10 月 29 日の第 762 回委員会会合において、「食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針〔動物試験で得られた用量反応データへの適用〕」を新たに決定した。

2020 年（令和 2 年）3 月 24 日の第 777 回委員会会合において、農薬に係る再評価制度の導入等を踏まえ、専門調査会等運営規程を改正し、従来の農薬専門調査会を農薬第一から第五までの 5 つの専門調査会に再編する等評価体制の整備を行った。また、それに伴い「残留農薬に関する食品健康影響評価指針」（令和元年 10 月 1 日委員会決定）を改正した。

#### ⑧ 2020 年度（令和 2 年度）

2020 年度（令和 2 年度）は、32 回の委員会会合が開催された。

新型コロナウイルス感染症の蔓延を踏まえ、2020 年（令和 2 年）4 月 9 日に第 779 回委員会会合を臨時で開催し、「テレビ会議又は Web 会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について」を決定した。また、一般傍聴についても、同日の委員会会合から、傍聴者を入れずに委員会会合を開催していたが、5 月 19 日の第 781 回委員会会合からは、傍聴者を入れることに代えて、会合の様子を委員会の YouTube チャンネルにて配信した。

2020 年度（令和 2 年度）には、89 案件について食品健康影響評価の要請があり、98 案件について評価結果を通知した。

2020 年（令和 2 年）6 月 16 日の第 782 回委員会会合において、「残留農薬に関する食品健康影響評価指針」（令和元年 10 月 1 日委員会決定）の関係資料について、従来の「コリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の安全性評価の在り方について」から、農薬第一専門調査会で取りまとめた「残留農薬の食品健康影響評価におけるコリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の取扱いについて」に変更した旨を報告した。また、そのほか農薬の評価の関連では、2020 年度（令和 2 年度）は、農薬第一専門調査会において、「農薬の食品健康影響評価に関する事項の調査審議における留意点について」を策定した。

7 月 7 日の第 783 回委員会会合において、動物用医薬品専門調査会及び肥料・飼料等専門調査会において審議した「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」を報告した。

食品用器具・容器包装について、2019 年度（令和元年度）に「食品用器具及び容器包装に

関する食品健康影響評価指針」を策定した際に引き続きの検討事項とされていたポリマー添加剤の取扱い及び研究事業で実施した溶出試験法に係る研究成果を反映する観点から、10月6日の第792回委員会会合において「食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針」（令和元年5月28日委員会決定）を改正し、公表した。

2021年（令和3年）3月2日の第806回委員会会合において、評価技術企画ワーキンググループにおいてとりまとめた「食品健康影響評価において(Q)SARを活用して変異原性を評価する場合の手引き」について報告した。

3月23日の第809回委員会会合において、経済上の連携に関する日本国と欧州連合との間の協定附属書に掲げられる添加物の食品健康影響評価に関する事項について調査審議を行うため、「ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ」を委員会に設置した。

#### ⑨ 2021年度（令和3年度）

2021年度（令和3年度）は、43回の委員会会合が開催された。

新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き、傍聴者を入れることに代えて、委員会会合の様子をYouTube配信した。

2021年度（令和3年度）には、82案件について食品健康影響評価の要請があり、133案件について評価結果を通知した。

2021年（令和3年）4月6日の第811回委員会会合において、農薬第一専門調査会でとりまとめた「残留農薬の食品健康影響評価における公表文献の取扱いについて」及び「残留農薬の食品健康影響評価における毒性試験での有害影響の判断に関する考え方」を「残留農薬に関する食品健康影響評価指針」（令和元年10月1日委員会決定）の関係資料として位置付けるため、本指針の一部を改正した。

5月18日の第816回委員会会合において、「飼料添加物に関する食品健康影響評価指針」（平成30年9月25日委員会決定）を全部改正した。

7月1日の第823回委員会会合において、山本委員が委員長に選出された。

9月28日の第833回委員会会合において、最新の国際動向やこれまで行ってきた添加物の評価結果等を踏まえ、「添加物に関する食品健康影響評価指針」（平成22年5月27日委員会決定）を全面改正するとともに、「香料に関する食品健康影響評価指針」（平成28年5月17日委員会決定）、「添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針」（平成29年7月18日委員会決定）及び「栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針」（平成29年7月18日委員会決定）について所要の整備を行った。

2022年（令和4年）3月22日の第852回委員会会合において、最新の国際動向等を踏まえ、「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針」（平成16年9月30日委員会決定）の一部を改正した。

また、日本国内の人用抗菌性物質の承認状況の変化や、WHO、各国・地域のランク付けの動向を踏まえ、「食品を介して人の健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度のランク付けについて」（平成18年4月13日委員会決定）の一部を改正した。

⑩ 2022 年度（令和 4 年度）

2022 年度（令和 4 年度）は、41 回の委員会会合が開催された。

2022 年度（令和 4 年度）には、111 案件について食品健康影響評価の要請があり、97 案件について評価結果を通知した。

2022 年（令和 4 年）6 月 14 日の第 862 回委員会会合において、「食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針」（令和元年 10 月 29 日委員会決定）の一部を改正した。

6 月 21 日の第 863 回委員会会合において、「食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針」（平成 19 年 6 月 1 日委員会決定）を全部改正した。

2023 年（令和 5 年）1 月 10 日の第 884 回委員会会合において、山本委員が委員長に選出された。

1 月 31 日の第 887 回委員会会合において、「有機フッ素化合物」を自ら評価案件とすることを決定した。そして、2 月 7 日の第 888 回委員会会合において、有機フッ素化合物（P F A S）ワーキンググループを委員会に設置した。

## （2） 評価の実績

以下に、各年度において、代表的な評価の実績を記載する。

① 2013 年度（平成 25 年度）

＜牛海綿状脳症（B S E）対策の見直しに関する評価（我が国の検査対象月齢の引き上げ）＞

2011 年（平成 23 年）12 月 19 日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受けた「牛海綿状脳症（B S E）対策の見直し」に係る食品健康影響評価（我が国の検査対象月齢の引き上げ）について、プリオン専門調査会において、2012 年度（平成 24 年度）から 4 回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2013 年（平成 25 年）5 月 13 日の第 473 回委員会会合において、「牛海綿状脳症（B S E）対策の見直し」に係る食品健康影響評価（我が国の検査対象月齢の引き上げ）について、評価書を決定し、厚生労働省に通知した。

【「牛海綿状脳症（B S E）対策の見直し」に係る食品健康影響評価（我が国の検査対象月齢の引き上げ）】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20121219001>

＜食品中のリステリア・モノサイトゲネスに関する評価＞

2012 年（平成 24 年）1 月 16 日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受けた「食品中のリステリア・モノサイトゲネス」に関する食品健康影響評価について、微生物・ウイルス

ス専門調査会において、2011年度（平成23年度）から6回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2013年（平成25年）5月20日の第474回委員会会合において、「食品中のリステリア・モノサイトゲネス」に関する食品健康影響評価について、評価書を決定し、厚生労働省に通知した。

【「食品中のリステリア・モノサイトゲネス」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20120116331>

<食品中のヒ素に関する評価>

2003年（平成15年）7月1日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受け、2008年度（平成20年度）に自ら評価案件として選定した「食品中のヒ素」に関する食品健康影響評価について、化学物質・汚染物質専門調査会幹事会において、2009年度（平成21年度）から2回、化学物質・汚染物質専門調査会汚染物質部会において、2009年度（平成21年度）から9回、化学物質・汚染物質専門調査会において、2013年度（平成25年度）に1回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2013年（平成25年）12月16日の第498回委員会会合において評価書を決定し、厚生労働省及び農林水産省に結果を通知した。

【「食品中のヒ素」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya2009031900k>

<オクラトキシンAに関する評価>

2008年度（平成20年度）に自ら評価案件として選定した「オクラトキシンA」に関する食品健康影響評価について、かび毒・自然毒等専門調査会において、2010年度（平成22年度）から8回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2014年（平成26年）1月27日の第501回委員会会合において決定し、厚生労働省及び農林水産省に結果を通知した。

【「オクラトキシンA」に関する食品健康影響評価】



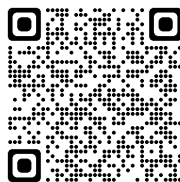
<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya200903190ks>

② 2014年度（平成26年度）

＜豚の食肉の生食に関する評価＞

2014年（平成26年）9月10日付で厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受けた「豚の食肉の生食」に関する食品健康影響評価について、微生物・ウイルス専門調査会において、2014年度（平成26年度）から2回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2015年（平成27年）2月24日の第550回委員会会合において、評価書を決定し、厚生労働省に通知した。

【「豚の食肉の生食」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20140910231>

＜高濃度にジアシルグリセロールを含む食品の評価＞

2005年（平成17年）9月20日付で厚生労働省から食品健康影響評価の要請のあった「高濃度にジアシルグリセロールを含む食品の安全性」について、同年9月30日に新開発食品・添加物専門調査会合同ワーキンググループを設置し、5回の審議を行った後、新開発食品・添加物合同専門調査会において、2009年（平成21年）から5回審議を行った。その後、2010年（平成22年）6月10日に「高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するワーキンググループ」を設置し、7回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2015年（平成27年）3月10日の第552回委員会会合で評価書を決定し、厚生労働省に結果を通知した。

【「高濃度にジアシルグリセロールを含む食品の安全性」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20050920001>



③ 2015年度（平成27年度）

＜クドア（クドア属粘液胞子虫）に関する評価＞

2012年度（平成24年度）に自ら評価案件として選定した「クドア（クドア属粘液胞子虫）」に関する食品健康影響評価について、微生物・ウイルス専門調査会において、2013年度（平成25年度）から6回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2015年（平成27年）11月10日の第583回委員会会合において決定し、厚生労働省及び農林水産省に結果を通知した。

【「クドア（クドア属粘液胞子虫）」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20151110862>

④ 2016年度（平成28年度）

＜加熱時に生じるアクリルアミドに関する評価＞

2010年度（平成22年度）に自ら評価案件として選定した「加熱時に生じるアクリルアミド」に関する食品健康影響評価について、化学物質・汚染物質専門調査会において、2011年度（平成23年度）から2回、同専門調査会化学物質部会において2013年度（平成25年度）から6回審議を行った後、「加熱時に生じるアクリルアミドワーキンググループ」において1回の審議を行った。その後、審議結果を取りまとめ、2016年（平成28年）4月5日の第601回委員会会合で評価書を決定し、消費者庁、厚生労働省、農林水産省及び環境省に結果を通知した。

【加熱時に生じるアクリルアミドに関する情報】



<https://www.fsc.go.jp/osirase/acrylamide1.html>

＜牛海綿状脳症(BSE)国内対策の見直しに係る評価（健康と畜牛のBSE検査の廃止）＞

2015年（平成27年）12月18日付で厚生労働省から要請があった「牛海綿状脳症(BSE)国内対策の見直し」に係る食品健康影響評価（健康と畜牛のBSE検査の廃止）について、プリオン専門調査会において、2015年度（平成27年度）から5回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2016年（平成28年）8月30日の第620回委員会会合において評価結果を決定

し、厚生労働省に通知した。

【「牛海綿状脳症(BSE)国内対策の見直し」に係る食品健康影響評価（健康と畜牛のBSE検査の廃止）】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20151218480>

＜家畜に使用する硫酸コリスチンに係る薬剤耐性菌に関する評価＞

2003年（平成15年）12月8日付で農林水産省から要請があった「家畜に使用する硫酸コリスチン」に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価について、薬剤耐性菌ワーキンググループにおいて、2016年度（平成28年度）から3回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2017年（平成29年）1月17日の第635回委員会会合において、評価結果を決定し、農林水産省に通知した。

【「家畜に使用する硫酸コリスチン」に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya03120816918>

⑤ 2017年度（平成29年度）

＜アルミニウムに関する評価＞

2009年度（平成21年度）に自ら評価案件として選定した「アルミニウム」に関する食品健康影響評価については、2017年（平成29年）3月21日付で厚生労働省から評価要請を受け、添加物専門調査会での調査審議を経て取りまとめた添加物評価書「硫酸アルミニウムアンモニウム及び硫酸アルミニウムカリウム」（平成29年12月19日委員会決定）の評価結果において、アルミニウムイオンで構成される物質に関する知見も併せて評価されていること等、アルミニウムに係る自ら評価において必要な事項が網羅されていたことから、同評価結果をもって充てることを12月19日の第678回委員会会合で決定し、厚生労働省に結果を通知した。

【「アルミニウム」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20171219810>

<フモニシンに関する評価>

2014年度（平成26年度）に自ら評価案件として選定した「フモニシン」に関する食品健康影響評価について、かび毒・自然毒等専門調査会において、2015年度（平成27年度）から12回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2017年（平成29年）9月26日の第667回委員会会合において決定し、厚生労働省及び農林水産省に結果を通知した。

【「フモニシン」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20170926001>

<清涼飲料水中に含まれる亜鉛、鉄、カルシウム、マグネシウム等（硬度）に関する評価>

2013年（平成25年）4月9日付で厚生労働省から食品健康影響評価の要請があった「清涼飲料水に係る規格基準の改正について」の中に含まれる3物質（「亜鉛」、「鉄」、「カルシウム、マグネシウム等（硬度）」）について、2016年（平成28年）4月1日に「清涼飲料水等に関するワーキンググループ」を委員会に設置し、亜鉛と鉄については2回、カルシウム、マグネシウム等については1回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2017年（平成29年）4月25日の第647回委員会会合で評価書を決定し、厚生労働省に結果を通知した。

【「亜鉛」に関する食品健康影響評価】

【「鉄」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya13040909003>



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya13040909004>

【「カルシウム・マグネシウム（硬度）」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya13040909005>

＜豆腐の規格基準の改正（無菌充填豆腐）に関する評価＞

2017年（平成29年）4月12日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請のあった「豆腐の規格基準の改正」（無菌充填豆腐）に関する食品健康影響評価について、微生物・ウイルス専門調査会において、2017年度（平成29年度）から4回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2018年（平成30年）1月23日第681回委員会会合において、「豆腐の規格基準の改正」（無菌充填豆腐）に関する食品健康影響評価について決定し、厚生労働省に通知した。

【「豆腐の規格基準の改正」（無菌充填豆腐）に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/Kya20170412010>

⑥ 2018年度（平成30年度）

＜六価クロムに関する評価＞

2003年（平成15年）7月1日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請のあった、「清涼飲料水中に含まれる六価クロムの規格基準改正」について、2009年度（平成21年度）に化学物質・汚染物質専門調査会清涼飲料水部会において1回の審議を行った後、2017年（平成29年）6月1日、「六価クロムワーキンググループ」を委員会に設置し、4回の審議を行った。その後、審議結果を取りまとめ、2018年（平成30年）9月18日の第712回委員会会合で評価書を決定し、厚生労働省に結果を通知した。

【「六価クロム」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20030703091>

⑦ 2019年度（令和元年度）

<豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性に関する評価>

2019年（平成31年）3月12日付けで農林水産省から食品健康影響評価の要請を受け、「豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性」に関する食品健康影響評価について、動物用医薬品専門調査会において、2018年度（平成30年度）から1回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2019年（平成31年）4月23日第740回委員会会合において、「豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性」に関する食品健康影響評価について決定し、農林水産省に通知した。

【「豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20190312043>

<食品中のデオキシニバレノールの規格基準の設定に関する評価>

2018年（平成30年）2月22日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受け、「食品中のデオキシニバレノールの規格基準の設定」に関する食品健康影響評価について、かび毒・自然毒等専門調査会において、2017年度（平成29年度）から5回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2019年（令和元年）12月24日第768回委員会会合において、「デオキシニバレノール」に関する食品健康影響評価について決定し、厚生労働省に通知した。

【「食品中のデオキシニバレノールの規格基準の設定」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20180222161>

⑧ 2020年度（令和2年度）

<乳及び乳製品の成分規格等に関する省令に基づく調製粉乳の審査事項に関する評価>

菌末（生菌、死菌を含む。）を原材料として使用する調製粉乳の厚生労働大臣の承認審査を行う際の安全性等を確認するための審査事項の設定に際し、2019年（令和元年）10月9日付けで、厚生労働大臣から、「ビフィズス菌及び乳酸菌の菌末を原材料として使用する調製粉乳に

関して、同大臣の承認に当たり審査すべき事項を設定することについての評価の要請」があった。委員会は、菌末を添加する育児用調製粉乳の安全確保のため、科学的な検証を行うこととし、同年 10 月 15 日の第 761 回委員会会合において設置が決定された、菌末を原材料として使用する調製粉乳に関するワーキンググループにおいて、4 回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2021 年（令和 3 年）3 月 9 日の第 807 回委員会会合で評価書を決定し、厚生労働省に結果を通知した。

【「乳及び乳製品の成分規格等に関する省令に基づく調製粉乳の審査事項」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20191009002>

<合成型肥育ホルモンに関する評価>

2014 年（平成 26 年）3 月 20 日付で酢酸トレンボロン及びゼラノールについて、厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受け、2016 年度（平成 28 年度）に評価を実施した酢酸メレンゲステロールでの経験を踏まえ、「内分泌活性を有する動物用医薬品の食品健康影響評価の考え方」（平成 30 年 6 月 1 日動物用医薬品専門調査会決定）に基づき、酢酸トレンボロン及びゼラノールについて、それぞれ 2020 年（令和 2 年）8 月 18 日の第 787 回及び 12 月 22 日の第 801 回委員会会合において評価書を決定し、厚生労働省に通知した。

【「酢酸トレンボロン」に関する食品健康影響評価】 【「ゼラノール」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20140325209>



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20140325010>

⑨ 2021 年度（令和 3 年度）

<食品及び器具・容器包装中の鉛に関する評価>

2003 年（平成 15 年）7 月 1 日付けで厚生労働省から食品健康影響評価の要請を受け、2007 年度（平成 19 年度）に自ら評価案件として選定した「食品及び器具・容器包装中の鉛」に関

する食品健康影響評価について、2012年(平成24年)3月の化学物質・汚染物質専門調査会幹事会による一次報告を経て、2019年(平成31年)4月に「鉛ワーキンググループ」を委員会に設置し、2019年度(令和元年度)から8回の審議を行った後、審議結果を取りまとめ、2021年(令和3年)6月29日の第822回委員会会合において評価書を決定し、消費者庁、厚生労働省、農林水産省、環境省及び経済産業省に通知した。

【「食品及び器具・容器包装中の鉛」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20210629388>

<アレルギー物質を含む食品に関する評価>

2015年度(平成27年度)に自ら評価案件として選定した「アレルギー物質を含む食品に関する食品健康影響評価」について、2017年(平成29年)10月に「アレルゲンを含む食品に関するワーキンググループ」を委員会に設置し、2017年度(平成29年度)から15回の審議を行い、科学的知見が豊富な「卵」を評価の対象とし、「アレルゲンを含む食品(卵)」の審議結果を取りまとめ、2021年(令和3年)6月8日の第819回委員会会合で評価を終了し、消費者庁及び厚生労働省に評価結果を通知した。

【「アレルゲンを含む食品(卵)」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20210608325>

⑩ 2022年度(令和4年度)

<農薬の再評価>

2022年(令和4年)9月28日付けで農林水産省から最初の農薬再評価に係る評価要請として、チオベンカルブ、チフルザミド、ブタクロールについての評価要請があり、当該3品目は農薬第一専門調査会において審議することとなった。その後、2023年(令和5年)1月20日の農薬第一専門調査会第12回会合から審議を開始した。

<ぶどう酒の製造に用いる添加物に関する評価>

2021年(令和3年)9月28日付けで厚生労働省から添加物の規格基準改正に係る評価要請と

して、硫酸銅の評価要請があり、ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループにおいて、2021年度（令和3年度）から4回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2022年（令和4年）8月9日第870回委員会会合において、「硫酸銅」に関する食品健康影響評価について決定し、厚生労働省に通知した。

2022年（令和4年）1月25日付けで厚生労働省から添加物として新たに定め、規格基準を設定数にあたっての評価要請として、フィチン酸カルシウムの評価要請があり、ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループにおいて、2021年度（令和3年度）から3回審議を行った後、審議結果をとりまとめ、2022年（令和4年）9月6日第872回委員会会合において、「フィチン酸カルシウム」に関する食品健康影響評価について決定し、厚生労働省に通知した。

【「硫酸銅」に関する食品健康影響評価】

【「フィチン酸カルシウム」に関する食品健康影響評価】



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20210928209>



<https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20220125256>

### (3) リスクプロファイル

委員会では、食中毒原因微生物等に関する食品健康影響評価に関連し、食品健康影響評価のためのリスクプロファイルを作成している。2013年度（平成25年度）以降作成及び改訂したものは以下のとおりである。

#### <鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli*>

カンピロバクターについては、「鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニ/コリ」に関する食品健康影響評価の決定後に蓄積した知見及び食品安全委員会が実施する食品安全確保総合調査の結果を踏まえ、リスク低減策の提案も含め、微生物・ウイルス専門調査会において、2017年度（平成29年度）から3回の審議を経て審議結果を取りまとめ、2018年（平成30年）5月8日の第695回委員会会合において、「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli*～」を決定・公表した。

その後、微生物・ウイルス専門調査会において、2020年度（令和2年度）から3回の審議を経て審議結果を取りまとめ、2021年（令和3年）6月22日の第821回委員会会合において、「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli*～（改訂版）」を決定・公表した。

#### <ノロウイルス>

ノロウイルスについては、微生物・ウイルス専門調査会において、2018年度（平成30年度）



から2回の審議を行った後、審議結果を踏まえ、現時点の問題点及び今後の課題について、様々な関係者がそれぞれの視点で取組みに活用できる形でリスクプロファイルを取りまとめ、2018年（平成30年）11月20日の第721回委員会会合において、「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～ノロウイルス～」を決定・公表した。

#### （４） ファクトシート

委員会では、食品の安全性に係るハザードについて、ファクトシート（科学的知見に基づく概要書）を作成している。2013年度（平成25年度）以降作成した代表的なものは以下のとおりである。

##### <クロム>

2010年度（平成22年度）に自ら評価案件候補として提案があり、2010年（平成22年）12月16日の第36回企画専門調査会で自ら評価案件候補とはしないが、「国民に対する情報提供を行うもの」と整理され、2011年度（平成23年度）食品安全確保総合調査でファクトシート（案）を作成した。

ファクトシート（案）について、2013年（平成25年）6月17日の第478回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

##### <調理器具に用いられているシリコーン>

2010年度（平成22年度）に自ら評価案件候補として提案があり、2010年（平成22年）12月16日の第36回企画専門調査会で自ら評価案件候補とはしないが、「国民に対する情報提供を行うもの」と整理され、2011年度（平成23年度）食品安全確保総合調査でファクトシート（案）を作成した。

ファクトシート（案）について、2013年（平成25年）6月17日の第478回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

##### <シガテラ>

2010年度（平成22年度）に自ら評価案件候補として提案があり、2010年（平成22年）12月16日の第36回企画専門調査会で自ら評価案件候補とはしないが、「情報収集を行うもの」と整理され、引き続き自主的に情報収集を行い、ファクトシート（案）を作成した。

ファクトシート（案）について、2013年（平成25年）12月16日の第498回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

##### <ラップフィルムから溶出する物質>

2010年度（平成22年度）に自ら評価案件候補として提案があり、2010年（平成22年）12月16日の第36回企画専門調査会で自ら評価案件候補とはしないが、「国民に対する情報提供を行うもの」と整理され、2011年度（平成23年度）食品安全確保総合調査でファクトシート（案）を

作成した。

ファクトシート（案）について、2014年（平成26年）3月31日の第509回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

#### <麻痺性貝毒>

2013年度（平成25年度）に「シアノトキシン」として自ら評価案件候補としての提案があり、2014年（平成26年）1月31日の第9回企画等専門調査会で自ら評価案件候補とはしないが、「シアノトキシン」に関連し、「麻痺性貝毒」について、ファクトシートの作成候補とする旨、2014年（平成26年）2月10日の第502回委員会会合で報告し、ファクトシート（案）を作成した。

ファクトシート（案）について、2014年（平成26年）11月25日の第539回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

#### <アニサキス>

2011年度（平成23年度）に自ら評価案件候補として提案があり、2012年（平成24年）2月3日の第2回企画等専門調査会で自ら評価案件候補とはしないが、「国民に対する情報提供を行うもの」と整理され、ファクトシート（案）を作成した。

ファクトシート（案）について、2014年（平成26年）12月9日の第541回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

#### <慢性消耗病>

CWDに関する知見の整理について専門委員より提案があったことを受けて、2017年（平成29年）5月17日の第104回プリオン専門調査会及び2017年（平成29年）10月11日の第107回プリオン専門調査会の審議を経てファクトシート（案）をとりまとめた。

ファクトシート（案）について、2017年（平成29年）10月24日の第670回委員会会合で報告し、ホームページで公表した。

## 4 食品の安全性の確保に関する施策の実施状況の監視

法では、委員会の所掌事務の一つとして、食品健康影響評価の結果に基づき講じられる施策の実施状況を監視し、必要があると認めるときは、内閣総理大臣を通じて関係各大臣に勧告することを規定している。

各年度の実施状況の調査結果は、以下のとおりである。

### ① 第18回実施状況調査

前回までの実施状況調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（9分野※1 177品目）に加え、2012年（平成24年）4月から9月までに食品健康影響評価を通知した品目（9分野※2 64品目）の計241件について調査を実施した。実施後、118品目がリスク管

理措置済み、123品目が次回への調査審議となった。この結果を、2013年（平成25年）11月18日の第494回委員会会合において報告した。

※1 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、かび毒・自然毒等、新開発食品、肥料・飼料等、その他である。

※2 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、プリオン、遺伝子組換え食品等、肥料・飼料等である。

調査の際、以下の品目について厚生労働省からヒアリングを行った。

**【動物用医薬品】**

フルベンダゾール（2010年（平成22年）1月評価結果通知）

レバミゾール（2010年（平成22年）3月評価結果通知）

さらに、前回ヒアリングを実施した品目のうち、1年間進捗が見られない以下の品目について、再度厚生労働省からヒアリングを行った。

**【農薬】**

クロルピリホス（2007年（平成19年）3月評価結果通知）

**【動物用医薬品】**

クロルスロン（2010年（平成22年）7月評価結果通知）

ブロチゾラム（2008年（平成20年）3月評価結果通知）

カナマイシン（2007年（平成19年）5月評価結果通知）

**【汚染物質・化学物質】**

ベンゼン（2008年（平成20年）11月評価結果通知）ほか、清涼飲料水の規格基準の見直しに関連する品目

② 第19回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（9分野※3 123品目）に加え、2012年（平成24年）10月から2013年（平成25年）3月までに食品健康影響評価を通知した品目（9分野※4 122品目）の計245件について調査を実施した。実施後、62品目がリスク管理措置済み目、183品目が次回への調査審議となった。この結果を、2014年（平成26年）7月29日の第524回委員会会合において報告した。

※3 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、かび毒・自然毒等、新開発食品、肥料・飼料等、その他である。

※4 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、プリオン、遺伝子組換え食品等、肥料・飼料等、その他である。

③ 第20回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（9分野※5 183品目）に加え、2013年（平成25年）4月から2014年（平成26年）3月までに食品健康影響評価を通

知した品目（10分野※6 259品目）の計442件について調査を実施した。実施後、202品目がリスク管理措置済み、240品目が次回への調査審議となった。この結果を、2016年（平成28年）3月29日の第600回委員会会合において、報告した。

※5 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、かび毒・自然毒等、肥料・飼料等、その他である。

※6 10分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、プリオン、かび毒・自然毒等、遺伝子組換え食品等、肥料・飼料等、その他である。

#### ④ 第21回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（9分野※7 240品目）に加え、2014年（平成26年）4月から2015年（平成27年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（12分野※8 234品目）の計474件について調査を実施した。実施後、355品目がリスク管理措置済み、119品目が次回への調査審議となった。この結果を、2017年（平成29年）9月19日の第666回委員会会合において、報告した。

※7 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、汚染物質、器具・容器包装、微生物・ウイルス、かび毒・自然毒等、肥料・飼料等、その他である。

※8 12分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、汚染物質、器具・容器包装、微生物・ウイルス、プリオン、かび毒・自然毒等、遺伝子組換え食品等、新開発食品等、肥料・飼料等、その他である。

#### ⑤ 第22回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（6分野※9 119品目）に加え、2015年（平成27年）10月から2016年（平成28年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（10分野※10 228品目）の計347件について調査を実施した。実施後、147品目がリスク管理措置済み、200品目が次回への調査審議となった。この結果を、2018年（平成30年）1月16日の第680回委員会会合において、報告した。

※9 6分野の内訳は、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、かび毒・自然毒等、肥料・飼料等である。

※10 10分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、微生物・ウイルス、プリオン、遺伝子組換え食品等、新開発食品、肥料・飼料等、その他である。

#### ⑥ 第23回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（8分野※11 200品目）に加え、2016年（平成28年）10月から2017年（平成29年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（9分野※12 199品目）の計399件について調査を実施した。実施後、316品目がリスク管理措置済み、83品目が次回への調査審議となった。この結果を、2019年（平成31年）2月19日の第731回委員会会合において、報告した。

※11 8分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、かび毒・自然毒等、新開発食品、肥料・飼料等である。

※12 9分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、化学物質・汚染物質、プリオン、かび毒・自然毒等、遺伝子組換え食品等、新開発食品、肥料・飼料等である。

#### ⑦ 第24回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（7分野※13 83品目）に加え、2017年（平成29年）10月から2018年（平成30年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（10分野※14 186品目）の計269件について調査を実施した。実施後、182品目がリスク管理措置済み、87品目が次回への調査審議となった。この結果を、2020年（令和2年）2月18日の第773回委員会会合において、報告した。

※13 7分野の内訳は、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、かび毒・自然毒等、新開発食品、肥料・飼料等である。

※14 10分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、プリオン、遺伝子組換え食品等、肥料・飼料等、その他である。

#### ⑧ 第25回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（7分野※15 87品目）に加え、2018年（平成30年）10月から2019年（令和元年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（12分野※16 154品目）の計241件について調査を実施した。実施後、158品目がリスク管理措置済み、83品目が次回への調査審議となった。この結果を、2021年（令和3年）3月16日の第808回委員会会合において、報告した。

※15 7分野の内訳は、農薬、動物用医薬品、汚染物質、器具・容器包装、かび毒・自然毒等、新開発食品等、肥料・飼料等である。

※16 12分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、汚染物質、器具・容器包装、微生物・ウイルス、プリオン、遺伝子組換え食品等、新開発食品等、肥料・飼料等、薬剤耐性菌、その他である。

#### ⑨ 第26回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（8分野※17 83品目）に加え、2019年（令和元年）10月から2020年（令和2年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（12分野※18 98品目）の計181件について調査を実施した。実施後、111品目がリスク管理措置済み、70品目が次回への調査審議となった。この結果を、2021年（令和3年）12月14日の第842回委員会会合において、報告した。

※17 8分野の内訳は、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、かび毒・自然毒等、新開発食品、肥料・飼料等、薬剤耐性菌である。

※18 12分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、プリオン、かび毒・自然毒等、遺伝子組換え食品等、新開発食品、肥料・飼料等、薬剤耐性菌である。

#### ⑩ 第27回実施状況調査

前回までの調査において、具体的な措置が講じられていなかった品目（6分野※19 67品目）に加え、2020年（令和2年）10月から2021年（令和3年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（11分野※20 141品目）の計208件について調査を実施した。実施後、131品目がリスク管理措置済み、77品目が次回への調査審議となった。この結果を、2022年（令和4年）12月20日の第883回委員会会合において、報告した。

※19 6分野の内訳は、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、プリオン、かび毒・自然毒等、新開発食品である。

※20 11分野の内訳は、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、化学物質・汚染物質、微生物・ウイルス、プリオン、遺伝子組換え食品等、肥料・飼料等、薬剤耐性菌、その他である。

## 5 科学的調査及び研究の実施

### （1）研究・調査企画会議

2013年度（平成25年度）は、6月4日の調査・研究企画会議において、「食品安全確保総合調査の評価に関する指針」を定め、調査対象課題の評価を適切かつ公正に実施するために必要な基本的事項を定めた。

2014年度（平成26年度）は、「食品の安全性の確保のための研究・調査の推進の方向性について」（平成22年12月16日委員会決定。以下「ロードマップ」という。）の策定から4年が経過し、「テーマ選定から評価まで同一機関によって行われているのは不透明」「研究実施の委託契約において、再委託が多く、研究の主任研究者の位置づけがはっきりしない」「リスク管理にどの程度活用されているか不透明」等、事業全体の抜本的な改善が必要と指摘された内閣府行政事業レビューの結果から、近年の国際的に新しいリスク評価の方法の開発や研究の進展を踏まえ10年先の食品安全行政のあるべき姿を想定し、これからの5年間において委員会が推進すべき調査・研究の方向性を明確にするために、2014年（平成26年）12月16日の第542回委員会会合において、ロードマップの改正を以下のとおり行った。

・食のグローバル化、分析技術の進展等に対応し、よりリスク評価に活用できる成果を得るため、実施すべき研究・調査をより具体的に明示。実施すべき研究・調査の方向は、リスク評価に活用できる成果を得るため、

- ①危害要因・ばく露実態の評価に必要な科学的知見の集積
- ②健康影響発現メカニズムの解明
- ③新たなリスク評価方法等の確立

に焦点を当てて、研究・調査を実施することとした。

- ・内閣府行政事業レビューにおける議論を踏まえ「優先実施課題」をもとにした課題の選定
- ・事前評価・中間評価・事後評価の実施を明確化
- ・リスク評価への活用状況について追跡評価を実施、さらに研究事業・調査事業を総体として評価するために、新たにプログラム評価を導入

・研究・調査結果の活用については、より一層の成果を得るため、関係府省との共有、成果発表会の実施、査読誌における公表を通じて、活用をより図ることを明記

このロードマップの見直しに伴い、調査・研究企画調整会議の名称が「研究・調査企画会議」へ改称され、「研究・調査企画会議」に事前・中間評価部会、事後評価部会及びプログラム評価部会（以下「部会」と総称する。）が設置された。

各部会の概要や役割は以下のとおり。

#### （ア）事前・中間評価部会

事前・中間評価部会委員は、委員会の常勤委員と、食品の安全性の確保に優れた見識を有し、食品健康影響評価に精通する者のうちから委員長が指名する者から構成されている。

事前・中間評価部会においては、

- ① 研究・調査についての中期的方針の案の策定及びその見直しに関すること。
- ② 各年度において取り組むべき研究・調査の優先実施課題の案の選定に関すること。
- ③ 各年度において取り組むべき研究・調査の対象課題の案の選定に関する事前評価に関すること。
- ④ 2年以上の実施期間を要する研究課題の中間評価に関すること。
- ⑤ 部会に共通する事項に関すること。

について調査審議を行うこととされている。

#### （イ）事後評価部会

事後評価部会の構成員の概ね半数は、事前・中間評価部会の構成員とは異なる者をもって充てることとされており、事前・中間評価部会の外部有識者の委員と、その他委員長から指名された外部有識者の委員から構成されている。

事後評価部会においては、

- ① 実施期間を終了した研究課題の事後評価に関すること。
- ② 各年度において取り組まれた調査の対象課題の評価に関すること。

に取り組むこととされている。

#### （ウ）プログラム評価部会

プログラム評価部会の構成員は外部有識者をもって充てるものとされている。

プログラム評価部会においては、「食品安全委員会食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査のプログラム評価に関する指針」（平成28年12月2日研究・調査企画会議決定）（最終改正：令和4年2月18日）に基づき、研究事業・調査事業のプログラム評価（研究事業・調査事業の総体としての目標の達成度合いや副次的成果等についての評価）に関して調査審議を行うこととされている。また、研究事業及び調査事業の食品健康影響評価への活用状況等を把握するため、追跡評価を1年毎に実施している。

2016年（平成28年）12月2日に、研究・調査企画会議においてプログラム評価に必要な事

項を定めた「食品安全委員会食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査のプログラム評価に関する指針」を策定した。評価に当たっては、研究事業及び調査事業の総体としての目標の達成度合いを成否判定することを基本とし、実施したプロセスの妥当性や副次的成果、さらに、理解増進や研究基盤の向上等、次につながる成果を幅広い視野から捉えること、個別課題の成果に対して重複した評価が実施されないことがないよう、事後評価及び追跡評価の結果の活用により、事業全体として効果的かつ効率的に評価することとされている。

2019年（令和元年）5月8日に、研究・調査企画会議プログラム評価部会においてプログラム評価を実施し、評価結果をとりまとめ、6月25日第747回委員会会合へ報告した。

評価対象期間は、平成27年度～令和元年度（「食品の安全性の確保のための研究・調査の推進の方向性について」（平成22年12月16日委員会決定）の施行期間）であり、総合評価は「A」※であった。また、総合コメントとして以下の内容が示された。

○限られた予算の中で成果を挙げており、いずれの研究事業の成果も良好であり、必要性及び効率性は高い。

○食品健康影響評価やガイドラインの策定への活用のほか、論文化等への活用を含め、研究成果の活用率は95%であり、研究成果は着実に活用されており、高く評価できる。研究成果は、本来であれば、全てが論文化されるべきであるが、86%の研究課題が論文化されているという数字はこれに近く、ほぼ満足できると考えられる。

○論文化されたデータを食品健康影響評価書に活用できるよう、今後もフォローアップを行っていく必要がある。また、食品健康影響評価に活用される予定の研究成果については、活用までの工程等が示されると、より評価がしやすいと考えられる。

※総合評価の判定は、研究・調査制度の総合的な評価として、S、A、B、Cの4段階とし、各委員の判定を点数化して平均値を算出した。

（小数点以下は四捨五入）。

- S：研究・調査制度は予想以上の成果をあげた。（4点）
- A：研究・調査制度は概ね目標を達成した。（3点）
- B：研究・調査制度は目的の達成がやや不十分であった。（2点）
- C：研究・調査制度は目的の達成が不十分であった。（1点）

また、2019年度（令和元年度）は、ロードマップが2015年（平成27年）の見直しから5年が経過したことから、8月27日の第754回委員会会合において、以下の位置づけを明確化するロードマップの改正を行った。

・ 食のグローバル化、最先端の科学技術の食品分野への応用及び情報技術の発展（評価に利用可能な情報量の増大）等を踏まえ、リスク評価に活用できる成果を得るため、実施すべき研究・調査を具体的に明示。また、実施すべき研究・調査の方向については、

- ① ハザード・ばく露実態の評価に必要な科学的知見の集積
- ② 健康影響発現メカニズムの解明

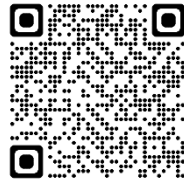


### ③ 新たなリスク評価方法等の活用

に焦点を当てて、研究・調査を実施することとした。

- ・ 透明性を確保するため、関係規程に基づき研究事業・調査事業の実施及び評価を行うことを明示
- ・ 研究・調査の活用に関して、より一層の成果を得るため、成果発表会の実施、学術誌等での公表促進等を明示

#### 【研究・調査活動に関するウェブページ】



<https://www.fsc.go.jp/chousa/>

## (2) 食品安全確保総合調査事業

食品安全確保総合調査事業（「調査事業」という。）については、以下の流れで毎年実施する調査課題が決定されている。

- ① 毎年度、ロードマップに基づき、当委員会において優先的に実施すべき研究課題（「食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題」）を決定
- ② 決定された優先実施課題に基づき、調査課題の仕様書を決定
- ③ 入札公告を実施
- ④ 総合評価落札方式・一般競争入札を実施し、調査請負者を決定する。

各調査課題については、調査事業終了後、事後評価部会における事後評価及びプログラム評価部会における追跡評価が行われ、リスク評価への活用状況が評価されている。

平成 25 年度は、「陰膳サンプルを用いた化学物質・汚染物質の分析調査」等 4 課題、平成 26 年度は、「動物用抗菌性物質の微生物学的影響についての調査」等 6 課題、平成 27 年度は、「フモニシンに係る食品健康影響評価に関する調査」等 6 課題、平成 28 年度は、「清涼飲料水中の化学物質（六価クロム）の規格基準改正に係る食品健康影響評価のための情報収集・調査」等 7 課題、平成 29 年度は、「海外における汚染物質等に係るばく露評価に関する実態調査」等 7 課題、平成 30 年度は、「ベンチマークドーズ法に関するガイダンス及び導入支援ソフトウェア等の現状調査」等 5 課題、令和元年度は、「ファクトシートのためのダイオキシン類及びヒスタミンの科学的知見の収集に関する調査」等 5 課題、令和 2 年度は、「加熱調理の科学的情報の解析及び画像の開発」等 6 課題、令和 3 年度は、「野生動物由来の食肉中のハザードに関する調査」等 3 課題、令和 4 年度は、「パーフルオロ化合物に係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理」等 6 課題の調査を実施した。

そのうち、主な調査事業は以下のとおりである。

平成 29 年度に実施した「海外における汚染物質等に係るばく露評価に関する実態調査」においては、有機汚染物質を対象として、国際評価機関や諸外国の評価機関等におけるばく露評価等に関する情報を収集し、整理を行った。調査結果については、汚染物質等専門調査会における審議において活用されている。

平成 30 年に実施した「ベンチマークドーズ法に関するガイダンス及び導入支援ソフトウェア等の現状調査」においては、海外のリスク評価機関等が、ベンチマークドーズ法を用いる際の考え方、手順等を整理したガイダンス等に関する情報の収集を行った。調査結果については、評価技術企画ワーキンググループにおいて審議された「食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針〔動物試験で得られた用量反応データへの適用〕」の審議資料作成の際の基礎情報として活用した。

また、令和 2 年度に実施した「加熱調理の科学的情報の解析及び画像の開発」においては、低温調理を含む種々の調理法を用いて、食材を変えた場合の調理工程の様子、調理品内部の加熱の状態等について、わかりやすい画像情報を開発・収集するとともに、画像が得られた時の調理条件を科学的情報として解析を行った。本調査で得られた情報については、食品安全啓発動画の素材として活用し動画を公開した。また、得られたデータ・写真を情報発信素材としてホームページ上で公開した。

その他の各調査課題の調査結果についても、食品健康影響評価、リスクプロファイル、ファクトシート、ガイドライン、リスクコミュニケーション等へ活用されている又は活用が見込まれている。

各年度における調査事業一覧は、資料編「5 食品安全確保総合調査課題一覧」を参照。

### (3) 食品健康影響評価技術研究事業

食品健康影響評価技術研究事業（「研究事業」という。）については、以下の流れで毎年実施する研究課題が決定されている。

- ① 毎年度、ロードマップに基づき、当委員会において優先的に実施すべき研究課題（「食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題」）を決定
- ② 決定された優先実施課題について e-Rad 等で公募
- ③ 応募課題を当委員会で審査し、採択課題を決定
- ④ 採択課題に対し委託費として研究費を配分

各研究課題については、研究事業終了後、事後評価部会における事後評価及びプログラム評価部会における追跡評価が行われ、リスク評価への活用状況が評価されている。

平成 25 年度は、「化学物質により誘発される肝肥大の毒性学的評価手法の確立と今後の問題点」等 5 課題、平成 26 年度は、「低水分含量食品中における食中毒細菌（サルモネラ、腸管出血性大腸菌）の菌数変動および生存確率予測モデルの開発」等 8 課題、平成 27 年度は、「食品に対する

乳児期のアレルギー性反応獲得メカニズムと発症リスク評価」等8課題、平成28年度は、「食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究」等7課題、平成29年度は、「合成樹脂製器具・容器包装のリスク評価における溶出試験法に関する研究」等6課題、平成30年度は、「食品に非意図的に混入する微量化学物質のリスク評価への *in silico* 評価手法の適用に関する研究」等8課題、令和元年度は、「二値反応の用量反応データを対象としたベンチマークドーズ計算ソフトウェアの開発研究」等9課題、令和2年度は、「ベイズ統計学に基づく推定手法を活用したアレルギー症状誘発確率の推計に関する研究」等9課題、令和3年度は、「遺伝子組換え台木と非組換え穂木との生体成分輸送に起因する食品安全性の評価点解明」等3課題、令和4年度は、「細胞培養技術を用いて製造される食肉のリスク評価手法に関する研究」等8課題を採択した。

そのうち、主な研究事業は以下のとおりである。

平成28年度に採択した「食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究」及び平成29年度に採択した「合成樹脂製器具・容器包装のリスク評価における溶出試験法に関する研究」において作成された溶出試験法案等については、「食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針」の作成において活用された。

令和元年度に採択した「二値反応の用量反応データを対象としたベンチマークドーズ計算ソフトウェアの開発研究」によって開発されたソフトウェアは、「食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針〔動物試験で得られた用量反応データへの適用〕」を補完する評価技術企画ワーキンググループ決定文書に記載された。

令和2年度に採択した「ベイズ統計学に基づく推定手法を活用したアレルギー症状誘発確率の推計に関する研究」では、実際の臨床データからベンチマークドーズ法を用い、アレルギー症状誘発確率の推定を行った。本研究で得られた成果は、アレルゲンを含む食品に関するファクトシートの知見整理の資料として活用予定である。

その他の各研究課題の成果についても、食品健康影響評価、リスクプロファイル、ファクトシート、ガイドライン、リスクコミュニケーション等へ活用されている又は活用が見込まれている。

各年度における研究事業一覧は、資料編「7 食品健康影響評価技術研究採択課題一覧」を参照。

## 6 リスクコミュニケーションの実施

リスクアナリシスを構成する、リスク評価・リスク管理・リスクコミュニケーションの3つの要素のうちリスクコミュニケーションについては、法第23条において、「関係者相互間の情報及び意見の交換を企画し、及び実施する」と規定されている。委員会では、設立当初より、対象者、テーマ、手法等を工夫しながらリスクコミュニケーションに積極的に取り組んでいる。

委員会設立から11年目となった2014年（平成26年）、委員会の新たな10年に向けて、より適切かつ効果的なリスクコミュニケーションを推進していくために、「リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会」（以下「勉強会」という。）を設置し、基本に立ち返って、食品の安

全性に関するリスクコミュニケーションの意義、目的、目的を達成するために必要な方法等の検討を行った。さらに、この検討結果を、委員会の運営に適切に反映させるため、12月8日第12回企画等専門調査会会合において、企画等専門調査会の下に「リスクコミュニケーションのあり方に関するワーキンググループ」を設置することが決定された。当該ワーキンググループにおいて報告書（「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方について」）を作成し、2015年（平成27年）5月14日第14回企画等専門調査会会合において取りまとめが行われた。本報告書では勉強会での議論の内容を基に、リスクコミュニケーションの定義やこれまでの取組における課題、食品分野におけるリスク、望ましいリスクコミュニケーションのあり方及び委員会や関係者（行政機関、食品事業者、消費者、科学者やメディア）に期待される姿勢等が盛り込まれている。本報告書は、現在委員会が行うリスクコミュニケーション活動の基本となっている。

なお、2009年（平成21年）に消費者庁が設立された以降は、委員会及びリスク管理機関が行うリスクコミュニケーションの事務の調整を消費者庁が行い、関係府省庁と連携したリスクコミュニケーションにも取り組んでいる。

## （1）意見交換会等の開催

### ① 2013年度（平成25年度）

#### （ア）意見交換会等

- ・ 地方公共団体と共催で、サイエンスカフェの手法を取り入れた形式や、少人数グループによる意見交換方式などの効果的な形式での意見交換会、消費者団体と連携した意見交換会、地域の専門家を対象とした意見交換会を実施した。
- ・ 2013年（平成25年）5月に評価結果を通知した「牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し」に係る食品健康影響評価（我が国の検査対象月齢の引き上げ）について、当該評価書への意見・情報の募集期間中に意見交換会を実施し、その後、厚生労働省・消費者庁と連携して、「牛海綿状脳症対策の見直しに関する説明会」も実施した。また、地方公共団体や大学・研究機関等へ本テーマを中心とした講師派遣を行った。
- ・ 食品中の放射性物質について、消費者庁、厚生労働省及び農林水産省と連携した説明会を全国各地で実施した。委員会と地方公共団体との緊密な連携や情報の共有を図るため、地方公共団体向け学習会や全国食品安全連絡会議を開催し、「牛海綿状脳症（BSE）対策の見直しに係る食品健康影響評価」や「食品中のリステリアのリスク評価」について意見交換を実施した。



BSE対策の見直しについての意見交換会において、質疑に応える姫田尚食品安全委員会事務局長と酒井健夫プリオン専門調査会座長（『食品安全 第35号』より）

### (イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 食の安全ダイヤルについては、一般消費者等から 783 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、牛海綿状脳症（BSE）関連の相談が多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供した。

### (ウ) その他

- ・ 一般消費者に対し、食品の安全性についての体系的な理解を目的とした「食品を科学するーリスクアナリシス（分析）講座ー」を全 6 回の連続講座として実施し、委員会の各委員がそれぞれの専門分野についての講義を行った。



「食品を科学するーリスクアナリシス（分析）講座ー」の会場の様子（『食品安全 第 38 号』より）

- ・ 小学校高学年や中学生を対象として、食の安全について楽しく学ぶイベント「ジュニア食品安全委員会」（25 名参加）、「ジュニア食品安全ゼミナール」（5 回開催、計 877 名参加）を開催した。



2013 年（平成 25 年）8 月 8 日に開催された「ジュニア食品安全委員会」での記念撮影（『食品安全 第 36 号』より）

- ・ 訪問学習の受入れを行い（3 回）、委員会を訪れた学生に対し、委員会の取組や食品の安全性に関する説明・意見交換を行った。

## ② 2014 年度（平成 26 年度）

### (ア) 意見交換会等

- ・ 地方公共団体や消費者団体等と連携し、地域のオピニオンリーダーや専門家等を対象に、少人数・参加型での双方向性が高い開催方式での意見交換会を実施した。



「酒と健康」をテーマに佐藤洋委員長が解説している様子（『食品安全 第 42 号』より）



福井県で開催した『食品添加物』についての意見交換会の様子（『食品安全 第42号』より）

- ・ トランス脂肪酸やアクリルアミドなどをテーマに報道関係者との意見交換会を行い、連携の充実・強化を図った。
- ・ 主に食品中の放射性物質や農薬等について、消費者庁、厚生労働省及び農林水産省並びに地方公共団体と連携した意見交換会を実施した。
- ・ 地方公共団体との全国食品安全連絡会議や学習会を開催し、食品安全に関するリスクアナリシスの基本的事項や食品健康影響評価に関する情報提供を行った。

(イ) 食の安全ダイヤルへの対応

- ・ 食の安全ダイヤルについては、一般消費者等から 708 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、人工甘味料などの食品添加物の相談が多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供した。

(ウ) その他

- ・ 「リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会」を設置し、6回の会合を行った。



外部有識者を交えて行われた「リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会」の様子（『食品安全 第39号』より）

- ・ 「リスクコミュニケーションのあり方に関するワーキンググループ」を設置し、2回の会合を行った。
- ・ 小学校高学年や中学生を対象として、食の安全について楽しく学ぶイベント「ジュニア食品安全委員会」（13名参加）、「ジュニア食品安全ゼミナール」（5回開催、計904名参加）を開催した。



熊谷委員長より「ジュニア食品安全委員会委員」任命書がひとりずつ手渡されている様子（『食品安全 第40号』より）



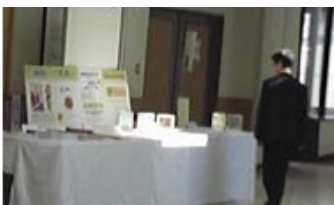
広島市立戸山中学校で実施したジュニア食品安全ゼミナールの様子（『食品安全 第41号』より）

- ・ 消費者の食品安全に関する体系的な理解の促進を目的に、委員会委員等による連続講座を実施した。講座の資料、質疑内容についてはインターネットで配信するとともに、講座の内容をまとめたDVDを作成し、地方公共団体等へ配布した。
- ・ 食育推進全国大会でブース出展し、リスクアナリシスの考え方や委員会の役割に関するパネルの展示や、パンフレット類の配布を行った。



食育推進全国大会の様子。「食品安全」もポスターとして掲示。（『食品安全 第40号』より）

- ・ 日本毒性学会や日本獣医学会、日本薬理学会にて、食品の安全を守る仕組みについてブース展示を行い、リスクアナリシスの考え方の普及を図った。



日本獣医学会学術集会でのブース出展の様子（『食品安全 第41号』より）

### ③ 2015年度（平成27年度）

#### （ア）意見交換会等

- ・ 初めての取組として、栄養教諭等の学校教育関係者を主な対象として、地方公共団体との共催の下、食品添加物、肉の生食のリスク等のテーマで意見交換会を実施した。



栄養教諭等の学校教育関係者を主な対象とした意見交換会の様子（『食品安全 第44号』より）

- ・ 食品中の放射性物質及び農薬について、消費者庁、厚生労働省、農林水産省、環境省、関係地方公共団体と連携した意見交換会を開催した。
- ・ いわゆる「健康食品」についての報告書及びメッセージに関して、報告書取りまとめの際に、記者ブリーフィングを行った。さらに、報告書の内容を広く消費者に周知するため、冊子「いわゆる「健康食品」について」を作成し、消費生活センター、地方公共団体、図書館等全国関係機関に広く配布するとともに、「いわゆる『健康食品』に関する説明会～消費者の皆様を対象に～」を開催した。

【冊子「いわゆる「健康食品」について」】



- ・ アクリルアミドワーキンググループにおいて評価書案を取りまとめた際に、記者ブリーフィングを行い、評価書案のパブリックコメント募集中に「加熱時に生じるアクリルアミドの食品健康影響評価及び低減対策について」のセミナーを実施した。
- ・ 食品添加物や食中毒をテーマに報道関係者との意見交換会を実施し、連携の充実・強化を図るとともに、消費者団体等関係者と情報交換会を行った。
- ・ 地方公共団体との全国食品安全連絡会議を開催し、トランス脂肪酸やいわゆる「健康食品」に関するメッセージ等に関する情報提供を行った。



全国食品安全連絡会議の様子（『食品安全 第45号』より）

(イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から 737 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、トランス脂肪酸について説明した委員会のウェブページを 2015 年（平成 27 年）6 月に更新したこともあり、トランス脂肪酸関連の問い合わせが多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供した。

【平成 27 年 6 月に更新したトランス脂肪酸についてのウェブページ】





[https://www.fsc.go.jp/osirase/trans\\_fat.html](https://www.fsc.go.jp/osirase/trans_fat.html)

(ウ) その他

- ・ 第14回企画等専門調査会において、報告書「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方について」を取りまとめた。
- ・ 消費者の食品の安全性に関する体系的な理解の促進を目的に、委員会委員らによる連続講座を実施した。講座の資料、質疑内容については委員会のウェブサイトに掲載した。
- ・ 日本家庭科教育学会、日本毒性学会、日本調理科学会、日本環境変異原学会、日本毒性病理学会、日本薬理学会にて、食品の安全を守る仕組みについてブース展示を行い、リスクアナリシスの考え方の普及を図った。
- ・ 食育推進全国大会においてブース出展し、リスクアナリシスの考え方や委員会の役割に関するパネルの展示や、パンフレット類の配布を行った。



食育推進全国大会の様子（『食品安全 第43号』より）

④ 2016年度（平成28年度）

(ア) 意見交換会等

- ・ 食品添加物等の関心の高いハザードをテーマに、栄養教諭や家庭科教諭等の学校教育関係者を対象者として意見交換会を開催した。



学校教育関係者を対象者とした意見交換会の様子（『食品安全 第48号』より）

- ・ 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る評価書案に係る意見交換会を開催した。



牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る評価書案に係る意見交換会の様子『食品安全 第48号』より）

- ・ 消費者庁等の関係省庁と連携し、食品中の放射性物質や牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し、食品の安全を守る取組に関する意見交換を開催した。
- ・ 地方公共団体との全国食品安全連絡会議を開催し、意見交換会の実施状況等に関する情報提供を行った。



全国食品安全連絡会議において、村田委員がトランス脂肪酸とアクリルアミドについて講演している様子（『食品安全 第49号』より）

- ・ 食中毒等をテーマに、報道関係者や消費者団体との意見交換会や情報交換会を行った。

#### (イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から 701 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、食品添加物や遺伝子組み換え食品などの相談が多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトやFacebook 等を通じて情報を提供した。

#### (ウ) その他

- ・ 委員会委員によるリスクアナリシス講座の地方開催を行うとともに、リスクアナリシス講座を刷新し、「加熱時に生じるアクリルアミドの食品健康影響評価及び低減対策」をテーマに「精講：食品健康影響評価」を開催した。
- ・ 「子ども霞が関見学デー」の参加プログラムとして「ジュニア食品安全委員会」（8名参加）を開催した。
- ・ PRION 2016、ifia Japan 2016、日本調理科学会、日本栄養改善学会、日本毒性病理学会及び日本環境変異原学会において、食品の安全を守る仕組みについてのブース展示を行った。



PRION2016の様子(『食品安全 第47号』より)

- ・ 食育推進全国大会において、リスクアナリシスの考え方や委員会の役割に関する情報提供を行った。



食育推進全国大会の食品安全委員会の出展ブースの様子(『食品安全 第48号』より)

## ⑤ 2017年度(平成29年度)

### (ア) 意見交換会等

- ・ 栄養教諭や家庭科教諭等の学校教育関係者等を重点対象者とし、食品添加物等の関心の高いハザードをテーマに、地方公共団体と共催して意見交換会を開催した。



栄養教諭や家庭科教諭等の学校教育関係者等を重点対象者とした意見交換会の様子(『食品安全51号』より)

- ・ カフェインをテーマに広く一般消費者を対象とした「みんなのための食品安全勉強会」を、加熱時に生じるアクリルアミドをテーマに食品関係事業者や研究者等を対象とした「精講：食品健康影響評価」を開催した。
- ・ 消費者庁等の関係省庁と連携し、主に食品中の放射性物質をテーマに食品の安全性に係る意見交換会を開催した。
- ・ カフェイン、フモニシンをはじめとしたかび毒、無菌充填豆腐並びに硫酸アルミニウムアンモニウム及び硫酸アルミニウムカリウムをテーマに、報道関係者及び消費者団体を対象とした意見交換会を行った。
- ・ 地方公共団体のリスクコミュニケーションをより効果的に実施するため、各地方公共団体の

リスクコミュニケーションの実態調査を行うとともに、全国食品安全連絡会議を開催し、外部講師情報等の共有化を図るとともに、実用的な事例の報告や有効なリスクコミュニケーションを実施するための意見交換を行った。

(イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から 611 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、乳児ボツリヌス症による死亡事故があったことから、ボツリヌス症の問い合わせが増えた。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供した。

(ウ) その他

- ・ 食育推進全国大会において、リスクアナリシスの考え方や委員会の役割に関する情報提供を行った。
- ・ 消費者庁と連携して「子ども霞が関見学デー」（146 名参加／参加全省庁の参加者数は 43,484 名）に初めて出展した。



「子ども霞が関見学デー」において、ゲームで楽しく学ぶ子どもたちの様子（『食品安全 第 52 号』より）

- ・ 訪問学習の受入れを行い（5 回）、公衆衛生を学ぶ大学生及び大学院生や厚生労働省のインターンシップ生に対して、食品の安全に係る科学的基礎知識について講義を行った。
- ・ 公益社団法人日本栄養士会、一般財団法人食品産業センター及び公益社団法人日本医師会との間で、連携強化に向けた意見交換を行った。特に、日本栄養士会とは、同会が制定した「栄養の日・栄養週間 2017」の後援を行ったほか、県栄養士会の要請に応じた講師を派遣するとともに、委員会からの情報を同会のウェブサイトを通じて提供した。
- ・ 日本毒性学会、日本先天異常学会、日本食品微生物学会及び日本毒性病理学会において、委員による講演等と併せてブース展示を行った。



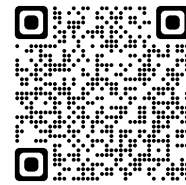
日本食品微生物学会学術総会でのブース展示の様子（『食品安全 第 53 号』より）



日本毒性病理学会と共催で行った市民講座の様子（『食品安全 第54号』より）

- ・ 公式 YouTube において、「精講：食品健康影響評価」及び「みんなのための食品安全勉強会」の講義を動画配信した。
- ・ 改訂版「科学の目で見える食品安全」について、全国の食品安全担当部局に情報提供を行うとともに、「お母さんになるあなたへ」にリステリアによる食中毒、ハチミツの摂取による乳児ボツリヌス症等の新たな情報を追加し、情報提供を行った。

【「科学の目で見える食品安全」】



<https://www.fsc.go.jp/kids-box/>

（キッズボックスページ下部に掲載）

⑥ 2018 年度（平成 30 年度）

（ア）意見交換会等

- ・ 広く一般消費者を対象とし、「食べものと微生物」及び「知って防ごう食中毒」をテーマに「みんなのための食品安全勉強会」を、食品関係事業者や研究者等を対象とし、鶏肉等におけるカンピロバクター・ジェジュニ/コリをテーマに「精講：食品健康影響評価のためのリスクプロファイル」を開催した。
- ・ 地方公共団体と共催で、栄養教諭、学校栄養士等学校教育関係者を対象とし、食中毒予防、食品添加物等をテーマに意見交換を行い、グループワークを通して、テーマについての理解を深めた。



栄養教諭、学校栄養士等学校教育関係者を対象とした意見交換会におけるグループワークの様子と作成したクリアファイル（『食品安全 第56号』より）

- ・ 消費者庁等の関係省庁と連携し、食品中の放射性物質等をテーマに意見交換会を開催した。トランス脂肪酸、カンピロバクターを中心とした食中毒及びノロウイルスをテーマに、報道関係者及び消費者団体を対象とした意見交換会を行った。
- ・ 地方公共団体のリスクコミュニケーションをより効果的に実施するため、各地方公共団体のリスクコミュニケーションの実態調査を行うとともに、全国食品安全連絡会議を開催して、地方公共団体が実施したリスクコミュニケーションの優良事例の報告及び有効なリスクコミュニケーションを実施するための意見交換を行った。
- ・ 公益社団法人日本栄養士会及び一般財団法人食品産業センターとの間で、連携強化に向けた意見交換を行った。日本栄養士会とは、2017年度（平成29年度）に引き続き、同会が制定した「栄養の日・栄養週間2018」の後援を行ったほか、キッズボックスの改善のため、同会会員のうち学校関係者を対象としたアンケート調査の実施に協力を得た。

#### （イ）食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から633件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、週刊誌に食品添加物の安全性についての記事が出たこともあり、食品添加物の問い合わせが多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。加えて、消費者の関心が高いと考えられる質問については、Facebook等を通じて解説を広く情報提供した。

#### （ウ）その他

- ・ 消費者庁と共同で「こども霞が関見学デー」（190名参加／参加全省庁の参加者数は43,856名）に出展した。
- ・ 中学から大学・大学院までの学生、JICA研修生等の訪問学習を受け入れ（6回）、食品の安全確保の仕組みについての講義を行った。
- ・ 「食品の安全性に関する用語集」について、用語の検索・閲覧が容易にできるようにするため、ウェブサイトの用語集ページを整理し、html形式に変更し、新規作成及び見直しが必要な用語については、用語の説明文を検討し、更新作業を行った。

#### 【食品の安全性に関する用語集】



<https://www.fsc.go.jp/yougoshu.html>

- ・ 日本栄養改善学会、日本食品微生物学会及び日本食品衛生学会において、委員による講演と併せてブース展示を行った。また、Asian Pacific Prion Symposium2019 において、事務局職員による講演と併せてブース展示を行った。

## ⑦ 2019 年度（令和元年度）

### （ア）意見交換会等

- ・ 食品事業者及び行政担当者を対象とし、鶏肉等におけるカンピロバクター・ジェジュニ/コリをテーマに「精講：食品健康影響評価のためのリスクプロファイル」を鹿児島県及び福岡県で開催し、鶏肉の消費の多い地域においてカンピロバクター属菌に関する最新の情報を提供したほか、ノロウイルスをテーマに「精講：食品健康影響評価のためのリスクプロファイル」を東京都と大阪府で開催した。



食品事業者及び行政担当者を対象とした講演の様子（『食品安全 57号』より）

- ・ 地方公共団体と共催で、栄養教諭等の学校教育関係者を重点対象とし、食品安全の基礎的な考え方に加え、食中毒や遺伝子組換え等の関心の高いテーマについての意見交換会を実施した。意見交換会ではグループワークを行い理解を深めた。



栄養教諭等の学校教育関係者を重点対象とした意見交換会の様子（『食品安全 57号』より）

- ・ 地方公共団体が実施する意見交換会等に講師派遣を行い、食中毒予防、カフェインの過剰摂取の防止及びいわゆる「健康食品」の適切な使用について、情報発信を行った。

- ・ 食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針をテーマに、報道関係者及び消費者団体を対象に意見交換会を行った。
- ・ 全国食品安全連絡会議を開催し、各地方公共団体が行ったリスクコミュニケーションについての調査の結果をフィードバックするとともに、地方公共団体や委員会のそれぞれの役割分担について意見交換を行った。
- ・ 一般財団法人食品産業センターが主催する、流通事業者を含む食品関係事業者との意見・情報交換会に参加し、食品の安全に不安を感じた消費者からの問合せ状況や「食品の安全性確保の基本的な考え方」について情報交換を行った。
- ・ 一般消費者を対象とした講座「みんなのための食品安全勉強会」の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を見合わせた。
- ・ 食品中の放射性物質について理解を深めるため、消費者庁等の関係省庁と連携し、児童を対象とした「夏休み 2019 宿題・自由研究大作戦！」に出展し、有識者による科学実験などを交えながら、情報提供及び意見交換を行った。また、食品中の放射性物質について理解を深めるため、消費者庁等の関係省庁と連携し、一般消費者を対象とした「食品に関するリスクコミュニケーション」を開催し、意見交換を行った。

#### (イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から 576 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容としては、2020 年（令和 2 年）1 月に国内で新型コロナウイルス感染者が確認されたこともあり、新型コロナは食品から感染しうるのかなど、コロナ関連の相談が新たに発生した。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。さらに、「食の安全ダイヤル」を通じて消費者から良く尋ねられる食中毒予防などに関する質問等については、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供した。

#### (ウ) その他

- ・ 消費者庁と連携し、「こども霞が関見学デー」（201 名参加／参加全省庁の参加者数は 46,952 名）に出展し、ゲームを通して手洗いや消毒の大切さについて理解を図った。
- ・ 国際食品素材/添加物展・会議、ヘルスフードエキスポ（ifia/HFE JAPAN）、日本毒性学会、日本調理科学会、日本食品衛生学会並びに日本食品微生物学会において、委員又は事務局職員による講演や委員会の業務に関するブース展示を行った。
- ・ 中学生・高校生を対象とした、食品の安全について理解を深めるための認知心理学を応用した副教材の作成を検討するため、研究事業による開発を進めた。
- ・ 食品安全を守る仕組み等に関心を持ち訪問学習を希望した中学生、高校生、大学生等の訪問学習を受け入れた（5回）。

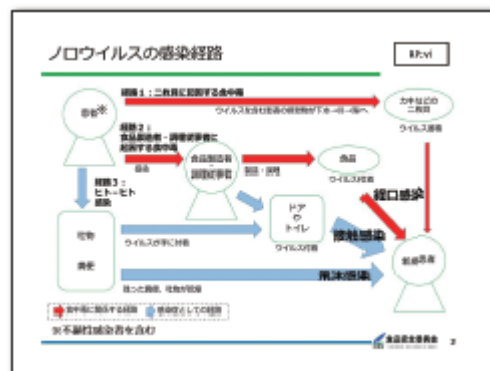
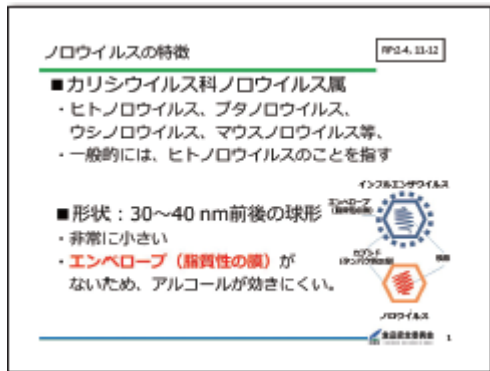
### ⑧ 2020 年度（令和 2 年度）

#### (ア) 意見交換会等

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止を優先したため、意見交換会等の開催は縮小した。しかし、主としてオンラインで一部の地方公共団体と共催での意見交換会を開催したほか、消費科学センター、消費者団体連合会、コープデリ生活協同組合連合会等の消費者団体や事業者団体及び大



学、学会、展示会に講師を派遣した。冬季に発生件数が急増するノロウイルスをテーマに、食品事業者、研究者、行政担当者等の専門家を対象とし、「精講：食品健康影響評価のためのリスクプロファイル」をYouTubeで動画配信し、寄せられた質問をもとにQ&A集を作成し、公表した。



- ・ 委員会が行っている情報発信の取組や健康食品に関して、消費者団体の要望に応じて、消費者団体の構成員に情報提供し、意見交換を行った。
- ・ 報道関係者を対象に、残留農薬のリスク評価に関してオンラインセミナーを開催し、意見交換を行った。



オンライン意見交換会「科学に基づく報道とはなにか」を開催した際の様子（『食品安全 58号』より）

- ・ 「リスクコミュニケーション」「残留農薬のリスク評価」をテーマに全国食品安全連絡会議を開催した。それぞれYouTubeで動画配信し、参加団体から寄せられた質問をもとにQ&A集を作成し、共有した。
- ・ 消費者庁等の関係省庁と連携し、親子で学べる特設ウェブコンテンツ「知ろう！考えよう！食べものと放射性物質」を公開した。また、一般消費者を対象とした食品に関するリスクコミュニケーション「共に考える 食品中の放射性物質」をオンライン開催し、意見交換を行った。

(イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から 566 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容については、引き続き新型コロナウイルス関連の相談が多かった。委員会は、ウェブサイト上に2020年（令和2年）4月22日に「新型コロナウイルス感染症と食品について」のページを開設し、食品が感染経路とならないこと、感染予防に効果がある食品の報告がないことを紹介した。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトやFacebook等を通じて情報を提供するとともに、Q&Aをウェブサイトで公開し、古い情報の更新を進めた。

(ウ) その他

- ・ 日本薬学会、日本食品化学学会及び日本食品衛生学会に講師として委員を派遣した。



象とした全国食品安全連絡会議を YouTube での動画配信によって開催した。

- ・ オンラインで実施した各種意見交換会を録画・編集し、見逃し配信として YouTube にて公開した（YouTube で公開している動画の詳細については、資料編「8-6 YouTube 実績一覧」を参照）。

#### （イ）食の安全ダイアル

- ・ 一般消費者等から 553 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容については、新型コロナウイルス関連の相談が減少し、輸入品の食品添加物についての相談や農薬についての相談が多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供するとともに、最新の食品健康影響評価結果等を踏まえ、「食の安全ダイアル Q&A」の内容を大幅にリニューアルした。

#### （ウ）その他

- ・ 消費者庁、厚生労働省、農林水産省、環境省と連携して「食品安全セミナー：農薬の再評価」をオンラインで開催した。
- ・ 食品中の放射性物質について理解を深めるため、消費者庁等の関係省庁と連携し、「おいしいにつぼんフェス 2021」に親子で学べるコンテンツを出展した。
- ・ 重点的に連携を強化する学術分野の学会等に講師派遣等を行った。獣医疫学会、日本カンピロバクター研究会及び食の安全を確保するための微生物検査協議会、ILSI Japan 国際ワークショップに、講師として委員を派遣した。
- ・ JICA が行った海外の行政関係者等を対象とした、動画配信による研修にコンテンツを提供した。オンラインにて、学生の訪問学習（2回）を受け入れた。

### ⑩ 2022 年度（令和 4 年度）

#### （ア）意見交換会等

- ・ 新型コロナウイルス感染者数の推移に応じて、オンライン形式、対面形式あるいはオンラインと対面を合わせたハイブリッド形式を選んで開催した。
- ・ 食中毒やカフェインなどをテーマに、対面にて高校生及び大学生向けの意見交換会を開催した。
- ・ 一般消費者、食品事業者を対象に、「精講：食品添加物のリスク評価をアップデート～評価指針を改正、ワイン添加物も続々評価～」、「健康食品による健康被害を防ぐために」をテーマとした意見交換会をオンラインで開催した。
- ・ 報道関係者を対象に、「食品添加物のリスク評価をアップデート — 評価指針を改定、ワイン添加物も続々評価—」、「食品に生える「かび」の基礎知識と「かび毒」の評価」及び「健康食品による健康被害を防ぐために」をテーマとした意見交換会を実施した。
- ・ 関係省庁と連携し、大学生と一般向けに放射性物質に関する意見交換会をハイブリッド形式で開催した。
- ・ 消費者庁が行う地方公共団体等食品安全担当職員研修会との合同会議として、「地方自治体が行うリスクコミュニケーションの重要性」をテーマに、地方公共団体の食品安全部局を対象とした全国食品安全連絡会議を開催した。（協力：厚生労働省、農林水産省）。

- ・ オンラインで実施した各種意見交換会を録画・編集し、見逃し配信として YouTube にて公開した (YouTube で公開している動画の詳細については、資料編「8-6 YouTube 実績一覧」を参照)。

#### (イ) 食の安全ダイヤル

- ・ 一般消費者等から 675 件の相談や問い合わせを受け付けた。内容については、農薬、昆虫食及び妊娠中の食生活についての相談が多かった。寄せられた情報等について、必要に応じ、関係省庁へ情報を提供した。また、よく尋ねられる質問等について、ウェブサイトや Facebook 等を通じて情報を提供した。

#### (ウ) その他

- ・ 東京農業大学に新しく新設された食品安全研究センターの開設記念講演に、委員長が参加した。
- ・ 消費者庁等の関係省庁と連携し、親子と一緒に学ぶことを目的として開催される「学研キッズフェス 2022 秋」及び「Farm Love with ファーマーズ&キッズフェスタ 2022」に出展し、食品中の放射性物質や食品安全について親子で学べるコンテンツを提供した。
- ・ 関連学会である日本食品衛生学会、日本獣医公衆衛生学会、日本食品微生物学会等に委員を講師として派遣した。
- ・ 対面にて、学生の訪問学習（3回）を受け入れた。

## (2) 情報提供

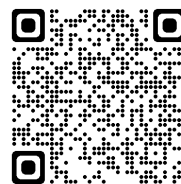
### ① 2013 年度（平成 25 年度）

- ・ 季刊誌「食品安全」第 35～38 号を発行し、第 36 号（2013 年 7 月発行）には、委員会設立 10 周年関連の記事を掲載した。
- ・ 2014 年（平成 26 年）2 月に公式 Facebook ページを開設。委員会の活動状況をはじめ、食品安全やリスク評価に関する情報発信を開始した。

（Facebook の各年度における閲覧者数トップ 5 の記事は、資料編「8-5 Facebook 実績」を参照。）

【委員会 Facebook のページ（2023 年 6 月末時点）】

【委員会公式 Facebook ページについて】



<https://www.fsc.go.jp/sonota/sns/facebook/k.html>

- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月 1 回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

② 2014年度（平成26年度）

- ・ 季刊誌「食品安全」第39～42号を発行し、委員会セミナー「ビスフェノールAに関する国際セミナー」報告（第39号）や、「麻痺性貝毒のファクトシート」（第41号）等に関する記事を掲載した。
- ・ 2014年（平成26年）11月、それまでのキッズボックスから選定した内容をまとめ「キッズボックス総集編」を発行し、ウェブサイトで公開するとともに冊子も配布した。

【キッズボックス総集編】



もくじ	
※野菜はどのくらいやっつていい？	1
※お肉の加熱量、どこまで？	2
※食中毒の「らしき」兆候をよよよ！	3
※食中毒になるまでを振り返りよう！	4
※食中毒ってどんな病気？	5
※卵の加熱量	6
※食品の加熱量	7
※食中毒の発生原因	8
※予防法の徹底	9
※食中毒にやっつこう！「食中毒」	10
※とてつもない「食中毒」を知らそう！	11
※季節の食中毒	12
※お肉って、いったいなんなんだろう？	13
※お肉の加熱、どこまで？	14
※ペロペロと、お肉を焼くってどう？	15
※食中毒の発生原因にやっつこう！	16
※食中毒の予防法を知らそう！	17
※食中毒と食中毒菌は、どうなる？	18
※食中毒は「お肉」にも注意！	19
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	20
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	21
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	22
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	23
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	24
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	25
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	26
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	27
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	28
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	29
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	30
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	31
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	32
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	33
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	34
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	35
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	36
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	37
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	38
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	39
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	40
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	41
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	42
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	43
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	44
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	45
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	46
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	47
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	48
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	49
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	50
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	51
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	52
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	53
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	54
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	55
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	56
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	57
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	58
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	59
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	60
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	61
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	62
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	63
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	64
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	65
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	66
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	67
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	68
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	69
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	70
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	71
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	72
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	73
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	74
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	75
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	76
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	77
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	78
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	79
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	80
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	81
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	82
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	83
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	84
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	85
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	86
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	87
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	88
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	89
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	90
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	91
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	92
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	93
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	94
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	95
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	96
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	97
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	98
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	99
※食中毒菌の「お肉」にやっつこう！	100

- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

③ 2015年度（平成27年度）

- ・ 季刊誌「食品安全」第43～46号を発行し、「加熱時に生じるアクリルアミドについて」（第43号）や、ジュニア食品安全委員会の開催（第44号）等に関する記事を掲載した。
- ・ 2015年（平成27年）5月に公式ブログを開設。Facebookでの発信内容を中心に掲載することでアーカイブ的な機能を持たせつつ、より幅広い層への情報発信を開始した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

④ 2016年度（平成28年度）

- ・ 季刊誌「食品安全」第47～50号を発行し、「カンピロバクターのファクトシート」（第48号）や、委員会の国際的な取組（第50号）等に関する記事を掲載した。
- ・ 2017年（平成29年）3月にメールマガジン読み物版をまとめた「メールマガジン読み物版総集編」の発行、及び冊子「科学の目で見える食品安全」の内容をリニューアルし、ウェブサイトで公開するとともに冊子も配布した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

⑤ 2017年度（平成29年度）

- ・ 季刊誌「食品安全」第51～54号を発行し、「食品中のカフェインについて」、国際会議「食品安全のための科学的国際協力の未来には何があるのか」の開催（ともに第51号）等に関する記事を掲載した。
- ・ 2017年（平成29年）11月に、新たに公式Youtubeチャンネルを開設。  
（Youtubeの配信実績については、資料編「8-6 Youtube実績一覧」を参照。）
- ・ 2018年（平成30年）3月に妊婦と周りの方へ向けた「お母さんになるあなたへ」に、リステリア食中毒や乳児ボツリヌス症などの情報を追加し、ウェブサイトで公開した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

⑥ 2018年度（平成30年度）

- ・ 「食品安全」は第55号から年1回発行となり、前年度の活動実績を紹介する内容に変更された。第55号は、無菌充填豆腐の評価、六価クロムワーキンググループの立ち上げ等に関する記事を掲載した。
- ・ 2019年（平成31年）3月にキッズボックス総集編を改訂し、ウェブサイトで公開するとともに冊子も配布した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

⑦ 2019年度（令和元年度）

- ・ 「食品安全」第56号を発行し、米国、カナダ及びアイルランドから輸入される牛肉及び牛の内臓の評価、インド食品安全基準庁（FSSAI）との協力覚書締結等に関する記事を掲載した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版、読み物版）を定期的に発行した。

⑧ 2020年度（令和2年度）

- ・ 「食品安全」第57号を発行し、かび毒「デオキシニバレノール（DON）」の評価、パーフルオロ化合物のファクトシート等に関する記事を掲載した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延を受け、2020年（令和2年）4月にウェブサイトで「新型コロナウイルス感染症と食品について」を公開した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月1回）及びメールマガジン（ウィークリー版）を定期的に発行した。（メールマガジン読み物版は2020年度（令和2年度）限りで終了した）。

⑨ 2021年度（令和3年度）

- ・ 「食品安全」第 58 号を発行し、アレルギーを含む食品「卵」の評価、ダイオキシン類のファクトシート等に関する記事を掲載した。
- ・ 「食品健康影響評価書 アレルギーを含む食品（卵）」について、特設の Q&A ページを開設し、SNS 等で周知した。
- ・ 2021 年（令和 3 年）10 月に Twitter（現：X）に公式アカウントを開設し、情報を発信している。  
（Twitter のインプレッション数トップ 10 の記事は、資料編「8－8 Twitter 実績」を参照。）
- ・ 一般消費者向けに、肉の加熱調理に関する動画を作成し、YouTube で公開した。
- ・ ウェブサイトをリニューアルし、トップページのレイアウト、食品安全情報ハブ、素材集などを新設した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、キッズボックス（月 1 回）及びメールマガジン（ウィークリー版）を定期的に発行した。

#### ⑩ 2022 年度（令和 4 年度）

- ・ 「食品安全」第 59 号を公開し、鉛の評価、農薬の再評価制度と準備等に関する記事を掲載した。
- ・ 2022 年（令和 4 年）8 月に「お母さんになるあなたへ」を「お母さんになるあなたと周りの人たちへー妊娠の前から気をつけたい食べ物のことー」に改訂し、ウェブサイトで公開するとともに、代表的なトピックスについて解説する動画を作成し、YouTube で公開した。
- ・ 食品健康影響評価書中の健康影響に基づく指標値の根拠となった試験の情報をまとめた、化学物質毒性評価データベースを作成し、ウェブサイトで公開した。
- ・ ウェブサイトでは常に最新の情報を掲載し、また、キッズ BOX（月 1 回）、メールマガジン（ウィークリー版）を定期的に発行した。

### （3） 食品安全モニター

委員会においては、食品健康影響評価の結果、それに基づくリスク管理機関の施策、個別の食品の安全性等について、広く国民から意見・情報等を募集し、委員会の活動に役立てることを目的として、2003 年（平成 15 年）9 月、「食品安全モニター」制度を創設した。食品安全モニターには、大学等で食品に関係の深い学問を終了した者、食品に関係の深い資格を保有する者、食品の安全に関する業務に従事したことがある者等を対象として募集を行い、2013 年度（平成 25 年度）～2022 年度（令和 4 年度）の間に延べ 4,517 名（各年度 470 名程度）に依頼をした。

#### ① 2013 年度（平成 25 年度）

- ・ 食品安全モニターから、44 件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2013 年（平成 25 年）8 月に食品の安全性に関する意識等について、2014 年（平成 26 年）2 月に委員会から入手した情報の利用等について、アンケート調査を実施し、課題の報告を行った。

- ・ 2013年（平成25年）5月から6月にかけて、全国6都市で「食品安全モニター会議」を合計9回開催した。（食品安全モニター会議の詳細については、資料編「8-8 食品安全モニター会議の開催状況」を参照。）

② 2014年度（平成26年度）

- ・ 食品安全モニターから、34件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2014年（平成26年）8月に食品の安全性に関する意識等について、2015年（平成27年）2月に食品の安全性に関する意識と情報源についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2014年（平成26年）5月から6月にかけて、全国6都市で「食品安全モニター会議」を合計9回開催した。

③ 2015年度（平成27年度）

- ・ 食品安全モニターから、38件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2016年（平成28年）3月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2015年（平成27年）5月から6月にかけて、全国9都市で「食品安全モニター会議」を合計9回開催した。

④ 2016年度（平成28年度）

- ・ 食品安全モニターから、41件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2017年（平成29年）2月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2016年（平成28年）5月から6月にかけて、全国9都市で「食品安全モニター会議」を合計9回開催した

⑤ 2017年度（平成29年度）

- ・ 食品安全モニターから、32件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2018年（平成30年）2月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2017年（平成29年）6、9、10月に、全国3都市で「食品安全モニター会議」を合計5回開催した。
- ・ 7月から12月に食品安全に関する基礎知識を学ぶためのeラーニングを実施した。

⑥ 2018年度（平成30年度）

- ・ 食品安全モニターから、26件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2019年（平成31年）2月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。



- ・ 2018年（平成30年）9月から11月に食品安全に関する基礎知識を学ぶためのeラーニングを実施した。

⑦ 2019年度（令和元年度）

- ・ 食品安全モニターから、21件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2020年（令和2年）2月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2019年（令和元年）6月から8月に食品安全に関する基礎知識を学ぶためのeラーニングを実施した。

⑧ 2020年度（令和2年度）

- ・ 食品安全モニターから、16件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2020年（令和2年）12月に食品の安全性に関する意識等についてアンケートを実施し、課題の報告を行った。
- ・ 8月から10月に食品安全に関する基礎知識を学ぶためのeラーニングを実施した。

⑨ 2021年度（令和3年度）

- ・ 食品安全モニターから、28件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2022年（令和4年）1月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2021年（令和3年）6月から8月に食品安全に関する基礎知識を学ぶためのeラーニングを実施した。
- ・ 6月に「食の安全に関する最近の国際動向」について、12月に「アレルギーを含む食品(卵)の評価書」についてオンラインセミナーを開催した。

⑩ 2022年度（令和4年度）

- ・ 食品安全モニターから、38件の随時報告を受け付けた。
- ・ 2023年（令和5年）1月に食品の安全性に関する意識等についてアンケート調査を実施し、課題の報告を行った。
- ・ 2022年（令和4年）6月から8月に食品安全に関する基礎知識を学ぶためのeラーニングを実施した。
- ・ 8月に「食品添加物に関する安全性と新評価指針のポイント」について、12月に食品に生える「かび」と「かび毒の評価」についてオンラインセミナーを開催した。

## 7 緊急時対応

委員会の活動の柱の一つに、食品の摂取を通じた人の健康に係る重大な被害が生じ、又は生ずるおそれがある緊急の事態において、国民の健康への悪影響を未然に防止することが最も重要で

あるという認識の下、関係行政機関等と密接に連携し、危害物質の毒性等の科学的知見について、関係省庁及び国民に対して迅速かつ確に情報提供を行うことがある。

そのため、緊急時に備え、関係府省と連携して緊急時対応に係るマニュアルを整備するとともに、平時から緊急時対応の訓練を実施する等、対処体制の強化に努めてきた。

各年度における対応状況は以下のとおりである。

#### ①2013年度（平成25年度）

2013年（平成25年）2月4日の第462回委員会会合において決定した平成25年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の2本立てで訓練を実施した。実務研修として、4月に緊急時対応手順研修及びホームページ掲載研修、9月～11月にメディア対応研修（基礎研修）、11月にメディア対応研修（実践研修）を行った。確認訓練は消費者庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12月11日に実施した。訓練の結果は、2014年（平成26年）1月31日の第9回企画等専門調査会及び2月10日の第502回委員会会合において報告した。



2013年（平成25年）12月11日に実施した確認訓練の様子（『食品安全 第38号』より）

緊急事態への対処体制の整備として、委員会における緊急時対応の手順のポイントを取りまとめるとともに、委員会の電子掲示板やプレスリリース及びQ&Aのテンプレートを整備した。

2013年（平成25年）6月に、トルコ産タヒニごまペーストにおけるサルモネラ菌によりアメリカ及びニュージーランドで食中毒が発生した事案について、厚生労働省から情報を収集し、トルコ国内の製造業者が製造したタヒニごまペースト及びその加工品の自主回収状況等についてホームページで情報を提供した。

8月に豪州で発生した、同国で製造された粉ミルクからボツリヌス菌と疑われる菌が検出された事案において、現地政府の発表、日本への輸入の有無等について、情報収集を行った。

10月に発生したタイで製造されたロールキャベツ等に国内で未承認の遺伝子組換えパパイヤが使用され、販売業者等が自主回収を行った事案において、販売業者、関係省庁等から情報収集を行った。

12月に発生した冷凍食品に農薬（マラチオン）が混入された事案については、国際機関（JMPR）における農薬マラチオンの一日摂取許容量（ADI）、急性参照用量（ARfD）等の科学的知見を速やかに関係省庁に提供するとともに、事業者が発表した毒性についての見解における問題点を厚生労働省に伝達した。さらに、マラチオンの概要（ADI、ARfD等）をホームページに掲載するとともに、メールマガジンにて、全国1万人の会員に情報提供を行った。

2014年（平成26年）1月に発生した浜松市におけるノロウイルス集団食中毒の事案におい

て、関係行政機関と連携をとりながら、ホームページにて注意喚起等を行った。

## ②2014 年度（平成 26 年度）

2014 年（平成 26 年）2 月 10 日の第 502 回委員会会合において決定した平成 26 年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の 2 本立てで訓練を実施した。実務研修として、4 月に緊急時対応手順研修、5 月にホームページ掲載研修、10 月～12 月にメディア対応研修（基礎研修）、11 月にメディア対応研修（実践研修）を行った。確認訓練は消費者庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12 月 25 日に実施した。訓練の結果は、2015 年（平成 27 年）1 月 30 日の第 13 回企画等専門調査会及び 2 月 10 日の第 548 回委員会会合において報告した。



2014 年（平成 26 年）12 月 25 日に実施した確認訓練の様子（『食品安全 第 42 号』より）

また、緊急時対応訓練の結果や実際の緊急時の対応を踏まえ、委員会における緊急時対応について改善策を検討するとともに、ホームページへの掲載がより容易に行えるよう、システムの改善を図った。

2014 年（平成 26 年）4 月に熊本県で鳥インフルエンザが発生した事案において、ホームページ上トップページに「鶏肉・鶏卵の安全性に関する食品安全委員会の考え方」を掲載し、内容を更新するとともに、Facebook 及びメールマガジンを通して情報発信した。

7 月に輸入ししゃもに殺鼠剤「ダイファシノン」が混入された事案において、「ダイファシノンの概要」を取りまとめ、関係省庁及び自治体に情報提供するとともに、ホームページ、Facebook 及びメールマガジンを通じて情報発信した。

8 月に静岡県で大規模な 0157 食中毒が発生した事案において、ホームページ上の 0157 に関する情報を充実させるとともに、Facebook において注意喚起を行った。

### 腸管出血性大腸菌食中毒のまとめ

<特徴>動物の腸管内に生息し、糞便等を介して食品、飲料水を汚染する。  
主に加熱不足の肉（生肉含む）、生野菜などの食品、水を介して感染する。  
少量でも発病することがある。加熱や消毒処理には弱い。

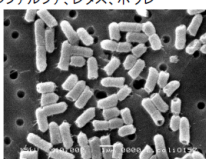
<過去の原因食品（推定含む）>

日本：井戸水、牛肉、牛レバー刺し、ユッケ、ハンバーグ、牛角切りステーキ、牛タタキ、ローストビーフ、シカ肉、サラダ、貝割れ大根、キャベツ、メロン、白菜漬け、日本そば、シーフードソース、イクラ醤油漬など。

海外：ハンバーガー、ローストビーフ、ミートパイ、アルファルファ、レタス、ホウレンソウ、アップルジュースなど。

<症状>感染後平均4～8日間の潜伏期間。初期感冒様症状のあと、激しい腹痛と大量の新鮮血を伴う血便。発熱は少ない。重症では溶血性尿毒症候群を併発し、意識障害に至ることもある。

<対策>食肉は中心部までよく加熱する（75℃、1分以上）。野菜類はよく洗浄。と畜場の衛生管理、食肉店での二次汚染対策を十分に行う。低温保存の徹底。



腸管出血性大腸菌O157:H7  
<食品安全委員会事務局資料>

Facebook にて投稿した情報（抜粋）

年末年始に高病原性鳥インフルエンザが相次いで発生した事案について、関係行政機関との連携のもとに、ホームページ、Facebook 等による情報提供等を行った。

2015 年（平成 27 年）2 月にノルウェーで初の B S E が確認された事案について、関係行政機関との連携のもとに、ホームページ、Facebook 等により情報提供等を行った。

#### ③2015 年度（平成 27 年度）

2015 年（平成 27 年）2 月 10 日の第 548 回委員会会合において決定した平成 27 年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の 2 本立てで訓練を実施した。実務研修として、4 月に緊急時対応手順研修、6 月～7 月に情報発信研修、11 月にメディア対応研修（基礎研修）、12 月にメディア対応研修（実践研修）を行った。確認訓練は消費者庁、文部科学省、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12 月 25 日に実施した。訓練の結果は、2016 年（平成 28 年）2 月 4 日の第 17 回企画等専門調査会及び 2 月 16 日の第 595 回委員会会合において報告した。

#### ④2016 年度（平成 28 年度）

2016 年（平成 28 年）2 月 16 日の第 595 回委員会会合において決定した平成 28 年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の 2 本立てで訓練を実施した。実務研修として、4 月に緊急時対応手順研修、6 月～7 月に情報発信研修、11 月にメディア対応研修（基礎研修・実践研修）を行った。確認訓練は消費者庁、警察庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、2017 年（平成 29 年）1 月 16 日に実施した。訓練の結果は、2 月 6 日の第 20 回企画等専門調査会及び 2 月 14 日の第 638 回委員会会合において報告した。

#### ⑤2017 年度（平成 29 年度）

2017 年（平成 29 年）2 月 14 日の第 638 回委員会会合において決定した平成 29 年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の 2 本立てで訓練を実施した。実務研修として、4 月に緊急時対応手順研修、10 月に情報発信研修、11 月にメディア対応研修（基礎研修・実践研修）を行った。確認訓練は消費者庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12 月 21 日に実施した。訓練の結果は、2018 年（平成 30 年）1 月 29 日の第 23 回企画等専門調査会及び 2 月 6 日の第 683 回委員会会合において報告した。

#### ⑥2018 年度（平成 30 年度）

2018 年（平成 30 年）2 月 6 日の第 683 回委員会会合において決定した平成 30 年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の 2 本立てで訓練を実施した。実務研修として、4 月に緊急時対応手順研修、11 月に情報発信研修、12 月にメディア対応研修を行った。確認訓練は消費者庁、警察庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12 月 20 日に実施した。訓練の結果は、2019 年（平成 31 年）2 月 4 日の第 26 回企画等専門調査会及び 2 月 12 日の第 730 回委員会会合において報告した。

2018 年度（平成 30 年度）に各地で発生した C S F（豚熱）については、関係行政機関との連携のもとに、ホームページで情報提供等を行った。

⑦2019年度（令和元年度）

2019年（平成31年）2月12日の第730回委員会会合において決定した2019年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の2本立てで訓練を実施した。実務研修として、4月に緊急時対応手順研修、10月に参加型の情報収集・分析研修、11月に委員を講師とした情報共有・発信研修を行った。確認訓練は消費者庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12月6日に実施した。訓練の結果は、2020年（令和2年）1月30日の第29回企画等専門調査会及び2月18日第773回委員会会合において報告した。

2019年度（令和元年度）は、特に、災害発生時における食中毒への注意を促す情報やCOVID-19と食品との関係に関する情報を、Facebook等を通じて提供した。

⑧2020年度（令和2年度）

2020年（令和2年）2月18日の第773回委員会会合において決定した令和2年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の2本立てで訓練を実施した。実務研修として、5月に緊急時対応手順研修、7月に情報発信研修及び情報共有研修を行い、さらに同月に情報共有・発信研修を2回開催した。また、10月には対応事例講習会を実施した。確認訓練は消費者庁、警察庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、12月10日に実施した。訓練の結果は、2021年（令和3年）2月4日の第32回企画等専門調査会及び2月16日第805回委員会会合において報告した。

2020年度（令和2年度）は、特に、災害発生時における食中毒への注意を促す情報やCOVID-19と食品との関係に関する情報を、Facebook等を通じて提供した。

⑨2021年度（令和3年度）

2021年（令和3年）2月16日の第805回委員会会合において決定した令和3年度緊急時対応訓練計画に基づき、実務研修と確認訓練の2本立てで訓練を実施した。実務研修として、5月に緊急時対応手順研修、10月に情報収集・発信研修、11月に緊急時対応事例講習会を実施した。確認訓練は消費者庁、厚生労働省及び農林水産省も参加し、2022年（令和4年）2月10日に実施した。訓練結果は、6月16日の第36回企画等専門調査会及び6月28日の第864回委員会会合において報告した。

⑩2022年度（令和4年度）

2022年（令和4年）2月15日の第847回委員会会合において決定した令和4年度緊急時対応訓練計画に基づき、5月に緊急時対応手順研修、9月に情報収集・発信研修、11月に緊急時対応事例講習会、12月23日には、消費者庁、警察庁、厚生労働省及び農林水産省も含めた緊急時対応確認訓練を実施した。情報収集・発信研修においては、委員会としての情報発信のあり方や緊急時における情報発信の講義、議論やアンケートを行った。訓練結果は、2023年（令和5年）1月26日の第38回企画等専門調査会及び1月31日の第887回委員会会合において報告した。

また、昨年度の緊急時対応訓練参加者の意見等を踏まえ、委員会内の緊急時対応手順書につ

いて、見直し・改定に向けて骨子の作成を行った。

第 36 回企画等専門調査会において、専門委員から緊急事態発生時の現場と省庁間の連携体制に関する意見があり、その意見について関係省庁と共有し、自治体の訓練について、厚生労働省が自治体と連携し定期的実施していることを確認するなど、関係省だけでなく自治体も含めた緊急時の対応について確認を行った。

2022 年度（令和 4 年度）に高病原性鳥インフルエンザが相次いで発生した事案について、関係行政機関と連携を取りながら、ホームページ、Facebook 等による情報提供等を行った。

**食品安全委員会は、我が国の現状において、  
鶏肉や鶏卵等を食べることにより、ヒトが  
鳥インフルエンザに感染する可能性はない  
と考えています。**



「食の安全」を科学する  
**食品安全委員会**  
内閣府 Food Safety Commission of Japan

Facebook に掲載した情報例

## 8 国際関係

委員会においては、国際機関や諸外国の公的機関等との連携を行っている。また、2013 年度（平成 25 年度）に英文電子ジャーナルを創刊し、食品のリスク評価に関連のある分野の専門家等による原著、投稿論文や委員会による評価書の内容等を国内外へ広く情報発信している。

各年度における対応状況は以下のとおり。

### ①2013 年度（平成 25 年度）

FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議（JECFA）、FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議（JMPR）、その他の食品の安全性に関する国際会議等に専門委員等を派遣し（16 回）、その成果について、報告会の開催や関係の専門調査会での報告、報告書の作成・供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

既に協力覚書を締結している欧州食品安全機関（EFSA）、オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関（FSANZ）との定期会合等を開催した。



FSANZ マッカション長官と熊谷委員長（『食品安全 第 36 号』より）

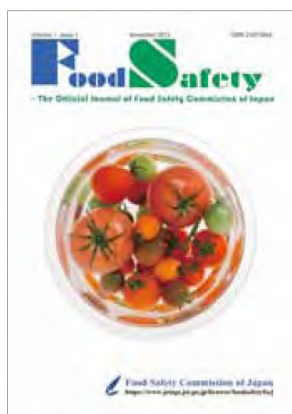
2013 年度（平成 25 年度）7 月には、委員会設立 10 周年記念事業として、EFSA、FSANZ

NZ、国際獣疫事務局（O I E）等の海外の機関、歴代の委員会委員等を招いた「国際共同シンポジウム」を開催し、食品健康影響評価に係る研究の最新動向及び食品健康影響評価の国際的動向についての講演並びに食品健康影響評価の今後についてのパネルディスカッションを行った。

11月に、オーストリアのグラーツ大学より講演者を招き、セミナー「ヒ素に関する最新知見について」を開催した。

また同月には、査読付きオープンアクセス英文電子ジャーナル（Food Safety）を創刊した。（ジャーナルの発行実績については、資料編「11 英文電子ジャーナルの発行実績」を参照。）

【『Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission』】



ホームページに、月報や評価書要約の英訳（40件）を掲載するとともに、掲載した情報を海外連携機関に送付した。

## ②2014年度（平成26年度）

J E C F A、J M P R、その他の食品の安全性に関する国際会議等に専門委員等を派遣し（18回）、その成果について、報告会の開催や関係の専門調査会での報告、報告書の供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

既に協力覚書を締結しているE F S A、F S A N Zとの定期会合等を開催した。

また、E F S A等から専門家を招へいし、「ビスフェノールAに関する国際セミナー」や「食品安全分野におけるリスクコミュニケーションに関する国際セミナー」を開催し、リスク分析による食品安全の取組の普及啓発を図った。



E F S Aと定期会合の際の熊谷委員長とクレイナー局長（『食品安全 第41号』より）



E F S Aとの会合の様子（『食品安全 第41号』より）



第2回定期会合を行ったF S A N Zと委員会のメンバー（『食品安全 第40号』より）

ホームページに、月報や評価書要約の英訳（50件）を掲載するとともに、四半期ごと（6月、9月、12月、3月）に英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

### ③2015年度（平成27年度）

J E C F A、J M P R、その他の食品の安全性に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員を派遣し（20回）、その成果について、報告会の開催や関係の専門調査会での報告、報告書の供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

また、E F S Aと更なる連携強化を目的に協力文書を改定し、定期会合を開催した。これまでも交流を行ってきたポルトガル経済食品安全庁（A S A E）とフランス食品環境労働衛生安全庁（A N S E S）とは、新たな協力覚書を締結し、今後、当該文書に基づき連携を進めていくこととなった。



山添委員長代理（左）とガスパール ASAE 長官（右）（『食品安全 第45号』より）





ANSESと協力覚書を締結した際の様子（『食品安全 第45号』より）

ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）等から専門家を招へいし、リスク分析による食品安全の取組の普及啓発を図るため、「農薬の急性参照用量（ARFD）の設定に関する国際シンポジウム」、「食品媒介感染症防止に向けた食品安全確保のための定性的定量的アプローチに関する国際シンポジウム」、「食品安全の明日をともに考える国際シンポジウム」を開催した。



「食品媒介感染症防止に向けた食品安全確保のための定性的定量的アプローチに関する国際シンポジウム」のディスカッションの様子（『食品安全 第45号』より）



WHO・宮城島一明部長



パネルディスカッションの様子

「食品安全の明日をともに考える国際シンポジウム」の様子（『食品安全 第47号』より）

ホームページに、月報や評価書要約の英訳（43件）を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

#### ④2016年度（平成28年度）

JECFA、JMPRその他の食品の安全性に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員を派遣し（20回）、その成果について、報告会の開催や関係の専門調査会での報告、報告書の供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

これまでも交流を行ってきたBfRと、協力覚書を締結し、今後、当該文書に基づき連携を進めていくこととなった。既に協力覚書を締結しているEFSA、FSANZ、ASAE及びANSESとも、相互の訪問等を通じて積極的に交流を行い、連携を強化した。



B f R と会合参加者（『食品安全 第 50 号』より）

また、英国動植物衛生庁等から専門家を招へいし、食品安全委員会国際専門家招へいプログラム「国際セミナー～牛海綿状脳症（B S E）と食の安全に関する科学～」を開催した。



食品安全委員会国際専門家招へいプログラム「国際セミナー～牛海綿状脳症（B S E）と食の安全に関する科学～」の様子（『食品安全 第 47 号』より）

ホームページに、月報や評価書要約の英訳（43 件）を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

#### ⑤2017 年度（平成 29 年度）

J E C F A、J M P R その他の食品の安全性に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員を派遣し（21 回）、その成果について、報告会の開催や関係の専門調査会での報告、報告書の供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

これまでも交流を行ってきたデンマーク工科大学（D T U）と協力覚書を締結し、今後、当該文書に基づき連携を進めていくこととなった。既に協力覚書を締結している E F S A、F S A N Z、A S A E、A N S E S、B f R とともに、国際会議の共催、相互の訪問、担当者間の日常的な連絡等を通じて積極的に交流を行い、連携を強化した。また、E F S A と共同で国際協力の在り方に関して、国際会議～食品安全のための科学的国際協力の未来には何があるのか～を開催した。海外の研究者等を招へいして、食品安全に係る各種の意見交換会等を実施して、科学的知見の充実を図った。



WHAT DOES THE FUTURE HOLD FOR  
INTERNATIONAL SCIENTIFIC  
COOPERATION FOR FOOD SAFETY?

26 APRIL 2017, TOKYO



国際会議「食品安全のための科学的国際協力の未来には何があるのか」パネルディスカッションの様子（『食品安全 第51号』より）

ホームページに、月報や評価書要約の英訳を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

#### ⑥2018年度（平成30年度）

JECFA、JMPRその他の食品の安全性に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員を派遣し（23回）、その成果について、報告会の開催や関係の専門調査会での報告、報告書の供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

消費者庁、厚生労働省及び農林水産省と合同で、インド食品安全基準局（FS S A I）と食品安全分野における協力覚書を締結した。既に協力覚書を締結しているEF S A、F S A N Zと定期会合を行い、連携を強化した。

また、米国食品医薬品庁（F D A）等から研究者等を招へいし、国際ワークショップ～ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発～を開催し、科学的知見の充実を図った。

ホームページに、月報や評価書要約の英訳を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

#### ⑦2019年（令和元年度）

JECFA、JMPRその他の食品の安全性に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員を派遣し（19回）、その成果について、報告会の開催や関係する専門調査会での報告、報告書の供覧等により、情報を共有し、国際協調を図った。

既に協力覚書を締結しているB f Rと会合を行い、連携を強化した。また、B f Rから研究者等を招へいし、食品安全に係る各種の勉強会等を実施し、科学的知見の充実を図った。

また、F S A N Z、アイルランド食品安全庁（F S A I）及びサウジアラビア食品医薬品庁（S F D A）が中心となり新たに立ち上げられた食品安全機関ヘッドフォーラム等に参加し、情報交換を行うとともに海外の食品安全機関等との連携の構築を図った。

ホームページに、月報や評価書要約の英訳を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し国内外へ広く情報発信を行った。なお、ジャーナルについて、新たに米国国立医学図書館（N L M）などが主催するPMCと契約して、広く情報発信が行えるようになった。

#### ⑧2020年（令和2年度）

新型コロナウイルス感染症の影響により、参加を予定していた国際会議等は、多くが翌年以降に延期となったが、一部はウェブ会議システムを利用して開催され、委員、専門委員又は事務局職員が参加し、各国の専門家との情報・意見交換等を行った（6回）。

協力文書を締結しているEF S A等の食品安全機関とは、担当者間で日常的にメール及びウェブ会議システムを利用して意見・情報交換を行った。

さらに、評価が終了した食品健康影響評価の要約及び海外からの関心も高いと思われる評価

指針等の英訳を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

#### ⑨2021年度（令和3年度）

JMPR、コーデックス委員会、その他の食品安全に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員が参加し、意見交換・情報収集を行い（14回）、また、BfRでは、委員がワークショップで講演を行った。

協力文書を締結している食品安全機関のうち、ANSESとは担当者間による意見・情報交換、EFSAとは定期会合を開催し、連携強化を図った。



EFSAとの定期会合の様子（『食品安全 第59号』より）

また、世界保健機関（WHO）の専門家を招へいしてセミナーを開催し、国際機関におけるリスク評価等の国内における理解醸成を図った。

さらに、評価が終了した食品健康影響評価の要約及び海外からの関心も高いと思われる評価指針等の英訳を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

#### ⑩2022年度（令和4年度）

コーデックス委員会、その他の食品安全に関する国際会議等に委員、専門委員及び事務局職員が参加し、意見交換・情報収集を行った（16回）。 Bangladesh のリスク管理機関行政から訪問もあり、委員会の取組について情報提供を行った。

JEMRA事務局等から講演者を招へいして食品安全シンポジウム～国際的な微生物学的リスク評価専門家会議を理解する～を開催し、国際機関における微生物のリスク評価について国内における理解醸成を図った。

さらに、評価が終了した食品健康影響評価の要約及び海外からの関心も高いと思われる評価指針等の英訳を掲載するとともに、四半期ごとに英文電子ジャーナルを発行し、国内外へ広く情報発信を行った。

## 9 関係府省間の連携

法第15条は関係行政機関の相互の密接な連携の下に、食品の安全性の確保に関する施策が策

定されなければならない旨規定しており、2012年（平成24年）6月29日に閣議決定された「食品安全基本法第21条第1項に規定する基本的事項」においては、委員会は、リスク管理機関との間で、連携及び政策調整の具体的な手法について取り決めを締結し、公表することが規定されている。

また、これを受けて消費者庁、委員会、厚生労働省、農林水産省及び環境省との間で決定された「食品の安全性の確保に関する施策の実施に係る関係府省間の連携・政策調整の強化について」（平成24年8月31日関係府省申合わせ）において、各府省庁の担当部局長を構成員とする「食品安全行政に関する関係府省連絡会議」が設置された。本関係府省連絡会議は、消費者庁主催の下、毎年度1、2回開催され、関係各府省の食品安全関係予算の概要、食品安全関係施策の実施状況等について、情報共有、意見交換等が実施されている。

また、当該関係府省申合わせに基づき、原則として毎週1回、関係府省担当課長等を構成員とする関係府省連絡会議幹事会が開催されている。

さらに、当該関係府省申合わせに基づき、リスクコミュニケーション担当者会議（原則として隔週）、食品リスク情報関係府省担当者会議（原則として毎月1回）を開催し、関係府省間の密接な連携が図られている。

## 10 法令・委員会決定

### （1） 法律

法は、2003年（平成15年）5月の成立以来、その基本的な内容の改正は行われていない。原始附則又は一部改正法による改正は以下のとおりである。

#### ○薬事法等の一部を改正する法律による改正

薬事法等の一部を改正する法律（平成25年法律第84号）附則第88条により、法第2条を改正し、「食品」の定義から「再生医療等製品」を除き、また、法第24条第1項第8号を改正し、所要の規定の整理（薬事法上の「医療機器」及び「体外診断用医薬品」に係る規制の見直し並びに「再生医療等製品」を医薬品、医療機器等と区別して新たに定義付けること等に伴う整理）を行った。

#### ○独立行政法人医薬基盤研究所法の一部を改正する法律による改正

独立行政法人医薬基盤研究所法の一部を改正する法律（平成26年法律第38号）附則第12条により、法の規定の整理（独立行政法人医薬基盤研究所の解散及び業務移管に伴う法第27条第3項中の引用法令の修正等）を行った。

#### ○独立行政法人通則法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律による改正

独立行政法人通則法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律（平成26年法律第67号）第30条により、法の規定の整理（法第27条第3項中研究開発型の独立行政法人の名称の修正等）を行った。

○独立行政法人に係る改革を推進するための農林水産省関係法律の整備に関する法律による改正

独立行政法人に係る改革を推進するための農林水産省関係法律の整備に関する法律（平成 27 年法律第 70 号）附則第 26 条により、法の規定の整理（国立研究開発法人農業環境技術研究所の解散及び業務移管に伴う法第 27 条第 3 項中の条文名の削除等）を行った。

○食品衛生法等の一部を改正する法律による改正

食品衛生法等の一部を改正する法律（平成 30 年法律第 46 号）による改正後の食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 8 条第 1 項による特別な注意を要する成分等を含む食品による健康被害情報の報告制度の導入、同法第 18 条第 3 項による器具及び容器包装のポジティブリストの導入、同法第 51 条による HACCP による衛生管理の制度化、同法第 52 条による器具及び容器包装を製造する者に対する適正製造管理規範（GMP）に取り組むことの義務付けが行われた。これを受け、食品衛生法等の一部を改正する法律附則第 23 条及び第 24 条により、法第 24 条第 1 項第 1 号を改正し、新たに委員会への法定諮問事項を追加するとともに、条項ずれ等規定の整理を行った。

○農薬取締法の一部を改正する法律による改正

農薬取締法の一部を改正する法律（平成 30 年法律第 53 号）附則第 19 条により、法第 24 条第 1 項第 2 号を改正し、農薬取締法に係る諮問事項のうち、公定規格に関する事項を削り、また条項ずれの整理を行った。

○肥料取締法の一部を改正する法律による改正

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第 62 号）附則第 12 条第 6 号により、法の規定の整理（肥料取締法の名称の変更に伴う法第 24 条第 1 項第 3 号中の法律名の修正）を行った。

## （2） 政令

食品安全委員会令（平成 15 年政令第 273 号）は、2003 年（平成 15 年）のと畜場法施行令の一部改正に伴う規定の整理が行われた以降、改正されていない。

## （3） 内閣府令、訓令

① 食品安全委員会令第 1 条第 1 項の内閣府令で定めるときを定める内閣府令（平成 15 年内閣府令第 66 号）

本府令は、2013 年（平成 25 年）5 月以降、下記のとおり改正が行われた。

2013 年（平成 25 年）6 月に、遺伝子組換え食品等の安全性審査の手続きを定めようとするとき及び遺伝子組換え飼料等の安全性の確認の手続きを定めようとするときを委員会に対する必須諮問事項に追加する改正を行った。

2015 年（平成 27 年）11 月に、飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の一部改正に伴

い、農林水産大臣が定める基準を満たす遺伝子組換え飼料添加物については、農林水産大臣の確認を不要とされたことから、農林水産大臣が基準を定めようとするときに委員会に対する必須諮問事項に追加する改正を行った。

2018年(平成30年)11月に、農薬取締法の一部を改正する法律(平成30年法律第53号)の施行に伴い、本府令において引用している告示の名称が改正されることから、本府令において当該告示名の改正を行った。

## ② 食品安全委員会事務局組織規則(平成15年内閣府令第67号)

本府令は、2013年(平成25年)5月以降、下記のとおり改正が行われた。

2015年(平成27年)4月に、法第23条第1項第6号に規定する科学的調査及び研究に関する事務を総務課の所掌から評価第一課へ移管する等の所要の改正を行った。

2023年(令和5年)3月に、リスクコミュニケーション官を廃止し、評価第一課に農薬評価室を設置する改正を行った(同年4月1日施行)。

## ③ 評価技術企画室の設置に関する訓令(平成27年内閣府訓令第25号)

2015年(平成27年)4月に、より迅速かつ信頼性の高いリスク評価のための新しい評価方法及び新たな技術を応用した食品の評価方法の企画・立案機能を強化するため、評価第一課に評価技術企画室及び評価技術企画官を設置することとした(平成27年4月10日施行)。

## ④ 評価情報分析官の設置に関する訓令(平成24年内閣府訓令第15号)

本訓令は、2012年(平成24年)4月に施行されて以降、改正は行われていない。

## (4) 委員会決定

委員会の運営に必要な事項や食品健康影響評価の方針等を委員会決定として定めている。2013年(平成25年)以降に策定・改正されたものの概要は以下のとおりである。

### ① 食品安全委員会専門調査会等運営規程(平成15年7月9日委員会決定)

2003年(平成15年)7月9日の第2回委員会会合において決定された「食品安全委員会専門調査会運営規程」は、専門調査会の運営や各専門調査会の所掌事務を定めているが、各専門調査会の再編等のため、2013年(平成25年)以降、3回改正された。

ア 2015年(平成27年)9月29日の第578回委員会会合において、①専門委員の任期を明文化し、②ワーキンググループに関する規定を新たに追加し、③化学物質・汚染物質専門調査会の名称を汚染物質等専門調査会に変更し、④規程の名称を「食品安全委員会専門調査会等運営規程」に改める改正が了承され、同年10月1日に改正された。

イ 2018年(平成30年)4月3日の第691回委員会会合において、ワーキンググループの廃止に関する規定を追加する改正が了承され、同日に改正された。

ウ 2020年（令和2年）3月24日の第777回委員会会合において、農薬専門調査会を廃止し、農薬全般に関する事項や再評価に関する事項について調査審議を行う農薬第一専門調査会並びに個別の品目について調査審議を行う農薬第二専門調査会、農薬第三専門調査会、農薬第四専門調査会及び農薬第五専門調査会を設置する改正が了承され、同年4月1日に改正された。

②テレビ会議又はWeb会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について（令和2年4月9日委員会決定）

2020年（令和2年）4月9日の第779回委員会会合において決定された「テレビ会議又はWeb会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について」は、天災等のやむを得ない事情がある場合、専門調査会等の会合に専門委員等がテレビ会議又はWeb会議システムを用いて出席することができることを定めている。

③食品安全委員会緊急時対応指針（平成17年4月21日委員会決定）

2005年（平成17年）4月21日の第91回委員会会合において決定された「食品安全委員会緊急時対応指針」は、食中毒等による緊急事態等への対応に関する手順を定めており、2023年（令和5年）3月28日の第894回委員会会合において、2023年度（令和5年度）の委員会事務局の組織再編等を踏まえた改正が了承され、同年4月1日付で改正された。

④食品健康影響評価に係る指針について

調査審議の透明性の確保及び円滑化に資するため、評価指針等の策定及び改正を行っており、2013年（平成25年）以降、新たに策定又は改正した評価指針の概要は以下のとおりである。

ア 添加物に関する食品健康影響評価指針（令和3年9月28日委員会決定）

イ 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針（平成29年7月18日委員会決定）

・令和3年9月28日一部改正

ウ 残留農薬に関する食品健康影響評価指針（令和元年10月1日委員会決定）

・令和3年4月6日一部改正

エ 動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（平成30年4月10日委員会決定）

・平成30年9月25日一部改正

オ 食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針（令和元年5月28日委員会決定）

・令和2年10月6日一部改正

カ 食品により媒介される微生物等に関する食品健康影響評価指針（令和4年6月21日委員会決定）



キ 飼料添加物に関する食品健康影響評価指針（令和 3 年 5 月 18 日委員会決定）

ク 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針（平成 29 年 7 月 18 日委員会決定）  
・令和 3 年 9 月 28 日一部改正

ケ 香料に関する食品健康影響評価指針（平成 28 年 5 月 17 日委員会決定）  
・令和 3 年 9 月 28 日一部改正

コ 家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針  
（平成 16 年 9 月 30 日委員会決定）  
・令和 4 年 3 月 22 日一部改正

サ 食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針〔動物試験で得られた  
用量反応データへの適用〕（令和元年 10 月 29 日委員会決定）  
・令和 4 年 6 月 14 日一部改正

#### 【付録】

法令・委員会決定の詳しい情報は下記リンク先に掲載。

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）



<https://www.fsc.go.jp/hourei/>

食品安全委員会専門調査会等運営規程（平成 15 年 7 月 9 日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/iinkai/index2.data/senmontyousakaiunneikitei.pdf>

食品安全委員会緊急時対応指針（平成 17 年 4 月 21 日委員会決定）



[https://www.fsc.go.jp/iinkai/index2.data/04\\_kinkyuji-taiousisin.pdf](https://www.fsc.go.jp/iinkai/index2.data/04_kinkyuji-taiousisin.pdf)

添加物に関する食品健康影響評価指針（令和3年9月28日委員会決定）  
添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針（平成29年7月18日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/tenkabutu/>

香料に関する食品健康影響評価指針（平成28年5月17日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/kouryou.html>

残留農薬に関する食品健康影響評価指針（令和元年10月1日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/>

動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（平成30年4月10日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/doubutu/>

食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針（令和元年5月28日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/kiguyouki/>

食品により媒介される微生物等に関する食品健康影響評価指針（令和4年6月21日委員会決定）



[https://www.fsc.go.jp/senmon/biseibutu\\_virus/](https://www.fsc.go.jp/senmon/biseibutu_virus/)

栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針（平成29年7月18日委員会決定）  
食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針〔動物試験で得られた用量反応データへの適用〕（令和元年10月29日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/>

飼料添加物に関する食品健康影響評価指針（令和3年5月18日委員会決定）  
家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針（平成16年9月30日委員会決定）



<https://www.fsc.go.jp/senmon/hisiryou/>

# 1 委員会会合開催実績一覧

【2023年（令和5年）3月31日現在】

年 度		開催回数	主な評価実績
2013年度 (平成25年度)	第469回～第509回	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し（我が国の検査対象月齢の引き上げ）</li> <li>・食品中のリステリア・モノサイトゲネス</li> <li>・食品中のヒ素</li> <li>・オクラトキシンA</li> </ul>
2014年度 (平成26年度)	第510回～第555回	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豚の食肉の生食</li> <li>・高濃度にジアシルグリセロールを含む食品</li> </ul>
2015年度 (平成27年度)	第556回～第600回	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クドア（クドア属粘液胞子虫）</li> </ul>
2016年度 (平成28年度)	第601回～第644回	44	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加熱時に生じるアクリルアミド</li> <li>・牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し（健康と畜牛のBSE検査の廃止）</li> <li>・家畜に使用する硫酸コリスチン</li> </ul>
2017年度 (平成29年度)	第645回～第690回	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミニウム</li> <li>・フモニシン</li> <li>・清涼飲料水中に含まれる亜鉛、鉄、カルシウム、マグネシウム等（硬度）</li> <li>・豆腐の規格基準の改正（無菌充填豆腐）</li> </ul>
2018年度 (平成30年度)	第691回～第736回	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六価クロム</li> </ul>
2019年度 (令和元年度)	第737回～第778回	42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性</li> <li>・食品中のデオキシニバレノールの規格基準の設定</li> </ul>
2020年度 (令和2年度)	第779回～第810回	32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳及び乳製品の成分規格等に関する省令に基づく調製粉乳の審査事項</li> <li>・合成型肥育ホルモン</li> </ul>
2021年度 (令和3年度)	第811回～第853回	43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品及び器具・容器包装中の鉛</li> <li>・アレルギー物質を含む食品</li> </ul>
2022年度 (令和4年度)	第854回～第894回	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶどう酒の製造に用いる添加物</li> </ul>

## 2 専門調査会開催実績

(令和5年3月31日現在)

専門調査会等名 (統廃合前の専門調査会名)	20年間の総数	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
企画等専門調査会	38	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3
(企画専門調査会)	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(リスクコミュニケーション 専門調査会)	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(緊急時対応専門調査会)	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(リスクコミュニケーション・ 緊急時対応専門調査会合同)	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
添加物専門調査会	190	6	2	7	6	4	7	7	11	12	12
農薬第一専門調査会	14	6	4	4	—	—	—	—	—	—	—
農薬第二専門調査会	24	7	8	9	—	—	—	—	—	—	—
農薬第三専門調査会	20	6	6	8	—	—	—	—	—	—	—
農薬第四専門調査会	22	8	7	7	—	—	—	—	—	—	—
農薬第五専門調査会	21	8	6	7	—	—	—	—	—	—	—
(農薬専門調査会)	711	—	—	—	43	44	43	43	49	55	52
動物用医薬品専門調査会	274	10	10	12	7	10	12	11	13	14	12
汚染物質等専門調査会	11	8	1	0	0	0	0	1	1	—	—
(化学物質・汚染物質専門調査会)	59	—	—	—	—	—	—	—	—	6	9
(化学物質専門調査会)	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(汚染物質専門調査会)	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(化学物質・汚染物質専門調査会 合同ワーキンググループ)	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
器具・容器包装専門調査会	62	0	1	1	1	5	2	1	7	8	5
微生物・ウイルス専門調査会	96	3	5	2	0	3	7	3	5	11	9
(微生物専門調査会)	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(ウイルス専門調査会)	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
プリオン専門調査会	123	1	1	4	3	6	5	4	10	5	6
かび毒・自然毒等専門調査会	55	1	0	0	0	4	3	9	4	2	8
遺伝子組換え食品等専門調査会	235	12	14	10	15	12	14	11	11	11	12
新開発食品専門調査会	135	0	0	1	5	4	2	4	5	9	7
肥料・飼料等専門調査会	186	14	12	9	9	9	13	9	11	15	17
有機フッ素化合物(PFAS) ワーキンググループ	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ぶどう酒の製造に用いる添加物 に関するワーキンググループ	10	2	8	—	—	—	—	—	—	—	—
(菌末を原材料として使用する調整 粉乳に関するワーキンググループ)	4	0	0	2	2	—	—	—	—	—	—
(鉛ワーキンググループ)	8	0	2	5	1	—	—	—	—	—	—
香料ワーキンググループ	1	0	0	0	0	0	1	—	—	—	—
(アレルギーを含む食品に関する ワーキンググループ)	15	—	0	7	5	1	2	—	—	—	—
(六価クロムワーキンググループ)	4	—	0	0	0	2	2	—	—	—	—
(清涼飲料水等に関する ワーキンググループ)	3	—	—	—	—	0	2	1	—	—	—
評価技術企画ワーキンググループ	28	5	2	5	4	3	6	3	—	—	—
薬剤耐性菌に関するワーキンググループ	46	8	7	6	6	5	5	5	4	—	—
栄養成分関連添加物ワーキンググループ	19	1	5	1	2	2	0	7	1	—	—
(加熱時に生じるアクリルアミド ワーキンググループ)	1	—	—	—	—	0	0	0	1	—	—
(いわゆる「健康食品」に関する 検討ワーキンググループ)	4	—	—	—	—	0	0	0	4	—	—
(放射性物質の食品健康影響評価 に関するワーキンググループ)	9	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0
(高濃度にジアシルグリセロールを 含む食品に関するワーキンググループ)	7	—	—	—	—	0	0	0	0	2	0
(新開発食品・添加物専門調査会 合同ワーキンググループ)	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(食品による窒息事故に関する ワーキンググループ)	7	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0
企画等計	160	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3
評価系計	2,474	107	101	107	109	114	126	119	137	150	149
計	2,634	110	104	110	112	117	129	122	141	154	152

### 3 食品健康影響評価の諮問案件に対する審議状況

区分	令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度		平成25年度		20年間全件数		参考
	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	要請 件数	評価 終了 件数	
添加物	8	4	6	3	1	8	10	3	10	16	9	12	102	94	14	24	7	6	9	10	310	302	0
栄養成分添加物	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0
香料	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0
農薬	58	44	43	56	41	39	35	68	59	52	46	73	81	94	46	70	35	69	127	126	1,384	1,230	0
動物用医薬品	22	18	9	18	7	15	22	9	18	21	22	33	31	24	31	43	113	122	26	42	662	641	0
器具・容器包装	0	0	0	1	1	1	3	1	1	1	0	0	0	2	0	3	0	1	0	0	21	20	0
汚染物質等	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	4	0	1	0	0	3	3	5	4	68	67	3
微生物・ウイルス	0	0	0	0	1	2	4	3	1	1	1	1	0	0	1	1	3	3	3	4	21	21	2
アミン	0	0	0	0	2	4	4	8	3	3	5	4	3	3	12	9	8	6	7	5	67	59	14
かび毒・自然毒	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	2	9	5	5
遺伝子組換え食品等	8	14	21	33	29	10	23	16	17	20	18	21	22	17	18	25	12	24	38	26	375	359	0
新開発食品	0	0	0	0	0	1	6	7	1	0	1	1	1	3	1	4	3	7	3	0	91	91	3
肥料・飼料等	12	15	3	18	7	16	32	13	19	26	26	29	25	27	5	17	30	24	14	28	323	291	0
薬剤耐性菌	3	1	0	3	0	2	2	4	4	6	2	3	1	4	3	11	5	2	1	18	72	62	1
その他	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	6	2
合計	111	97	82	133	89	98	145	139	134	154	138	181	267	271	132	207	219	269	234	265	3,418	3,157	30
うち厚生労働省	71	77	66	108	71	84	116	97	91	111	88	124	241	245	92	146	76	119	198	202	-	-	-
うち農林水産省	40	20	16	25	18	13	23	35	42	43	49	56	24	22	39	57	140	143	33	63	-	-	-
うち消費者庁	0	0	0	0	0	1	6	7	1	0	1	1	1	3	1	4	3	7	3	0	-	-	-
うち環境省	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-

(注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。  
 2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。  
 3 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会（H18.3.6～H27.8.24）で審議したものも含む。

#### 4 自ら評価案件一覧<sup>1</sup>

2023年（令和5年）2月3日現在

案件	実施決定日	評価結果通知日
食品及び器具・容器包装中の鉛	2008年（平成20年）4月17日	2021年（令和3年）年6月29日
オクラトキシンA	2009年（平成21年）3月19日	2014年（平成26年）年1月27日
食品中のヒ素	2009年（平成21年）3月19日	2013年（平成25年）年12月16日
アルミニウム	2010年（平成22年）3月18日	2017年（平成29年）12月19日
加熱時に生じるアクリルアミド	2011年（平成23年）3月31日	2016年（平成28年）4月5日
クドア属粘液胞子虫	2013年（平成25年）3月11日	2015年（平成27年）11月10日
フモニン	2015年（平成27年）3月24日	2017年（平成29年）9月26日
アレルギー物質を含む食品	2016年（平成28年）3月29日	卵：2021年（令和3年）6月8日
有機フッ素化合物（PFAS）	2023年（令和5年）1月31日	

<sup>1</sup> 自ら評価案件の実施決定日又は評価結果の通知日が、2013（平成25）年6月1日～2023（令和5）年3月31日の案件について記載

## 5 実施状況調査実績一覧

	調 査 対 象	委員会報告
第18回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2012年（平成24年）4月から2012年（平成24年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（9分野、64品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（9分野、177品目）</li> </ul>	第494回 食品安全委員会 2013年（平成25年） 11月18日
第19回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2012年（平成24年）10月から2013年（平成25年）3月までに食品健康影響評価を通知した品目（9分野、122品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（9分野、123品目）</li> </ul>	第524回 食品安全委員会 2014年（平成26年） 7月29日
第20回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2013年（平成25年）4月から2014年（平成26年）3月までに食品健康影響評価を通知した品目（10分野、259品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（9分野、183品目）</li> </ul>	第600回 食品安全委員会 2016年（平成28年） 3月29日
第21回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014年（平成26年）4月から2015年（平成27年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（12分野、234品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（9分野、240品目）</li> </ul>	第666回 食品安全委員会 2017年（平成29年） 9月19日
第22回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2015年（平成27年）10月から2016年（平成28年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（10分野、228品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（6分野、119品目）</li> </ul>	第680回 食品安全委員会 2018年（平成30年） 1月16日
第23回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016年（平成28年）10月から2017年（平成29年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（9分野、199品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（8分野、200品目）</li> </ul>	第731回 食品安全委員会 2019年（平成31年） 2月19日
第24回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017年（平成29年）10月から2018年（平成30年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（10分野、186品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（7分野、83品目）</li> </ul>	第773回 食品安全委員会 2020年（令和2年） 2月18日
第25回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018年（平成30年）10月から2019年（令和元年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（12分野、154品目）</li> <li>・ 前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（7分野、87品目）</li> </ul>	第808回 食品安全委員会 2021年（令和3年） 3月16日
第26回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019年（令和元年）10月から2020年（令和2年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（12分野、98品目）</li> </ul>	第842回 食品安全委員会



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（8分野、83品目）</li> </ul>	2021年（令和3年） 12月14日
第27回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年（令和2年）10月から2021年（令和3年）9月までに食品健康影響評価を通知した品目（11分野、141品目）</li> <li>・前回までの調査において、具体的なリスク管理措置が講じられていなかった品目（6分野、67品目）</li> </ul>	第883回 食品安全委員会 2022年（令和4年） 12月20日

## 6 食品安全確保総合調査課題一覧

### 2013年度（平成25年度）【4課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	ビスフェノールAの食品健康影響評価に関する評価手法の調査及び情報収集・分析	(株) 三菱化学テクノロジーサーチ
2	動物用抗菌性物質の微生物学的影響についての調査	(一財) 生物科学安全研究所
3	畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査	(一財) 東京顕微鏡院
4	陰膳サンプルを用いた化学物質・汚染物質の分析調査	(一財) 日本食品分析センター

### 2014年度（平成26年度）【6課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	動物用抗菌性物質の微生物学的影響についての調査	(一財) 生物科学安全研究所
2	清涼飲料水中の化学物質に係る食品健康影響評価のための情報収集・調査	(株) 三菱化学テクノロジーサーチ
3	毒性学的懸念の閾値（TTC）を用いたリスク評価手法に関する調査	(株) 三菱化学テクノロジーサーチ
4	添加物のうち、加工助剤（殺菌剤、酵素、抽出溶媒等）及び栄養成分に関するリスク評価手法の開発に関する調査・研究	(株) 三菱化学テクノロジーサーチ
5	畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査	(一財) 東京顕微鏡院
6	食品健康影響評価に関する研究者・研究内容等の調査	(株) 三菱化学テクノロジーサーチ

### 2015年度（平成27年度）【6課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	動物用再生医療等製品のリスク評価ガイドライン案を検討するための基礎的調査	(一財) 生物科学安全研究所
2	畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査（鶏肉中の大腸菌、腸球菌及びサルモネラ）	(一財) 東京顕微鏡院
3	<i>in silico</i> 評価方法等食品に係る新たなリスク評価方法の開発・実用化に関する国際的な状況の調査	(一財) 化学物質評価研究機構
4	フモニシンに係る食品健康影響評価に関する調査	(一財) 日本食品分析センター
5	鉛の食品健康影響評価のための情報収集・調査	(株) 東レリサーチセンター
6	原材料に着目して料理を品目に細分化する手法等に関する諸外国の実態調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ (株)

### 2016年度（平成28年度）【7課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
----	-------	--------

1	畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査（水産関連プロトコル作成）	（一財）東京顕微鏡院
2	清涼飲料水中の化学物質（六価クロム）の規格基準改正に係る食品健康影響評価のための情報収集・調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
3	アレルギー物質を含む食品のリスク評価方法に関する調査	（一財）日本食品分析センター
4	カンピロバクター属菌及びノロウイルスのリスク評価の検討に関する調査	（株）三菱総合研究所
5	動物用抗菌性物質の微生物学的影響についての調査	（一財）生物科学安全研究所
6	原材料に着目して料理を品目に細分化する手法等に関する諸外国の実態調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
7	次世代シーケンサーの活用状況等に関する調査	（一財）化学物質評価研究機構

2017年度（平成29年度）【7課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査（水産関連プロトコルの試行）	（一財）東京顕微鏡院
2	海外における汚染物質等に係るばく露評価に関する実態調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
3	卵及び乳アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
4	食品健康影響評価及びその関連情報の検索性向上に関する調査	みずほ情報総研（株）
5	食品を介してヒトに伝播される薬剤耐性菌に関する文献等調査	（株）三菱総合研究所
6	海外における食品添加物のリスク評価手法に関する実態調査	エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
7	<i>in silico</i> 評価支援ツールの現状に関する調査	（一財）化学物質評価研究機構

2018年度（平成30年度）【5課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	麦類及びそば類アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
2	器具・容器包装の規格基準改正（カドミウム）に係る食品健康影響評価のための情報収集	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
3	ポジティブリスト制度施行に伴い暫定基準の設定された動物用医薬品（ホルモン剤等）に係る食品健康影響評価に関する文献調査	エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
4	遺伝子組換え食品等の安全性評価における構成成分データの評価に関するガイダンス作成のための調査	（株）東レリサーチセンター
5	ベンチマークドーズ法に関するガイダンス及び導入支援ソフトウェア等の現状調査	（一財）化学物質評価研究機構

※ 遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーデータの活用に関するガイダンス作成のための調査 実施せず

## 2019年度（令和元年度）【5課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	食品用器具・容器包装に用いられるビスフェノールAに係る評価手法及び科学的知見（体内動態、毒性、ばく露量、疫学調査等）に関する調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
2	えび、かに及び落花生アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査	東レリサーチセンター（株）
3	薬剤耐性菌のリスク評価手法の検討に関する調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
4	ファクトシートのためのダイオキシン類及びヒスタミンの科学的知見の収集に関する調査	東レリサーチセンター（株）
5	海外のリスク評価機関における評価結果等に関する調査	（一財）残留農薬研究所

## 2020年度（令和2年度）【6課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	食品中の化学物質への複合ばく露に関する情報収集調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
2	疫学研究で得られた用量反応データへのベンチマークドーズ法の適用に関する調査	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ（株）
3	食品安全委員会が行うリスクコミュニケーションに関する意識調査	（株）インテージリサーチ
4	加熱調理の科学的情報の解析及び画像の開発	国立大学法人お茶の水女子大学
5	海外のリスク評価機関における評価結果等に関する調査	（一財）残留農薬研究所
6	FAO/WHOによる新たな食品中の微生物リスク評価手法に関する調査	（株）日本総合研究所

## 2021年度（令和3年度）【3課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	特定の新規食品の安全性評価手法に関する調査	（株）三菱ケミカルリサーチ
2	野生動物由来の食肉中のハザードに関する調査	（株）日本総合研究所
3	化学物質のリスク評価における不確実係数の設定に関する調査	（株）政策基礎研究所

## 2022年度（令和4年度）【6課題】

番号	調査課題名	調査実施機関
1	アレルギーを含む食品のファクトシート（乳、麦類）の策定に向けた科学的知見の調査	学校法人星薬科大学
2	食品添加物のばく露評価に関する情報収集調査	学校財団法人関西大学
3	食品添加物の海外の評価結果等に関する情報収集及び調査	（公財）日本食品化学研究振興財団

4	農薬リスク評価に関する海外状況調査（令和4年度）	（株）三菱ケミカルリサーチ
5	パーフルオロ化合物に係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理	（一財）化学物質評価研究機構
6	食品安全委員会が地方自治体等と連携して行う食品安全に関する情報発信・リスクコミュニケーションの強化に関する調査	日本エヌ・ユー・エス（株）

## 7 食品健康影響評価技術研究採択課題一覧

### 2013年度（平成25年度）【5課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1301	ヒト型遺伝子改変マウスを用いた非定型BSEの人に対する感染リスクの定量的評価	松浦裕一	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所	25年度から26年度 (2年間)
1302	核内受容体作用と酵素誘導解析を基盤とした、化学物質による肝肥大の毒性学的評価に関する研究	吉成浩一	東北大学	25年度から26年度 (2年間)
1303	化学物質により誘発される肝肥大の毒性学的評価手法の確立と今後の問題点	吉田緑	国立医薬品食品衛生研究所	25年度から26年度 (2年間)
1304	遺伝毒性発がん物質のリスク評価手法に関する研究	小野敦	国立医薬品食品衛生研究所	25年度から26年度 (2年間)
1305	食用動物由来薬剤耐性菌の定量的食品健康影響評価モデルの確立	田村豊	酪農学園大学	25年度から26年度 (2年間)

### 2014年度（平成26年度）【8課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1401	香料化合物のリスク評価手法に関する調査研究	山崎壮	実践女子大学	26年度 (1年間)
1402	レチノイン酸の濃度変化を引き起して催奇形性を示す化学物質のスクリーニング法の開発と催奇形性発症の分子機構の解明	永田清	東北薬科大学	26年度から27年度 (2年間)
1403	熱帯性魚類食中毒シガテラのリスク評価のための研究	大城直雅	国立医薬品食品衛生研究所	26年度から27年度 (2年間)
1404	食品摂取により発症する新規アレルギー／アレルギー様反応に関する調査研究	柘植郁哉	藤田保健衛生大学	26年度から27年度 (2年間)
1405	肝マクロファージの機能特性に基づいた肝毒性の新規評価手法の構築と緻密化	山手丈至	大阪府立大学	26年度 (1年間)
1406	低水分含量食品中における食中毒細菌（サルモネラ、腸管出血性大腸菌）の菌数変動および生存確率予測モデルの開発	小関成樹	北海道大学	26年度から27年度 (2年間)
1407	食品中ヒ素の代謝物ジメチルモノチオアルシン酸の発がん性に関する研究	鰐淵英機	大阪市立大学	26年度から27年度 (2年間)
1408	食品からのアクリルアミド摂取量の統計的推定に関する研究	鈴木規之	独立行政法人国立環境研究所	26年度 (1年間)

## 2015年度（平成27年度）【8課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1501	農薬の毒性評価における「毒性プロファイル」と「毒性発現量」の種差を考慮した毒性試験の新たな段階的評価手法の提言-イヌ慢性毒性試験とマウス発がん性試験の必要性について-	小野敦	国立医薬品食品衛生研究所	27年度から28年度 (2年間)
1502	栄養成分・加工助剤に関するリスク評価方法の確立に関する研究	梅村隆志	国立医薬品食品衛生研究所	27年度 (1年間)
1503	食事由来アクリルアミドばく露量推定方法の開発と妥当性の検討および大規模コホート研究に基づく発がんリスクとの関連に関する研究	祖父江友孝	大阪大学	27年度から28年度 (2年間)
1504	家畜とヒトとの間における薬剤耐性菌の循環に関する分子疫学および時空間比較ゲノム解析	荒川宜親	名古屋大学	27年度から28年度 (2年間)
1505	食品に対する乳児期のアレルギー性反応獲得メカニズムと発症リスク評価	木戸博	徳島大学	27年度から28年度 (2年間)
1506	食品ごとの「IgE抗体の作らせやすさ」を測定する系の樹立に関する研究	斎藤博久	独立行政法人国立成育医療研究センター	27年度から28年度 (2年間)
1507	食品由来のアクリルアミド摂取量の推定に関する研究	河原純子	独立行政法人国立環境研究所	27年度から28年度 (2年間)
1508	香料の摂取量に関する評価方法の確立に関する研究	佐藤恭子	国立医薬品食品衛生研究所	27年度 (1年間)

## 2016年度（平成28年度）【7課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1601	経管栄養食品等に含まれるセレン化合物の化学形態に着目したリスク評価及びバイオアベイラビリティに関する研究	小椋康光	千葉大学	28年度から29年度 (2年間)
1602	インビボ毒性試験成績のデータベース化とそのインシリコ解析・評価への応用に関する研究	吉成浩一	静岡県立大学	28年度から29年度 (2年間)
1603	食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究	尾崎麻子	大阪市立環境科学研究所	28年度から29年度 (2年間)
1604	有機ヒ素化合物による発がんメカニズムの解明	鰐淵英機	大阪市立大学	28年度から29年度 (2年間)
1605	血漿マイクロRNAの発現変動を指標とした化学物質の新規毒性評価系の構築・評価研究	横井毅	名古屋大学	28年度から29年度 (2年間)
1606	食肉由来腸球菌の抗菌性飼料添加物に対する耐性と多剤耐性伝達性プラスミドとの関係についての調査・研究	富田治芳	群馬大学	28年度から29年度 (2年間)

1607	発生毒性試験における胎児形態異常に関するデータ収集と骨格変異の毒性学的意義に関する研究：フルシトシン誘発性過剰肋骨の発現機序からの考察	桑形麻樹子	一般財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所	28年度から29年度 (2年間)
------	---	-------	------------------------	---------------------

2017年度（平成29年度）【6課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1701	アレルギー物質を含む食品についてのリスク評価方法の確立に関する研究	斎藤博久	国立成育医療研究センター	29年度 (1年間)
1702	試験管内プリオン増幅系を用いた「種の壁」の定量的評価のための研究	岩丸祥史	農業・食品産業技術総合研究機構	29年度から30年度 (2年間)
1703	コリスチン耐性菌の出現状況と特性解析に関する研究	田村豊	酪農学園大学	29年度から30年度 (2年間)
1704	無機ヒ素ばく露評価およびその手法に関する研究	吉永淳	東洋大学	29年度から30年度 (2年間)
1705	食物アレルギーと経口免疫寛容の成立機序の違いとアナフィラキシーの発症機序から見たリスク評価	木戸博	徳島大学	29年度から30年度 (2年間)
1706	合成樹脂製器具・容器包装のリスク評価における溶出試験法に関する研究	六鹿元雄	国立医薬品食品衛生研究所	29年度から31年度 (3年間)

2018年度（平成30年度）【8課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1801	新規評価支援技術の開発に関する研究－毒性予測に向けたデータベースの活用方法の検討－	頭金正博	名古屋市立大学	30年度から平成31年度 (2年間)
1802	食物消化過程におけるカンピロバクターの生残特性を基盤とする新たな用量反応モデルの開発	小関成樹	北海道大学	30年度から平成31年度 (2年間)
1803	食品に非意図的に混入する微量化学物質のリスク評価への <i>in silico</i> 評価手法の適用に関する研究	小野敦	岡山大学	30年度から平成31年度 (2年間)
1804	ベンチマークドース手法の健康影響評価における適用条件の検討	広瀬明彦	国立医薬品食品衛生研究所	30年度から平成31年度 (2年間)
1805	食品添加物のリスク評価手法に関する研究－乳児を対象とした評価手法及び毒性試験全般に関する最新の国際動向等を踏まえた提言－	梅村隆志	ヤマザキ動物看護大学	30年度 (1年間)
1806	国内で多発するカンピロバクター食中毒の定量的リスク分析に関する研究	朝倉宏	国立医薬品食品衛生研究所	30年度から平成31年度 (2年間)
1807	重篤なアレルギーのリスクとなる果物類アレルゲンコンポーネントに関する研究	丸山伸之	京都大学	30年度から平成31年度 (2年間)



1808	フモニシンのモディファイド化合物のリスク評価に関する研究	吉成知也	国立医薬品食品衛生研究所	30年度から平成31年度 (2年間)
------	------------------------------	------	--------------	-----------------------

2019年度（令和元年度）【9課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
1901	体内移行に着目した食品添加物のリスク評価手法に関する研究	梅村隆志	ヤマザキ動物看護大学	令和元年度 (1年間)
1902	導入遺伝子が存在しない宿主ゲノム遺伝子発現改変植物由来食品の安全性評価点の解明	児玉浩明	千葉大学	令和元年度～令和2年度 (2年間)
1903	認知心理学を応用した中学生・高校生を対象とした食品安全に関する理解促進プログラム（教材）の開発	和田有史	立命館大学	令和元年度～令和3年度 (3年間)
1904	アクリルアミドばく露による発がんリスク評価～大規模コホート研究保存検体を用いたコホート内症例対照研究による検討	石原淳子	麻布大学	令和元年度～令和3年度 (3年間)
1905	メチル水銀の脱メチル化機構における食品中の水銀／セレンのバイオジェニックナノ粒子形成	小椋康光	千葉大学	令和元年度～令和2年度 (2年間)
1906	国際動向に立脚した農薬代謝物の新たなリスク評価手法に関する研究	小野敦	岡山大学	令和元年度～令和4年度 (4年間)
1907	二値反応の用量反応データを対象としたベンチマークドーズ計算ソフトウェアの開発研究	西浦博	京都大学	令和元年度～令和2年度 (2年間)
1908	ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与割合の推計に関する研究	上間匡	国立医薬品食品衛生研究所	令和元年度、令和3年度～令和4年度 (3年間)
1909	アニサキス汚染実態調査およびリスク低減策の評価に関する研究	大西貴弘	国立医薬品食品衛生研究所	令和元年度～令和3年度 (3年間)

2020年度（令和2年度）【9課題】

研究課題番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
JPCA FSC 2020 2001	ベイズ推定を活用したベンチマークドーズ法の評価手法検討と国際動向に関する研究	西浦博	京都大学	令和2年度～令和3年度 (2年間)
JPCA FSC 2020 2002	家畜由来薬剤耐性菌の水圏・土壌環境を介した野菜汚染の定量評価及びヒトへの伝播に関する研究	白井優	酪農学園大学	令和2年度～令和3年度 (2年間)
JPCA FSC 2020 2003	新生児期から乳幼児期におけるメチル水銀の曝露評価	龍田希	東北大学	令和2年度～令和4年度 (3年間)
JPCA FSC 2020 2004	乾燥・貧栄養ストレス下で生残する食中毒細菌のフードチェーンにおける動態解明と食中毒リスク予測手法の開発	小関成樹	北海道大学	令和2年度～令和4年度 (3年間)
JPCA FSC 2020 2005	食肉由来耐性菌の全ゲノムシーケンスを用いた薬剤耐性特性解析に関する研究	川津健太郎	地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所	令和2年度～令和3年度 (2年間)

JPCA FSC 2020 2006	<i>In silico</i> 手法の導入による食品関連化学物質の肝毒性予測の精緻化に関する事例研究	山田隆志	国立医薬品食品衛生研究所	令和2年度～令和3年度 (2年間)
JPCA FSC 2020 2007	食品用器具・容器包装に用いられるビスフェノールAのリスク評価に資する科学的知見の検討に関する研究	青山博昭	一般財団法人残留農薬研究所	令和2年度～令和3年度 (2年間)
JPCA FSC 2020 2008	ベイズ統計学に基づく推定手法を活用したアレルギー症状誘発確率の推計に関する研究	福家辰樹	国立成育医療研究センター	令和2年度～令和3年度 (2年間)
JPCA FSC 2020 2009	ベンチマークドーズ法によるアレルギー症状誘発確率の検討	海老澤元宏	国立病院機構相模原病院	令和2年度～令和3年度 (2年間)

2021年度（令和3年度）【3課題】

研究 課題 番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
JPCA FSC 2021 2101	遺伝子組換え台木と非組換え穂木間の生体成分輸送に起因する食品安全性の評価点解明	太田大策	大阪府立大学	令和3年度～令和4年度 (2年間)
JPCA FSC 2021 2102	無機ヒ素のヒト体内での健康影響発現メカニズムに関する研究	魏民	大阪市立大学	令和3年度～令和4年度 (2年間)
JPCA FSC 2021 2103	食品中の汚染物質のリスク評価手法に関する研究	岩澤聡子	防衛医科大学校	令和3年度～令和4年度 (2年間)

2022年度（令和4年度）【8課題】

研究 課題 番号	調査課題名	研究者名	所属組織	研究期間
JPCA FSC 2022 2201	国内の鉛ばく露の実態と小児の神経発達への影響に関する研究	岩井美幸	国立環境研究所	令和4年度～令和5年度 (2年間)
JPCA FSC 2022 2202	鶏肉のフードチェーンを通じたカンピロバクターの定量的動態解析とリスク低減効果の評価に向けた研究	朝倉宏	国立医薬品食品衛生研究所	令和4年度～令和5年度 (2年間)
JPCA FSC 2022 2203	誘電泳動法を用いた細胞分離・捕捉技術の確立による Viable But Non-Culturable 状態のカンピロバクターの網羅的特性解析	小関成樹	北海道大学	令和4年度～令和6年度 (3年間)
JPCA FSC 2022 2204	アニサキス食中毒リスク評価に関する調査研究	大西貴弘	国立医薬品食品衛生研究所	令和4年度～令和5年度 (2年間)
JPCA FSC 2022 2205	<i>Campylobacter jejuni</i> における未解明な環境適応機構に対する新しいアプローチの確立	山本章治	国立感染症研究所	令和4年度～令和5年度 (2年間)
JPCA FSC 2022 2206	化学物質による非遺伝毒性発がんの新規リスク予測・評価手法の開発	吉成浩一	静岡県立大学	令和4年度～令和5年度 (2年間)
JPCA FSC 2022 2207	食品中に存在するナノ粒子のリスク評価手法に関する研究	広瀬明彦	国立医薬品食品衛生研究所	令和4年度～令和6年度 (3年間)
JPCA FSC 2022 2208	細胞培養技術を用いて製造される食肉のリスク評価手法に関する研究	五十君静信	東京農業大学	令和4年度～令和5年度 (2年間)

## 8-1 リスクコミュニケーション実績一覧

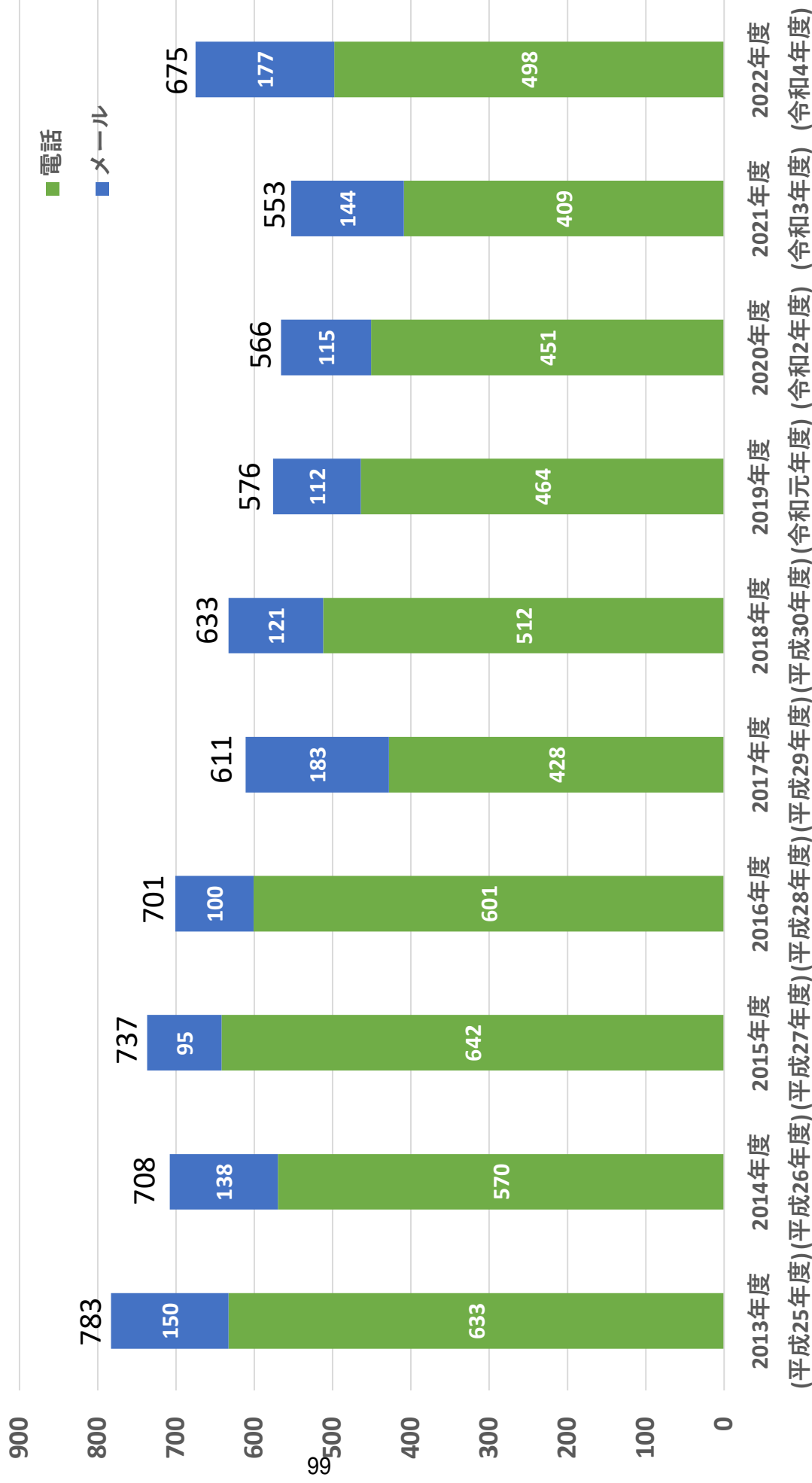
〔2013年（平成25年）6月1日  
～2023年（令和5年）3月31日現在〕

ツール	概要
パブリックコメント	食品安全委員会が取りまとめた食品健康影響評価等に対するご意見や情報を広く国民から募集するとともに、出された意見及びそれへの対応を公表している。
ウェブサイト	広く国民に向けて、原則公開で開催される各種委員会の資料、議事録等や食品安全に係る情報を掲載するとともに、緊急時の科学的知見を提供している。
Q&A	関心の高いハザードを分かりやすく解説するためのQ&Aや、「食の安全ダイアル」に多く寄せられた国民からの問合せとその回答を取りまとめ、ウェブサイトに掲載している。
ファクトシート	ハザードごとに、国際機関や国内外のリスク評価機関が公表した評価結果、最新の研究成果及びリスク管理措置等の情報を収集・整理した科学的知見に基づく概要書を作成し、公表している。
広報誌『食品安全』等冊子類	食品安全委員会の取組を広く国民に知ってもらうため、各年度の取組をわかりやすく取りまとめた広報誌「食品安全」を毎年作成している。また、食品安全委員会の概要を記載したパンフレットや、「科学の目で見える食品安全」、「キッズボックス総集編」等の冊子類を発行し、講師派遣、意見交換会及びイベント等において配布している。
食品の安全性に関する用語集	食品安全委員会が公表した食品健康影響評価書やリスクコミュニケーション媒体に記載されている用語を正しい解釈に基づき理解していただくため、用語の意味を説明したもの。ウェブサイトに掲載するとともに冊子を発行し、講師派遣、意見交換会及びイベント等において配布している。
食品安全委員会メールマガジン（食品安全委員会e-マガジン）	「メールマガジンウィークリー版」では食品安全委員会や各種専門調査会、意見交換会の開催予定を、「新着情報お知らせメール」では新たに公表した事項を情報発信している。併せて、緊急時には食品安全に関する正確な情報の発信もしている。 なお、リスク評価や食中毒予防等の詳しい情報を配信した「メールマガジン読み物版」は、2020年度（令和2年度）末で配信を終了した。
YouTube	2017年（平成29年）11月に開設。文字情報だけでは伝えられない情報をわかりやすく伝えられ、また、検索・おすすり等で長くアクセスが得られるが、詳細な情報は伝えにくいという動画の特性を踏まえつつ、事業者や消費者等の対象者を意識した情報を発信している。

Facebook	2014年（平成26年）2月に開設。食品安全委員会の活動状況のほか、機動的な対応が必要な健康被害案件、季節性を考慮した記事等、Facebookの拡散機能や利用者の二次利用を意識したテーマの記事を発信している。
Twitter	2021年（令和3年）10月に開設。情報収集の手段として用いられていることや、拡散力が高い等のTwitterの特性を活かし、食中毒の防止法等の国民にとって身近で関心（共感）が高い情報や、タイムリーな情報、緊急性の高い情報を食品安全委員会の活動に結びつけて発信している。
リスクコミュニケーション担当者会議	食品安全関連府省庁（食品安全委員会、消費者庁、厚生労働省、農林水産省及び環境省並びに2021年（令和3年）よりALPS処理水対応のため経済産業省が参加）のリスクコミュニケーション実担当者の連携の場として定期的を開催している。リスクコミュニケーションに関する情報交換のほか、各府省庁が連携し開催しているイベントや意見交換会の運営についての協議を行っている。
食品安全モニター会議等	食品安全モニターとしての基本的な知識習得のため、モニターの活動内容や食品安全委員会の役割、食品健康影響評価などについて、食品安全モニター向けの説明会やeラーニング、セミナーを開催している。 2018年度（平成30年度）より食品安全モニター会議に代わりeラーニングを開始した。 2021年度（令和3年度）より、eラーニングに加え、web会議システムを活用したセミナーも開催している。
意見交換会等	報道関係者や地方公共団体、事業者、一般消費者等を対象に、食品の安全に関する科学的な知識の普及、また、関係各機関との連携の強化、関係の構築を目的に行っている。
食品安全委員会委員の講演・講義等	食品安全委員会主催の勉強会や地方公共団体等でのイベントで、食品の安全に関する科学的知見に対する理解の促進を図るため、講演・講義を行うほか、関連学会への委員の派遣やブース出展も行っている。
食の安全ダイヤル	直接、国民からの食品の安全に関する問い合わせやご意見・情報をいただくとともに、食品の安全に関する知識・理解を深めていただくことを目的に設置している。

## 8-2 食の安全ダイヤル年度別受付件数

[ 2013年(平成25年)4月1日 ~ 2023年(令和5年)3月31日 ]



### 8-3 季刊誌「食品安全」発刊実績

	発刊年月	主な掲載内容
vol. 35	2013 年 (平成 25 年) 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：牛海綿状脳症（BSE）対策の見直しに係るリスク評価について～日本の BSE 検査対象月齢の引き上げ～</li> <li>・食品に関するリスクコミュニケーション：BSE 対策の見直しで意見交換会</li> <li>・特集：食品中のリステリア・モノサイトゲネスについてリスク評価を行いました</li> <li>・トピックス：クロムのファクトシートを紹介します</li> <li>・インフォメーション：2012 年度の自ら評価のテーマがクドアに決まりました</li> <li>・食の安全 Q &amp; A：夏の食中毒対策</li> <li>・キッズボックス：卵の豆知識</li> <li>・寄稿：「調理とリスクマネジメント」（石井克枝委員）</li> </ul>
vol. 36	2013 年 (平成 25 年) 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：食品安全委員会 設立 10 周年</li> <li>・トピックス：調理器具に用いられているシリコーン</li> <li>・インフォメーション：食品安全委員会と豪州・ニュージーランド食品基準機関（FSANZ）との定期会合開催</li> <li>・食品に関するリスクコミュニケーション：「食品を科学するーリスクアナリシス（分析）講座ー」開講</li> <li>・食の安全 Q &amp; A：きのこの食中毒</li> <li>・キッズボックス：大豆の豆知識</li> <li>・寄稿：「安全と安心の間」（上安平冽子委員）</li> </ul>
vol. 37	2014 年 (平成 26 年) 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：自ら評価「食品中のヒ素」の食品健康影響評価を行いました</li> <li>・特集：かび毒 オクラトキシン A について食品健康影響評価を行いました</li> <li>・インフォメーション：食品安全委員会専門調査会専門委員の改選が行われました</li> <li>・リスクコミュニケーション：食品安全委員会セミナー（ヒ素）報告</li> <li>・食の安全 Q &amp; A：「ADI」と「TDI」</li> <li>・キッズボックス：お米の豆知識</li> <li>・寄稿：「食品の安全と表示のはざま」（村田容常委員）</li> </ul>
vol. 38	2014 年 (平成 26 年) 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：フタル酸ジ（2-エチルヘキシル）の食品健康影響評価を行いました</li> <li>・トピックス：シガテラのファクトシートを紹介します</li> <li>・リスクコミュニケーション：食品を科学する リスクアナリシス（分析）講座</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーション：「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission』（食品安全委員会電子ジャーナル）創刊のお知らせ</li> <li>・キッズボックス：宇宙食の豆知識</li> <li>・寄稿：「食中毒予防の三原則について」（熊谷進委員長）</li> </ul>
vol. 39	2014年 (平成26年) 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：食品用ラップフィルムから溶出する物質について</li> <li>・コラム：ラップフィルムを安全に使用するために</li> <li>・トピックス：“食品の安全”に関する情報を収集・公開しています</li> <li>・インフォメーション：食品安全委員会セミナー「ビスフェノールAに関する国際セミナー」報告</li> <li>・リスクコミュニケーション：食品を科学する リスクアナリシス（分析）連続講座</li> <li>・キッズボックス：食べものにかかわる「単位」</li> <li>・寄稿：「安心して生卵を食べられる国」（佐藤洋委員長代理）</li> </ul>
vol. 40	2014年 (平成26年) 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：「二枚貝中のオカダ酸群」の食品健康影響評価について</li> <li>・トピックス：平成26年度食品健康影響評価技術研究成果発表会を開催</li> <li>・インフォメーション：食品安全委員会と豪州・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)との定期会合開催</li> <li>・リスクコミュニケーション：第9回 食育推進全国大会に参加</li> <li>・キッズボックス：季節の伝統食（秋・冬）</li> <li>・寄稿：「農薬や添加物等の遺伝毒性・発がん性評価の今と昔」（三森国敏委員長代理）</li> </ul>
vol. 41	2015年 (平成27年) 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：麻痺性貝毒のファクトシートをご紹介</li> <li>・インフォメーション：食品安全委員会セミナー「食品安全分野におけるリスクコミュニケーションに関する国際セミナー」報告</li> <li>・トピックス：内閣府特命担当大臣挨拶</li> <li>・インフォメーション：ジュニア食品安全ゼミナール</li> <li>・リスクコミュニケーション：食品を科学する リスクアナリシス（分析）連続講座（全7回）を開催しました</li> <li>・キッズボックス：食品の色はなぜ変わる？</li> <li>・寄稿：「からだの中の“門”と“関所”」（山添康委員長代理）</li> </ul>
vol. 42	2015年 (平成27年) 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：食肉の生食についての食品健康影響評価</li> <li>・特集：魚介類の生食で発症する寄生虫症 アニサキス症のファクトシートをご紹介</li> <li>・トピックス：内閣府特命担当大臣挨拶</li> <li>・インフォメーション：緊急時対応訓練を実施</li> <li>・リスクコミュニケーション：自治体と共催で行う意見交換会</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズボックス：春の山菜とあく抜きの効果</li> <li>・寄稿：「体にいいものを食べていますか」（石井克枝委員）</li> </ul>
vol. 43	2015 年 (平成 27 年) 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：加熱時に生じるアクリルアミドについて</li> <li>・トピックス：ANSES（フランス食品環境労働衛生安全庁）との意見交換</li> <li>・インフォメーション：2014 年度の自ら評価のテーマが「フモニシン」に決まりました</li> <li>・インフォメーション：食品の安全性に関する用語集（第 5 版）ができました</li> <li>・インフォメーション：「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方に関する報告書」がまとまりました</li> <li>・リスクコミュニケーション：キッズボックスだけをまとめた「キッズボックス総集編」を発行しました！</li> <li>・キッズボックス：食品の保存を理解しよう！</li> <li>・寄稿：「ちょっと注意、食品成分表の値」（村田容常委員）</li> </ul>
vol. 44	2015 年 (平成 27 年) 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：食品安全委員会が新たな体制でスタート 委員のご紹介</li> <li>・トピックス：食品に含まれるトランス脂肪酸</li> <li>・インフォメーション：食品安全モニター会議ってどんな会議</li> <li>・リスクコミュニケーション：「学校教育関係者を対象とした食品安全に関する研修会」を開催しました</li> <li>・キッズボックス：インスタント食品の豆知識</li> <li>・寄稿：「一度に多くの野菜・果物を食べてしまった時のための農薬のリスク評価が始まりました」（吉田緑委員）</li> </ul>
vol. 45	2016 年 (平成 28 年) 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：「健康食品」に関するメッセージ</li> <li>・トピックス：内閣府特命担当大臣挨拶</li> <li>・トピックス：海外機関との連携を積極的に推進</li> <li>・インフォメーション：全国食品安全連絡会議が開催されました</li> <li>・リスクコミュニケーション：食品安全委員会 国際専門家招へいプログラム 開催報告</li> <li>・キッズボックス：食物アレルギーってどういうこと？</li> <li>・寄稿：「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方について」（堀口逸子委員）</li> </ul>
vol. 46	2016 年 (平成 28 年) 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：「クドア属粘液胞子虫」の食品健康影響評価について</li> <li>・トピックス：BfR との意見交換及び EFSA との定期会合開催</li> <li>・トピックス：「いわゆる『健康食品』に関する説明会～消費者の皆様を対象に～」開催報告</li> <li>・インフォメーション：緊急時対応訓練を実施</li> </ul>



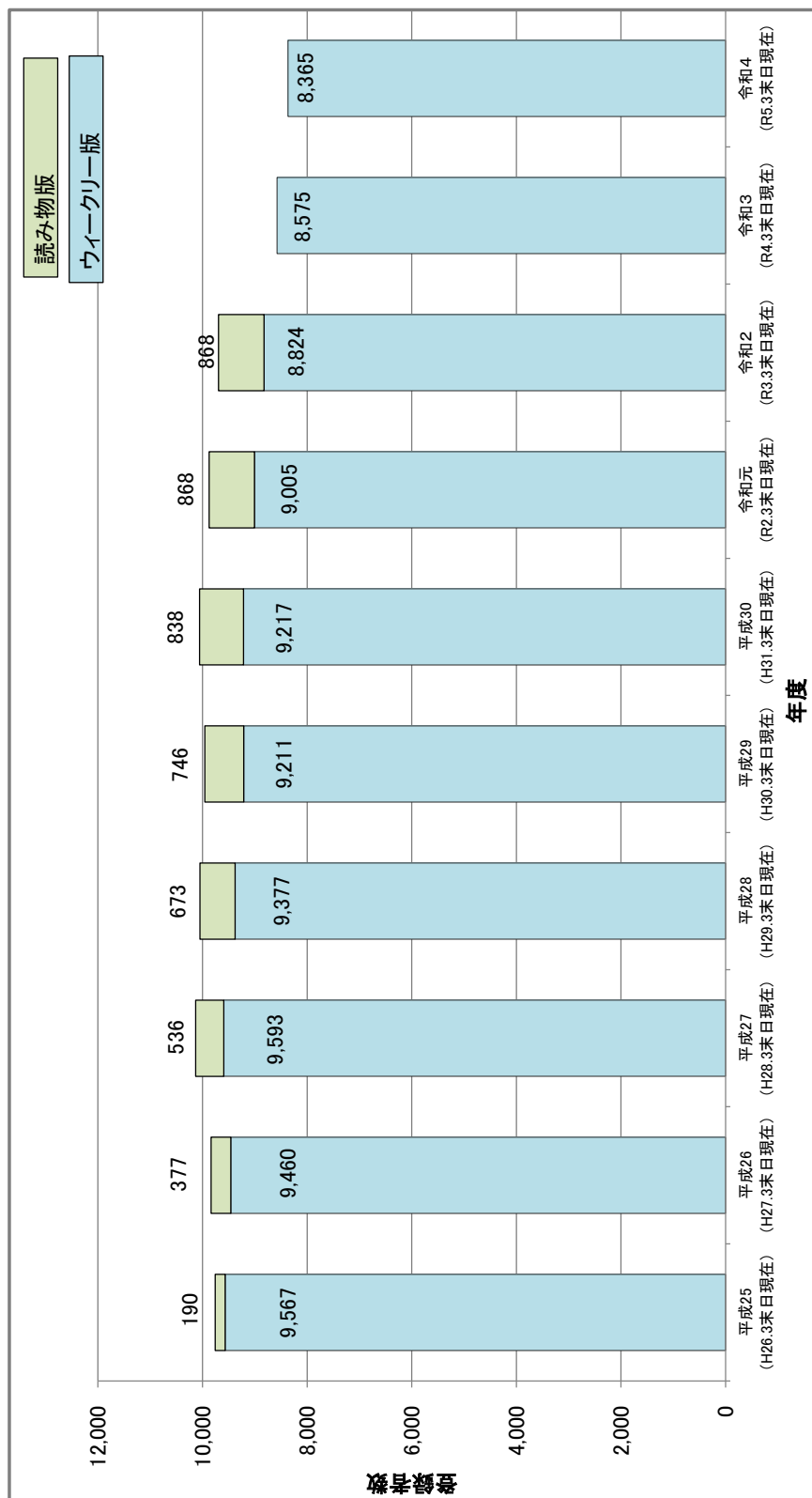
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクコミュニケーション：食品を科学する リスクアナリシス（分析）講座を開催しました</li> <li>・キッズボックス：食中毒は何でおきるの？</li> <li>・寄稿：「かびが作る毒素に対してもリスクの低減措置が講じられています」（熊谷進委員）</li> </ul>
vol. 47	2016 年 (平成 28 年) 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：「加熱時に生じるアクリルアミド」の食品健康影響評価について</li> <li>・トピックス：2015 年度の「自ら評価」のテーマが「アレルギー物質を含む食品」に決まりました</li> <li>・リスクコミュニケーション：国際専門家招へいプログラム 開催報告</li> <li>・インフォメーション：「食べものについて知っておきたいこと」を発行しました-メールマガジン（読み物版）の総集編をまとめました-</li> <li>・キッズボックス：どうしてお肉は生で食べてはダメなの？</li> <li>・寄稿：「塩と健康：あなたの食生活はしょっぱいですか？」（佐藤洋委員長）</li> </ul>
vol. 48	2016 年 (平成 28 年) 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る食品健康影響評価について-健康と畜牛の BSE 検査の廃止-</li> <li>・トピックス：カンピロバクターのファクトシートを紹介します</li> <li>・トピックス：内閣府特命担当大臣挨拶</li> <li>・トピックス：ドイツ連邦リスク評価研究所との協力覚書を締結しました</li> <li>・リスクコミュニケーション：食品に関するリスクコミュニケーション（意見交換会）「牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る食品健康影響評価書案について」を開催しました</li> <li>・キッズボックス：毒きのこはどうやって見分けるの？</li> <li>・寄稿：「ちょっとした注意にもわけがあります」（熊谷進委員）</li> </ul>
vol. 49	2017 年 (平成 29 年) 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：「薬剤耐性菌」の食品健康影響評価について</li> <li>・トピックス：山本茂貴氏が新たに委員に任命されました</li> <li>・トピックス：ASAE（ポルトガル）主催のフォーラムへの参加及び ASAE・ANSES（フランス）との意見交換</li> <li>・トピックス：平成 28 年度食品健康影響評価技術研究成果発表会を開催しました</li> <li>・リスクコミュニケーション：タイ保健省等の「食の安全」研修</li> <li>・キッズボックス：サプリメントって食べても大丈夫？</li> <li>・寄稿：「香料、果物と食経験」（山添康委員長代理）</li> </ul>
vol. 50	2017 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：専門調査会等の取組／リスク評価の窓</li> </ul>

	(平成 29 年) 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：食品安全委員会の国際的な取組</li> <li>・トピックス：緊急時対応訓練を実施</li> <li>・リスクコミュニケーション：4 府省庁連携のリスクコミュニケーションを開催しました</li> <li>・キッズボックス：加熱調理はなぜ大事なの？</li> <li>・寄稿：「加熱してもなぜ食中毒が起こるのでしょうか？」（石井克枝委員）</li> </ul>
vol. 51	2017 年 (平成 29 年) 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：食品中のカフェインについて</li> <li>・リスク評価の窓：農薬専門調査会</li> <li>・トピックス：「精講：食品健康影響評価～加熱時に生じるアクリルアミド～」アクリルアミドの食品健康影響評価及び低減対策について講座を開催しました</li> <li>・トピックス：『科学の目で見る食品安全』を改訂しました</li> <li>・リスクコミュニケーション：「食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～」を開催しました</li> <li>・リスクコミュニケーション：国際会議「食品安全のための科学的国際協力の未来には何があるのか」を開催しました</li> <li>・キッズボックス：ジャガイモの豆知識</li> <li>・寄稿：「何でも「生」がいいの？」（村田容常委員）</li> </ul>
vol. 52	2017 年 (平成 29 年) 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：フモニシンについて</li> <li>・特集：ボツリヌス症について</li> <li>・リスク評価の窓：動物用医薬品専門調査会</li> <li>・トピックス：内閣府特命担当大臣挨拶</li> <li>・トピックス：第 1 回食品安全担当大臣による表彰制度 受賞者決定</li> <li>・リスクコミュニケーション：「精講：食品健康影響評価 ～加熱時に生じるアクリルアミドを題材にして～」化学物質のリスク評価について、詳しく解説する講座を開催しました</li> <li>・キッズボックス：「ジビエ」ってなに？</li> <li>・寄稿：「化学物質の毒性を見極める総合力」（吉田緑委員）</li> </ul>
vol. 53	2018 年 (平成 30 年) 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：栄養強化を目的とする食品添加物について健康影響評価のための指針ができました</li> <li>・リスク評価の窓：器具・容器包装専門調査会</li> <li>・トピックス：ワーキンググループ等の体制を拡充しました</li> <li>・リスクコミュニケーション：みんなのための食品安全勉強会</li> <li>・キッズボックス：牛乳の豆知識</li> <li>・寄稿：「牛乳を飲んでいますか？」（山本茂貴委員）</li> </ul>
vol. 54	2018 年 (平成 30 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集：「無菌充填豆腐」を常温保存した場合のリスク評価を行いました一豆腐の規格基準改訂に係る食品健康影響評価について一</li> </ul>

	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価の窓：汚染物質等専門調査会 六価クロムワーキンググループ</li> <li>・トピックス：鹿慢性消耗性疾患（CWD）のファクトシートを公表しました</li> <li>・トピックス：いわゆる「健康食品」との安全な付き合い方</li> <li>・リスクコミュニケーション：日本毒性病理学会と共催の市民講座「食を考える！」</li> <li>・キッズボックス：山菜について気をつけること</li> <li>・寄稿：「これまで、そしてこれからの情報提供と、質疑応答」（堀口逸子委員）</li> </ul>
vol. 55	2018年 (平成30年) 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長及び各委員あいさつ</li> <li>・リスク評価について：「無菌充填豆腐」を常温保存した場合、「硫酸アルミニウムアンモニウム、硫酸アルミニウムカリウム」、「フモニシン」のリスク評価を行いました。</li> <li>・ファクトシートについて：カフェイン、鹿慢性消耗性疾患（CWD）、A型肝炎、ボツリヌス症、アニサキス症</li> <li>・主な出来事について：栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針の策定、添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針の策定、化学物質の毒性評価のための（Q）SAR及びRead acrossの利用のとりまとめ、ワーキンググループの立ち上げー六価クロム・アレルゲンを含む食品・香料ー</li> </ul>
vol. 56	2019年 (令和元年) 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長及び各委員紹介</li> <li>・食品健康影響評価について：「米国、カナダ及びアイルランドから輸入される牛肉及び牛の内臓」、「六価クロム」の食品健康影響評価を行いました。</li> <li>・リスクプロファイルについて：カンピロバクター、ノロウイルス</li> <li>・ファクトシートについて：ウエルシュ菌</li> <li>・主な出来事について：動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針の策定、飼料添加物に関する食品健康影響評価指針の策定、「新たな時代に対応した評価技術の検討～BMD法の更なる活用に向けて」の取りまとめ、インド食品安全基準庁（FSSAI）との協力覚書締結</li> </ul>
vol. 57	2020年 (令和2年) 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品安全委員会について</li> <li>・食品健康影響評価の指針について：「残留農薬に関する食品健康影響評価指針」、「食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針」、「食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針 [動物試験で得られた用量反応データへの適用]」を策定しました。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品健康影響評価について：「豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性」、「かび毒「デオキシニバレノール（DON）」の食品健康影響評価を行いました。「鉛ワーキンググループ」、「菌末を原材料として使用する調製粉乳に関するワーキンググループ」を立ち上げました。</li> <li>・ファクトシートについて：パーフルオロ化合物とは</li> <li>・主な出来事について：英文電子ジャーナル「Food Safety」のPubMed Central®（PMC）への掲載</li> </ul>
vol. 58	2021年 (令和3年) 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品安全委員会について</li> <li>・食品健康影響評価について：アレルギーを含む食品「卵」のリスク評価を行いました。薬剤耐性菌のリスク評価を推進しています。</li> <li>・食品健康影響評価の指針等について：「残留農薬の食品健康影響評価における毒性試験での有害影響の判断に関する考え方」、「食品健康影響評価において(Q)SARを活用して変異原性を評価する場合の手引き」を策定しました。「食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針」を改訂しました。</li> <li>・ファクトシート：ダイオキシン類、クロロプロパノール類</li> <li>・主な出来事について：報道関係者向けオンラインセミナー</li> </ul>
vol. 59	2022年 (令和4年) 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長及び各委員紹介</li> <li>・巻頭特集「最新の科学的知見をリスク評価に活かす」：添加物・微生物・薬剤耐性菌・農薬に関する指針を改正。農薬の再評価制度と準備。</li> <li>・食品健康影響評価：「鉛」、「ぶどう酒の製造に用いる添加物」</li> <li>・リスクプロファイル：鶏肉等における <i>Campylobacter jejuni/coli</i> の改訂</li> <li>・業務紹介：動画コンテンツ、食品安全関係素材集を公開</li> </ul>

### 8-4 食品安全委員会メールマガジン「食品安全eメールマガジン」会員登録者数



★年度別メールマガジン登録者数

メールマガジン(登録者数)	25年度 (H26.3末日現在)	26年度 (H27.3末日現在)	27年度 (H28.3末日現在)	28年度 (H29.3末日現在)	29年度 (H30.3末日現在)	30年度 (H31.3末日現在)	令和元年度 (R2.3末日現在)	令和2年度 (R3.3末日現在)	令和3年度 (R4.3末日現在)	令和4年度 (R5.3末日現在)
eメールマガジン	9,567	9,460	9,377	9,377	9,211	9,217	9,005	8,824	8,575	8,365
読み物版	190	377	536	673	746	838	868	868	-	-
新着情報	1,213	1,432	1,661	1,800	1,871	1,978	2,072	2,166	2,221	2,297

※読み物版は令和2年度末で終了。

※新着情報は委員会の開催案内や意見等の募集など当日分の新着情報を自動で配信するものであり、上記グラフには含まれていない。

## 8-5 Facebook 実績

2014年（平成26年）2月4日  
～2023年（令和5年）3月31日現在

### ➤ 2013年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事タイトル	閲覧者数
2014(平成26)年 2月4日	Facebook 開設のあいさつ	753
2014(平成26)年 2月5日	季刊誌「食品安全第37号」の発行	661
2014(平成26)年 3月11日	SULAMI（カプセル状のダイエット製品）に関する注意喚起	606
2014(平成26)年 3月5日	食品のリスクを考えるフォーラム ～食品添加物について考えよう！～（福井県）	542
2014(平成26)年 3月19日	インターネットで購入したエストロゲン製剤「ESTROMON」に より健康被害	541

### ➤ 2014年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事タイトル	閲覧者数
2015(平成27)年 2月24日	「豚の食肉の生食」の評価結果がまとまりました	4,872
2014(平成26)年 9月25日	人工甘味料で糖尿病リスク上昇？	3,470
2014(平成26)年 10月30日	牛乳	3,064
2014(平成26)年 7月14日	ヒョウタンによる食中毒	2,831
2015(平成27)年 3月6日	報道関係者の皆さんと定期的に意見交換会を開催しています	2,356

### ➤ 2015年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事タイトル	閲覧者数
2015(平成27)年 10月27日	「red meat」と加工肉に関するIARCの発表について	30,153
2015(平成27)年 12月8日	「健康食品」についてのメッセージをとりまとめました	27,776

2015(平成 27)年 9月1日	かつお節の EU への輸出が可能に	21,361
2015(平成 27)年 12月21日	カフェイン	17,641
2015(平成 27)年 6月18日	トランス脂肪酸	11,432

➤ 2016 年度閲覧者数トップ 5

投稿年月日	投稿記事タイトル	閲覧者数
2017(平成 29)年 3月17日	1歳未満の乳児に蜂蜜を与えないでください ～乳児ボツリヌス症の発生が報告されました～	15,945
2017(平成 29)年 3月22日	カレーの再加熱は十分におこなってください！ ～東京都、滋賀県等で発生したカレーを原因とするウエルシュ 菌による食中毒について～	9,703
2016(平成 28)年 4月5日	アクリルアミドの評価結果がまとまりました	9,270
2016(平成 28)年 4月20日	カンピロバクターのファクトシートを公表	8,785
2016(平成 28)年 12月26日	野生のクマ肉による集団食中毒が発生しました	8,657

➤ 2017 年度閲覧者数トップ 5

投稿年月日	投稿記事タイトル	閲覧者数
2017(平成 29)年 9月6日	第 664 回食品安全委員会 江崎大臣ご挨拶	17,904
2017(平成 29)年 4月10日	乳児ボツリヌス症の死亡事案の発生が報告されました～1歳未 満の乳児に蜂蜜を与えないでください～	15,325
2017(平成 29)年 5月11日	アニサキス症にかからないために	14,276
2018(平成 30)年 3月7日	「お母さんになるあなたへ」を更新しました	12,025
2017(平成 29)年 8月3日	新しい食べ方と食経験	11,312

➤ 2018 年度閲覧者数トップ 5

投稿年月日	投稿記事タイトル	閲覧者数
2018(平成 30)年 5月17日	食品健康影響評価書を引用した週刊誌記事について	7,013

2018(平成 30)年 5月31日	食品健康影響評価書を引用した週刊誌記事について～結論としての食品健康影響評価をご確認ください～	6,103
2018(平成 30)年 4月4日	コーヒーとアクリルアミド	5,753
2018(平成 30)年 9月9日	岐阜県岐阜市における豚コレラの発生について	5,370
2018(平成 30)年 6月8日	脂質全体で考えましょう～トランス脂肪酸～	5,172

➤ 2019年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事	閲覧者数
2020(令和2)年 3月12日	丁寧に手洗いをしましょう	10,070
2019(令和元)年 6月7日	「天然」「自然」「ナチュラル」を信じすぎていませんか？～いわゆる「健康食品」19のメッセージ～	7,835
2020(令和2)年 2月28日	「〇〇食品が新型コロナウイルスに効く」などの情報に注意！	7,107
2019(平成31)年 4月23日	【食中毒の予防①】海産魚介類のアニサキス（寄生虫）	6,684
2019(令和元)年 7月10日	家庭や学校で栽培したジャガイモによる食中毒に注意！	6,537

➤ 2020年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事	閲覧者数
2020(令和2)年 8月14日	食中毒予防のための下ごしらえ③ 食肉は洗わない	13,163
2020(令和2)年 5月14日	気温上昇。宅配およびテイクアウト利用時の「食中毒予防」	10,679
2020(令和2)年 7月6日	知って防ごう！カンピロバクター食中毒 (第4回：予防法)	6,837
2020(令和2)年 5月8日	「作る方・買う方へ テイクアウト食品による食中毒予防のために」	6,673
2020(令和2)年 7月3日	「病原大腸菌による集団食中毒が発生しました」	6,671

➤ 2021年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事	閲覧者数
-------	------	------



2021(令和3)年 9月1日	鶏肉は十分加熱して食べましょう！	58,192
2021(令和3)年 7月15日	「食中毒予防と加熱調理」の動画を公開しました	7,865
2021(令和3)年 6月7日	今日は世界食品安全の日です① ～動画「食品安全はみんなの仕事」を公開しました～	7,647
2022(令和4)年 1月14日	農薬のセミナーでの質疑について浅野委員が解説するページを公開しました	7,069
2022(令和4)年 3月10日	災害と食中毒 ～東日本大震災から11年～	4,487

➤ 2022年度閲覧者数トップ5

投稿年月日	投稿記事	閲覧者数
2022(令和4)年 5月10日	ホタルイカの生食は危険です！	87,093
2022(令和4)年 7月5日	鶏肉は十分加熱して食べましょう！	85,372
2022(令和4)年 7月6日	ジビエは必ず中心部までしっかり火を通して食べましょう！	71,864
2023(令和5)年 3月9日	ジビエ（野生鳥獣の肉）は必ず中心部までしっかり火を通して食べましょう！	49,944
2022(令和4)年 4月22日	食品健康影響評価事業等功労者の大臣表彰が行われました	34,720

## 8-6 YouTube 実績一覧

2017年（平成29年）11月22日  
～2023年（令和5年）3月31日現在

公開年月日	タイトル
2017（平成29）年 11月22日	アクリルアミド<1>（精講 20170731）
	アクリルアミド<2>（精講 20170731）
	アクリルアミド<3>（精講 20170731）
2018（平成30）年2 月6日	食べ物と食品安全 （みんなのための食品安全勉強会 20171207）
	カフェインの安全性<前半> （みんなのための食品安全勉強会 20171207）
	カフェインの安全性<後半> （みんなのための食品安全勉強会 20171207）
2019（平成31）年1 月21日	鶏肉等におけるカンピロバクター（精講 20181122）
2019（平成31）年1 月21日	知って防ごう食中毒 （みんなのための食品安全勉強会 20181010）
2019（平成31）年1 月24日	食べものと微生物 （みんなのための食品安全勉強会 20181010）
2019（令和元）年 10月11日	精講「カンピロバクター 1」
	精講「カンピロバクター 2」
2020（令和2）年 3月31日	精講 食品健康影響評価のためのリスクプロファイル <ノロウイルス>
2020（令和2）年 5月18日	食品安全の基礎知識～微生物を中心に～
2020（令和2）年 6月23日	キッズボックス「食べ物の安全は量の問題」
2020（令和2）年 6月24日	キッズボックス「毒がある身近な植物」
	キッズボックス「食べ物の安全を守るために」
2020（令和2）年10 月30日	令和2年度【精講：ノロウイルス（基礎知識編）】
	令和2年度【精講：ノロウイルス（予防編）】
	令和2年度【精講：ノロウイルス（事例編）】
2020（令和2）年11 月10日	食品をより安全にするための5つの鍵
2021（令和3）年	いわゆる「健康食品」について

4月7日	安全な選択をするために ～19のメッセージ～ 動画紹介
	いわゆる「健康食品」について 安全な選択をするために ～19のメッセージ～ ① 食品としての安全性について
	いわゆる「健康食品」について 安全な選択をするために ～19のメッセージ～ ② 「健康食品」としての安全性について
	いわゆる「健康食品」について 安全な選択をするために ～19のメッセージ～ ③ 「健康食品」を摂る人と摂る目的について
	いわゆる「健康食品」について 安全な選択をするために ～19のメッセージ～ ④ 「健康食品」の情報について&「健康食品」の摂取について
2021（令和3）年 6月7日	食品安全はみんなの仕事 Safe food now for a healthy tomorrow (English-subtitled)
2021（令和3）年 7月15日	食中毒予防と加熱調理（鶏肉編） 食中毒予防と加熱調理（ひき肉編）
2021（令和3）年10 月7日	鶏肉の低温調理「安全に美味しく食べ物を調理しよう」
2021（令和3）年11 月16日	豚肉の低温調理「安全に美味しく食べ物を調理しよう」
2021（令和3）年12 月13日	牛肉の低温調理「安全に美味しく食べ物を調理しよう」
2022（令和4）年 3月25日	加熱と調理「鶏の唐揚げ編」
2022（令和4）年 4月6日	令和3年度【精講：食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう（前編）】
	令和3年度【精講：食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう（後編）】
2022（令和4）年 4月15日	加熱と調理「トンカツ編」
2022（令和4）年 4月27日	加熱と調理「ハンバーグ編」
2022（令和4）年 5月24日	2022年世界食品安全の日に向けて 「より安全な食品で、より良く健康に」
2022（令和4）年 6月30日	農薬の安全の確保について
2022（令和4）年	食べ物の基礎知識～食品の安全と消費者の信頼をつなぐもの～

7月14日	(20130724)
2022(令和4)年 7月21日	食品のリスクマネジメント@キッチン(20140129)
2022(令和4)年 7月28日	相手を知ってやっつけよう～主な細菌性食中毒の特徴と対策～ (20140703)
2022(令和4)年 7月29日	こども霞が関見学デー2022 山本委員長ごあいさつ
2022(令和4)年 8月4日	誰もが食べている化学物質 ～食品の加工貯蔵中の化学変化の安全性～(20140731)
2022(令和4)年 8月1日	冷蔵庫に入れば大丈夫?～食品の保存を理解する～ (20140904)
2022(令和4)年 8月25日	カフェインは危ない?～コーヒーを科学する～(20141002)
2022(令和4)年 9月1日	動物の健康はヒトの健康～動物用医薬品を知る～(20141106)
2022(令和4)年 9月8日	食べたものはどこに行く?過剰摂取のリスク～脂質の例～ (20130925)
2022(令和4)年 9月15日	私達のからだの代謝(体内分解)機能～添加物を例に～ (20141204)
2022(令和4)年11 月15日	食品添加物のリスク評価をアップデート -評価指針を改訂、ワイン添加物も続々評価-(20220825)
2023(令和5)年 2月13日	食品に生える「かび」の基礎知識と「かび毒」のリスク評価
2023(令和5)年 3月14日	気をつけたい妊娠中の食事(1) 生ハム、加熱していないナチュラルチーズなど
2023(令和5)年 3月27日	気をつけたい妊娠中の食事(2) 加熱不十分な肉〔寄生虫(トキソプラズマ)〕
2023(令和5)年 3月29日	食品安全セミナー 「健康食品による健康被害を未然に防ぐために」

## 8-7 Twitter 実績

( 2021 年 (令和 3 年) 10 月 4 日  
~2023 年 (令和 5 年) 3 月 31 日現在 )

### ▶ インプレッション数トップ 10

投稿年月日	記事内容	インプレッション数
2022(令和 4)年 7 月 5 日	加熱不足の鶏肉は危険です！ #カンピロバクター による #食中毒 は激しい下痢の他、ギラン・バレー症候群による後遺症の危険も。見た目生っぽいのはもちろんダメ。肉の色が変わっていても加熱不足の場合があります。中心温度 75℃以上 1 分以上と同等の条件で加熱しましょう！ <a href="https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12751846887.html">https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12751846887.html</a> <a href="https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/shokuhniku_teionchouri.html">https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/shokuhniku_teionchouri.html</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=C8KgqeelrxY">https://www.youtube.com/watch?v=C8KgqeelrxY</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=ECe1JwFU2Vg">https://www.youtube.com/watch?v=ECe1JwFU2Vg</a>	225, 262
2023(令和 5)年 3 月 9 日	カモや #カラス、シカやイノシシなど #ジビエ (野生鳥獣の肉) を生で食べると、#E 型肝炎 や腸管出血性大腸菌 #0157 感染症、また寄生虫による感染症などを起こし、死亡する可能性もあります。食べる際は必ず中心部までしっかり火を通して食べましょう！ <a href="https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12792904799.html">https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12792904799.html</a>	171, 319
2022(令和 4)年 5 月 10 日	"#ホタルイカ の生食は危険です！#寄生虫 による #食中毒 で、皮下に寄生虫の幼虫が潜り込むことによるミミズ腫れや、腹痛の症状を起こす場合も。 ホタルイカは正しい加熱処理や凍結処理がされたものを食べましょう！ → <a href="https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12741986138.html">https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12741986138.html</a>	100, 292
2022(令和 4)年 7 月 6 日	野生のシカやイノシシなど #ジビエ の生食は、#E 型肝炎 や腸管出血性大腸菌 #0157 感染症、また寄生虫による感染症などを起こし、死亡する可能性もあります。食べる際は必ず中心部までしっかり火を通して食べましょう！ <a href="https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12741986138.html">https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12741986138.html</a>	78, 824
2022(令和 4)年 5 月 25 日	6 月 7 日は世界食品安全の日。食品安全への認識を高めるために制定されています。 食品安全にはどんな人がどのように関わっているのかを皆で共	59, 269

	<p>有するために、共通のハッシュタグをつけてご自身の活動をつぶやき、RTしましょう。</p> <p>#世界食品安全の日 #WorldFoodSafetyDay</p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=t9dQV04WvVE">https://www.youtube.com/watch?v=t9dQV04WvVE</a></p>	
2022(令和4)年9月16日	<p>#腸管出血性大腸菌 #0157 の食中毒による死亡事故が報告されています。生とレアは違います。牛肉も必ず中心部まで火を通して食べてください。</p> <p><a href="https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12751846887.html">https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12751846887.html</a></p>	50,906
2022(令和4)年2月4日	<p>「#牛肉 は表面にしか菌がないはずなのに、なぜ中心部まで加熱しなければならぬのか」など、主に牛肉の調理の疑問について、専門家が詳しく解説するセミナーを3/3(木)15:00~開催します。参加締め切りは2/14(月)14:00。お早めにどうぞ。詳細は→</p> <p><a href="https://www.fsc.go.jp/koukan/osirase/annai040303.html">https://www.fsc.go.jp/koukan/osirase/annai040303.html</a> #0157 #食中毒</p>	50,483
2021(令和3)年10月4日	<p>こんにちは。内閣府食品安全委員会事務局広報担当です。遅ればせながら twitter アカウントを作成しました。#食品安全委員会 に関する情報を発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>	46,153
2022(令和4)年7月22日	<p>暑いときにはさっぱりとした #TKG ( #卵かけごはん ) が食べたくなりますよね♪でも、卵を生で食べる際には、#食中毒を防ぐため、買ってから食べるまで色々な注意が必要です。安全に美味しく食べて、元気に夏を乗り切りましょう！詳しくは→<a href="http://fsc.go.jp/kids-box/">http://fsc.go.jp/kids-box/</a></p>	45,775
2022(令和4)年8月15日	<p>暑い時に増殖しやすい #黄色ブドウ球菌 による #食中毒 に注意！この食中毒は、食べるときに加熱しても防げません。手を清潔に、 #おにぎり はラップで包むかビニール手袋を。作った料理はすぐに食べ、保存するなら 10℃以下で。屋外ではクーラーバッグに入れましょう！<a href="https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12758902327.html">https://ameblo.jp/cao-fscj-blog/entry-12758902327.html</a></p>	37,905

## 8-8 食品安全モニター会議の開催状況

年度	開催状況等	日時	開催地	対象地域と出席人数
2013年度 (平成25年度)	平成25年5月及び6月に全国6都市において計9回実施し、合計293名の食品安全モニターが参加した。	5月28日(火)	東京(東京1)	北海道、茨城県、群馬県、千葉県、山梨県、長野県、栃木県 44人
		5月29日(水)	東京(東京2)	埼玉県、神奈川県 48人
		5月30日(木)	東京(東京3)	東京都、新潟県 44人
		6月12日(水)	名古屋	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 21人
		6月13日(木)	大阪(大阪1)	富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県 34人
		6月14日(金)	大阪(大阪2)	富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県 35人
		6月20日(木)	岡山	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 27人
		6月21日(金)	福岡	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 23人
		6月27日(木)	仙台	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 17人
2014年度 (平成26年度)	平成26年5月及び6月に全国6都市において計9回実施し、合計335名の食品安全モニターが参加した。	5月28日(水)	東京(東京1)	東京都 44名
		5月29日(木)	東京(東京2)	北海道、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県 39名
		5月30日(金)	東京(東京3)	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県 54名
		6月11日(水)	名古屋	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 33名
		6月12日(木)	大阪(大阪1)	富山県、石川県、福井県、滋賀県、兵庫県、和歌山県 42名
		6月13日(金)	大阪(大阪2)	大阪府、京都府、奈良県 39名
		6月19日(木)	岡山	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県 33名
		6月20日(金)	福岡	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 29名
		6月27日(金)	仙台	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 22名
2015年度 (平成27年度)	平成27年5月及び6月に全国9都市において計9回実施し、合計305名の食品安全モニターが参加した。	5月20日(水)	東京	東京都、千葉県、茨城県、山梨県 43名
		5月22日(金)	横浜	神奈川県、東京都、北海道 34名
		6月5日(金)	熊本	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 28名
		6月10日(水)	岡山	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県 28名

		6月11日（木）	神戸	兵庫県 27名
		6月12日（金）	名古屋	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 28名
		6月17日（水）	大宮	栃木県、群馬県、埼玉県、長野県、新潟県、富山県、石川県 44名
		6月22日（月）	大阪	福井県、滋賀県、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県 43名
		6月26日（金）	仙台	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 30名
2016年度 （平成28年度）	平成28年5月及び6月に全国9都市において計9回実施し、合計304名の食品安全モニターが参加した。	5月26日（木）	東京	新潟県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、埼玉県、千葉県、東京都 66名
		6月2日（木）	札幌	北海道 12名
		6月3日（金）	仙台	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 19名
		6月16日（木）	広島	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県 27名
		6月17日（金）	福岡	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 29名
		6月23日（木）	大阪	大阪府、和歌山県、奈良県 36名
		6月24日（金）	京都	京都府、富山県、石川県、福井県、滋賀県、兵庫県 36名
		6月29日（水）	横浜	東京都、神奈川県 52名
		6月30日（木）	名古屋	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 27名
		2017年度 （平成29年度）	平成29年6月及び9月、10月に全国3都市において計5回実施し、合計137名の食品安全モニターが参加した。	6月1日（木）
6月16日（金）	大阪 （大阪1）			富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、和歌山県、島根県、広島県、山口県、徳島県、佐賀県 25名
9月28日（木）	東京 （東京2）			北海道、秋田県、山形県、千葉県、神奈川県、新潟県、長野県、静岡県、長崎県、宮崎県、鹿児島県 46名
10月4日（水）	大阪 （大阪2）			富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、和歌山県、島根県、広島県、山口県、徳島県、佐賀県 30名
10月12日（木）	沖縄県			沖縄県 4名

2018年度（平成30年度）以降は、会議に代わり、食品安全モニターに対するeラーニングやwebセミナーを実施した。



## 9 国際会議等対応実績一覧

2013 年度（平成 25 年度）

月日	会議名(開催場所)	対応
4 月 13 日～21 日	第 28 回 OECD 農薬作業部会（フランス）	事務局
5 月 4 日～12 日	第 45 回コーデックス残留農薬部会（中国）	事務局
5 月 25 日～31 日	プリオン 2013（カナダ）	専門委員、事務局
6 月 3 日～14 日	第77回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)（イタリア）	専門委員
8 月 23 日～9 月 1 日	第 21 回コーデックス残留動物用医薬品部会（米国）	事務局
8 月 30 日～9 月 6 日	EUROTOX2013（スイス）	委員
9 月 16 日～27 日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議(JMPR)（スイス）	専門委員
10 月 5 日～13 日	OECD農薬作業部会農薬登録ステアリング会議（フランス）	事務局
11 月 5 日～14 日	第78回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)（スイス）	専門委員
11 月 2 日～8 日	米国毒性学専門家協会（米国）	事務局
11 月 11 日～15 日	第45回コーデックス食品衛生部会（ベトナム）	事務局
11 月 12 日～16 日	フレゼニウス国際学会（ドイツ）	事務局
3 月 20 日～22 日	CDC（米国疾病管理予防センター）との食品安全に関する意見交換・情報収集（米国）	委員
3 月 23 日～27 日	米国毒性学会（米国）	委員、専門委員、事務局
3 月 30 日～4 月 5 日	第 29 回 OECD 農薬作業部会（フランス）	事務局
3 月 31 日～4 月 4 日	第 8 回コーデックス食品汚染物質部会（オランダ）	事務局

2014 年度（平成 26 年度）

月日	会議名(開催場所)	対応
5 月 4 日～11 日	第 46 回コーデックス残留農薬部会（中国）	事務局
5 月 20 日～22 日	国際かび毒学会（中国）	事務局
5 月 26 日～6 月 1 日	プリオン 2014（イタリア）	専門委員、事務局
6 月 16 日～27 日	第79回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)（スイス）	専門委員
7 月 5 日～7 日	APPS2014（アジア太平洋プリオン研究会）（韓国）	事務局
8 月 4 日～6 日	動物用医薬品残留基準検討会（台湾）	事務局
8 月 24 日～31 日	米国バイオ規制視察（米国）	事務局
9 月 6 日～11 日	EUROTOX 2014（英国）	事務局
9 月 14 日～26 日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議(JMPR)（イタリア）	専門委員
10 月 25 日～11 月 1 日	PPTOX IV（米国）	委員
11 月 15 日～23 日	第46回コーデックス食品衛生部会（ペルー）	事務局

11月30日～12月6日	EFSA/WHO TTCステークホルダー会合及び専門家会合（ベルギー）	専門委員
12月7日～14日	OECD農薬作業部会農薬登録ステアリング会議（フランス）	事務局
3月1日～5日	薬剤耐性菌のリスク評価に関する米国FDAとの意見交換（米国）	専門委員、事務局
3月15日～21日	第9回コーデックス食品汚染物質部会（インド）	事務局
3月21日～28日	米国毒性学会（米国）	委員、事務局
3月22日～28日	第47回コーデックス食品添加物部会（中国）	事務局
3月27日～4月3日	Experimental Biology Meeting 2015（米国）	委員、事務局

### 2015年度（平成27年度）

月日	会議名(開催場所)	対応
4月17日～24日	米国がん学会（米国）	委員
5月19日～24日	フランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES）との意見交換（フランス）	事務局
5月18日～23日	OECD 農薬作業部会等（フランス）	事務局
5月25日～6月1日	プリオン2015（米国）	専門委員
6月1日～6日	MRL設定に関するワークショップ（米国）	事務局
6月14日～26日	第80回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)（イタリア）	専門委員
6月14日～19日	第12回地球環境汚染物質としての水銀に関する国際会議（韓国）	委員
8月31日～9月9日	養鶏農場における微生物学的管理の視察等（デンマーク・オランダ）	委員、事務局
9月12日～16日	EUROTOX 2015（ポルトガル）	委員、事務局
9月13日～26日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議(JMPR)（スイス）	委員、専門委員
9月17日～19日	ポルトガル経済食品安全庁（ASAE）との意見交換（ポルトガル）	委員、事務局
10月12日～16日	リスクコミュニケーションに関するラウンドテーブル（イタリア）	事務局
10月13日～19日	EFSA主催の科学会議” Shaping the Future of Food Safety, Together”（イタリア）	委員、事務局
11月16日～28日	第81回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)（イタリア）	専門委員、事務局
11月28日～12月5日	OECD 農薬作業部会登録ステアリンググループ及びリスク削減ステアリンググループ並びに関連会合（豪州）	事務局
1月16日～23日	ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）との意見交換欧州食品安全機関（EFSA）との第4回定期会合（ドイツ及びイタリア）	委員、事務局

2月22日～26日	EFSA - 英国食品基準庁 (FSA) 主催食品媒介ウイルスに関するワークショップ (英国)	事務局
3月9日～20日	米国食品医薬品庁 (FDA) 国立毒性研究センター (NCTR) 及び米国環境健康科学研究所 (NIEHS) との意見交換	委員、事務局
3月13日～17日	米国毒性学会 (米国)	委員、事務局
3月21日～30日	新しいリスク評価手法に関する意見交換 (ハーバード大学) (米国)	事務局

## 2016年度 (平成28年度)

月日	会議名 (開催場所)	対応
4月24日～29日	第48回コーデックス残留農薬部会 (中国)	事務局
5月8日～15日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議 (JMPR) 不定期会合 (スイス)	委員
6月5日～17日	第82回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議 (JECFA) (スイス)	専門委員
6月28日～7月3日	OECD 農薬作業部会 (フランス)	事務局
8月21日～28日	米国バイオ規制視察 (米国)	事務局
8月29日～31日	台湾食品安全サミット (台湾)	事務局
9月2日～7日	EUROTOX 2016 (スペイン)	事務局
9月11日～26日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議 (JMPR) (イタリア)	委員、事務局
9月22日～26日	European Society of Toxicologic Pathologyワークショップ (スペイン)	委員
10月23日～28日	トキシコロジー・フォーラム主催ワークショップ (米国)	専門委員
11月1日～8日	ポルトガル経済食品安全庁 (ASAE) 主催フォーラム及びフランス食品環境労働衛生安全庁 (ANSES) との意見交換 (ポルトガル及びフランス)	委員、事務局
11月6日～19日	第83回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議 (JECFA) (イタリア)	専門委員
12月11日～14日	香港漁農自然護理署検査検疫部及び香港食物環境衛生署食品安全センターとの意見交換 (香港特別行政区)	委員、事務局
2月4日～3月13日	世界保健機関 (WHO) への短期派遣 (スイス)	事務局
2月6日～16日	欧州食品安全機関 (EFSA) との意見交換 (イタリア)	専門委員、事務局
2月28日～3月4日	EFSA主催ベンチマークドーズ法ワークショップ (ベルギー)	専門委員、事務局
3月12日～18日	米国毒性学会 (米国)	委員、専門委員、事務局
3月16日～19日	米国食品医薬品庁 (FDA) 食品安全・応用栄養センター (CFSAN) との意見交換 (米国)	事務局
3月25日～29日	アイルランド食品安全庁及び英国食品安全庁との意見交換 (アイルランド及び英国)	事務局

3月31日～4月4日	内分泌学会2017年学術年会（米国）	委員
------------	--------------------	----

2017年度（平成29年度）

月日	会議名(開催場所)	
5月14日～19日	UJNR シンポジウム（米国）	委員
5月21日～24日	The 2 <sup>nd</sup> Food Allergen Management Symposium 2017 (FAMS2017)（豪州）	事務局
5月22日～28日	Prion 2017（英国）	専門委員、事務局
6月4日～16日	第84回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議（JECFA）（イタリア）	専門委員
6月28日～7月1日	OECD 農薬作業部会（フランス）	事務局
7月2日～16日	ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）主催サマーアカデミー（ドイツ）	事務局
7月16日～24日	ICMGP 2017（米国）	委員
8月27日～9月3日	米国バイオ規制視察（米国）	事務局
9月10日～14日	デンマーク獣医食品局（DVFA）及びデンマーク工科大学（DTU） 国立食品研究所との意見交換（デンマーク）	事務局
9月12日～21日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会合（JMPPR）（スイス）	委員、専門委員
9月15日～22日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会合（GCRS）2017（ブラジル）	事務局
9月24日～28日	ISSX North American（米国）	委員
10月17日～26日	第85回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議（JECFA）（スイス）	専門委員
10月31日	「リスクコミュニケーションに関する国際リエゾングループ」 第一回会合（中国）	事務局
10月31日～11月2日	第11回China International Food Safety & Quality Conference (CIFSQ)（中国）	委員、事務局
12月6日～10日	欧州委員会主催食品添加物に関する説明会及び情報収集（ベルギー、スイス）	事務局
1月14日～18日	欧州医薬品庁（EMA）、英国食品安全基準庁（FSA）及びデンマーク工科大学（DTU）国立食品研究所との意見交換（英国、デンマーク）	事務局
2月21日～25日	欧州食品安全機関（EFSA）との意見交換（イタリア）	委員、事務局
3月11日～17日	米国毒性学会（米国）	委員、事務局
3月12日	米国環境保護庁（EPA）との意見交換（米国）	事務局
3月19日～23日	米国食品安全基準庁国立毒性研究センター（NCTR/FDA）及び食品安全・応用栄養センター（CFRAN/FDA）との意見交換（米国）	事務局

## 2018年度（平成30年度）

月日	会議名(開催場所)	対応
5月3日～5日	ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）所長との意見交換及び施設の視察（ドイツ）	大臣、事務局
5月8日～9日	米国食品医薬品庁食品安全・応用栄養センター（CFSAN/FDA）との意見交換（米国）	事務局
5月10日～13日	Global Food Contact 2018 USA（米国）	事務局
5月15日～20日	6th ESTP International Expert Workshop（ドイツ）	委員、事務局
5月18日	BfR 農薬安全部部長らとの意見交換（ドイツ）	委員、事務局
5月21日～26日	Prion 2018（スペイン）	委員、事務局
5月26日～6月1日	PPTox VI Conference（フェロー諸島）	委員
6月10日～23日	第86回FAO/WHO合同食品添加物専門家会議（JECFA）（スイス）	専門委員
6月20日～24日	OECD農薬作業部会（フランス）	事務局
6月25日～30日	OECD新規食品・飼料作業部会・ゲノム編集カンファレンス（フランス）	専門委員、事務局
8月26日～9月2日	米国バイオテクノロジー視察（米国）	事務局
9月15日～29日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議（JMPPR）（ドイツ）	委員、専門委員
9月17日、18日	「食品中の化学物質のリスク評価手法に関する国際リエゾングループ」第1回会合、「リスクコミュニケーションに関する国際リエゾングループ」第2回会合（イタリア）	委員、事務局
9月18日～20日	第3回EFSA科学会議（イタリア）	委員長、事務局
9月21日	欧州食品安全機関（EFSA）との第6回定期会合（イタリア）	委員長、事務局
9月25日～28日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会合（GSRS）2018（中国）	委員、事務局
10月10日～12日	2018食品安全政策及び科学技術国際シンポジウム（台湾）	事務局
1月16日～19日	マレーシア保健省食品安全品質管理部並びにタイ保健省食品医薬品局及び農業・協同組合省農産品・食品基準局との意見交換（マレーシア、タイ）	事務局
1月25日～26日	韓国食品医薬品安全評価院との意見交換（韓国）	事務局
2月17日～21日	豪州・ニュージーランド食品基準機関（FSANZ）との第3回定期会合（豪州）	事務局
2月21日～27日	American Academy of Allergy, Asthma and Immunology 総会（米国）	事務局
3月9日～16日	米国毒性学会（米国）	委員、事務局
3月10日～14日	米国食品医薬品庁獣医センター（CVM/FDA）薬剤耐性菌担当者らとの意見交換（米国）	事務局

2019 年度（平成 31 年度・令和元年度）

月日	会議名(開催場所)	対応
4 月 27 日～5 月 5 日	第 13 回コーデックス汚染物質部会（CCCCF）及び化学物質リエゾングループ会合（インドネシア）	事務局
5 月 7 日～17 日	FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議（JMPR）2019 追加会合（カナダ）	委員
5 月 7 日～17 日	Prion 2019（カナダ）	事務局
6 月 4 日～13 日	第 87 回 FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議（JECFA）（イタリア）	専門委員
6 月 9 日～14 日	第 5 回環境分野における薬剤耐性に関する国際シンポジウム（香港）	事務局
6 月 11 日～13 日	欧州食品安全機関（EFSA）主催リスクベネフィットに関するパルマサマースクール（イタリア）	事務局
6 月 27 日～28 日	OECD 農薬作業部会（フランス）	事務局
7 月 21 日～24 日	2019 食品安全に関する国際食品保全学会（IAFP）年次会合（米国）	委員、事務局
8 月 18 日～25 日	米国バイオテクノロジー視察（米国）	事務局
8 月 26 日～29 日	中国バイオテクノロジー学会主催遺伝子組換えに関する会議（中国）	事務局
9 月 8 日～13 日	地球環境汚染物質としての水銀に関する国際会議（ICMGP）（ポーランド）	委員
9 月 8 日～11 日	Eurotox 2019（フィンランド）	事務局
9 月 17 日～26 日	FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議（JMPR）（スイス）	委員、専門委員
9 月 24 日～26 日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会合（GSRS）2020（イタリア）	委員、事務局
10 月 10 日～13 日	第 22 回動物実験代替法欧州会議兼第 16 回欧州動物実験代替法学会年次大会（オーストリア）	委員
12 月 8 日～12 日	米国リスクアナリシス学会（米国）	事務局
12 月 9 日～13 日	第 7 回コーデックス薬剤耐性菌に関するタスクフォースセッション（韓国）	事務局
1 月 19 日～20 日	第 1 回食品安全機関ヘッドフォーラム（サウジアラビア）	委員、事務局
2 月 18 日～21 日	ベルリンワークショップ（ドイツ）	専門委員、事務局

2020 年度（令和 2 年度）

月日	会議名(開催場所・開催方法)	対応
6 月 2 日～11 日	第 89 回 FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議（JECFA）（ウェブ）	専門委員
6 月 11 日～12 日	OECD 農薬作業部会（ウェブ）	事務局
9 月 28 日～30 日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会議（GSRS）2020（ウ	委員、事務局

	ェブ)	
10月26日～28日	2020 国際食品保全学会 (IAFP) (ウェブ)	委員、事務局
3月1日	第2回食品安全機関ヘッドフォーラム (ウェブ)	委員、事務局
3月12日～26日	米国毒性学会 (ウェブ)	事務局

## 2021年度 (令和3年度)

月日	会議名(開催場所・開催方法)	対応
5月12日～21日	FAO/WHO合同残留農薬専門家会議 (Extra JMPR) (ウェブ)	委員
6月15日～16日	アレルギー性評価に関する欧州食品安全機関 (EFSA) GMOワークショップ(ウェブ)	専門委員
7月1日～2日	OECD農薬作業部会(ウェブ)	事務局
7月12日～16日	第25回コーデックス食品残留動物用医薬品部 (ウェブ)	事務局
7月19日～22日	2021食品安全に関する国際食品保全学会 (IAFP) (ウェブ)	委員
8月23日～9月2日	第11回生命科学における動物実験代替法に関する国際会議(ウェブ)	委員
9月1日～10日	第52回コーデックス食品添加物部会(ウェブ)	事務局
9月27日～10月7日	第46回コーデックス食品表示部(ウェブ)	事務局
10月4日～5日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会議 (GSRS21) (ウェブ)	委員、事務局
10月4日～9日、13日、16日	第8回コーデックス薬剤耐性に関する特別部会(ウェブ)	事務局
10月18日～20日	EFSA複合ばく露のリスク評価に関するオンライン国際ワークショップ(ウェブ)	事務局
11月15日～17日	ドイツ連邦リスク評価機関 (BfR) シンポジウム (毒性学に関する評価技術等) (ウェブ)	委員
2月28日～3月9日	第52回コーデックス食品衛生部会(ウェブ)	事務局
3月21日	第2回食品安全機関ヘッドフォーラム (ウェブ)	委員、事務局

## 2022年度 (令和4年度)

月日	会議名(開催場所・開催方法)	対応
6月15日～17日	OECD農薬作業部会 (ウェブ)	事務局
7月4日～8日、13日	第53回コーデックス残留農薬部会 (ウェブ)	事務局
7月31日～8月8日	2021食品安全に関する国際食品保全学会 (IAFP) (ウェブ)	委員
9月6日～9日	ISMYCO 2022 & ICM 2022 (ウェブ)	事務局
9月13日～16日	Prion 2022 (ドイツ)	委員、事務局
9月18～21日	Eurotox 2022 (オランダ)	事務局
9月21日～22日	FOURTH ANNUAL FORUM ON ENDOCRINE DISRUPTORS (ウェブ)	事務局

10月18日～21日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会議（GSRS22）（シンガポール）	委員、事務局
12月6日～11日	第22回国際栄養学会議（日本）	委員
12月15日～16日	アジア太平洋プリオン研究会2022（ウェブ）	事務局
1月12日～13日	シンガポール食品庁（SFA）との意見交換（シンガポール）	事務局
2月13日～17日	第26回コーデックス食品残留動物用医薬品部会（ウェブ）	事務局
2月15日～16日	EFSA BMDワークショップ（ベルギー）	事務局
2月27日～3日	OECD農薬作業部会（ウェブ）	事務局
3月19日～23日	第62回米国毒性学会（米国）	委員、事務局
3月24日～31日	第53回コーデックス食品添加物部会（中国）	事務局



## 10 海外の専門家による講演会等開催実績一覧

2013 年度（平成 25 年度）

<p>国際共同シンポジウム（7月3日）</p> <p>①講演 食品健康影響評価に係る研究の最新動向  「暴露マージン（MOE）を用いたリスク評価方法」  講演者：ジョセフ・シュラッター博士（EFSA）  「腸管出血性大腸菌を含む食品由来病原菌の評価及び管理」  講演者：渡邊 治雄 所長（国立感染症研究所）</p> <p>②講演 食品健康影響評価の国際的動向  「食品安全のためのリスク評価のこれまでとこれから－食品安全委員会の経験を踏まえて」  講演者：熊谷 進 委員長（食品安全委員会）  「国際的なリスク評価共同体の設立に向けて：ヨーロッパの視点」  講演者：ペール・バーグマン局長（EFSA）  「オーストラリアとニュージーランドの視点」  講演者：スティーブ・マッカチョン長官（FSANZ）</p> <p>③シンポジウム「食品健康影響評価の今後」  パネリスト：スティーブ・マッカチョン長官（FSANZ）  ペール・バーグマン局長（EFSA）  釘田 博文代表（OIE アジア太平洋地域代表事務所）  食品安全委員会委員</p>
<p>食品安全委員会セミナー「ヒ素に関する最新知見について」（11月22日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品中の有機ヒ素に関する最新の知見  オーストリア グラーツ大学：ケビン・フランチェスコニ教授</li> <li>・海産物におけるヒ素に関する知見について  水産大学校水産学研究科：花岡 研一教授</li> <li>・食品中の無機ヒ素の健康影響について  化学物質・汚染物質専門調査会：圓藤 吟史専門委員</li> </ul>

2014 年度（平成 26 年度）

<p>食品安全委員会セミナー「ビスフェノールAに関する国際セミナー」（6月19日）</p> <p>①講演 「日本におけるビスフェノールAに関する現状」  講演者：広瀬 明彦 総合評価研究室長（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター）</p> <p>②講演 「EFSAにおけるビスフェノールAに関する評価の状況」  講演者：アナ・カストルディ 上席技官（EFSA）</p> <p>③講演 「米国食品医薬品庁／国立毒性研究センターで実施されたビスフェノールAに関する研究」  講演者：ダニエル・ドアージ 首席バイオメディカル研究員（FDA）</p> <p>食品安全委員会セミナー「食品安全分野におけるリスクコミュニケーションに関する国際セミナー」</p>
--

(11月12日)
①講演 「リスクコミュニケーションから社会との対話へ：ANSESの経験から得られた知見」 講演者：ブノア・ヴェルグリエッテ 室長（ANSES）
②講演 「リスクコミュニケーション —EFSAの実績と今後の展望—」 講演者：ローラ・スマイリー 上席コミュニケーション・アドバイザー（EFSA）
③講演 「食品安全委員会におけるリスクコミュニケーションの取組について」 講演者：姫田 尚 事務局長（食品安全委員会）

2015年度（平成27年度）

農薬の急性参照用量（ARfD）の設定に関する国際シンポジウム（10月7日）
① イントロダクション 講演者：食品安全委員会委員 吉田 緑
② 講演「急性参照用量(ARfD)設定のための適切なエンドポイントとは？」 講演者：ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）農薬安全部長 Roland Solecki
③ 講演「米国のプロセス：急性参照用量(ARfD)設定」 講演者：コンサルタント（前・米国環境保護庁(EPA) 上席科学アドバイザー）Vicki Dellarco
食品媒介感染症防止に向けた食品安全確保のための定性的・定量的アプローチに関する国際シンポジウム (11月19日)
① 講演「微生物学的リスク管理メトリクス」 講演者：アイルランド食品安全庁食品科学・基準局長 Wayne Anderson
② 講演「病原微生物による食品媒介感染症のリスク管理措置への微生物リスク評価の貢献」 講演者：山口大学共同獣医学部教授 豊福 肇
③ 講演「安全な食品のためのリスク評価とリスク管理～評価においては変動と不確実性が必要、管理においては個別的な判断が必要～」 講演者：ワーゲニンゲン大学教授 Marcel Zwietering
③ 講演「食品媒介病原微生物の増殖・死滅挙動の数理モデル化」 講演者：北海道大学大学院農学研究院准教授 小関 成樹
④ 講演「ベロ毒素産生大腸菌（VTEC）等による食品媒介感染症の分子疫学的解析」 講演者：国立医薬品食品衛生研究所衛生微生物部部长 寺嶋 淳
食品安全の明日をともに考える国際シンポジウム（3月18日）
① 講演「シンポジウムの趣旨及び食品安全委員会事務局の取組の紹介」 講演者：食品安全委員会事務局評価第一課評価技術推進室長 高崎 洋介
② 基調講演「食品に起因する疾病の負荷～WHOによる世界推計～」 講演者：WHO（世界保健機関）食品安全・人畜共通感染症部長 宮城島 一明
③ パネルディスカッション「食品安全の明日」

2016 年度（平成 28 年度）

国際セミナー ～牛海綿状脳症（BSE）と食の安全に関する科学（5月11日）
<p>① 講演「英国におけるBSEの起源、過去及び現在」 講演者：英国動植物衛生庁 TSE部長 James Hope</p> <p>② 講演「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病について」 講演者：エジンバラ大学 臨床脳科学センター 教授 Robert Will</p> <p>③ 講演「日本における牛海綿状脳症（BSE）研究」 講演者：東北大学 客員教授 毛利資郎</p>
第2回評価技術企画ワーキンググループ（8月24日）
<p>講演「米国食品医薬品庁（FDA）におけるデータベース構築及びその活用について」 講演者：FDA 国立毒性研究センター（NCTR） 生物情報学・生物統計学部長 Weida Tong</p>
勉強会「食品及び器具・容器包装中の化学物質の健康影響評価に関する最新の知見について」（11月17日）
<p>① 講演「Food Contaminants and Chemical Brain Drain」及び「Perfluorinated substances: Risk assessment concerns」 講演者：ハーバード大学 連携教授 Philippe Grandjean</p> <p>② 講演「Exposure to endocrine disrupting chemicals through food in pregnant women」 講演者：南デンマーク大学 教授 Tina Kold Jensen</p>
調査報告会「原材料に着目して料理を品目に細分化する手法等に関する諸外国の実態調査」（3月13日）
<p>講演「Dietary Exposure assessments in Australia」 講演者：豪州・ニューゼaland 食品基準機関（FSANZ） 上席暴露評価官 Tracy Hambridge</p>

2017 年度（平成 29 年度）

国際会議～食品安全のための科学的国際協力の未来には何があるのか～（4月26日）
<p>① 講演「ASEAN リスク評価センター（ASEAN Risk Assessment Centre for Food Safety, ARAC）について：食品安全分野のリスク評価の国際的な側面・将来の課題と取り組み」 講演者：マレーシア保健省 食品安全品質課 品質及び基準部門 部門長 （ARAC 事務局） チン・チョウ・キート</p> <p>② 講演「急速に変化する世界からの課題」 講演者：ドイツ連邦リスク評価研究所 副所長 ライナー・ウィトコウスキー</p> <p>③ 講演「科学的能力向上のための協力と協調」 講演者：欧州食品安全機関 規制製品の科学評価局 局長 ギレム・デ・セゼ</p> <p>④ 講演「共に成功する：食品安全のための科学的国際協力の重要性」 講演者：フランス食品環境労働衛生安全庁 長官 ロジェ・ジュネ</p> <p>⑤ 講演「食品安全に関するリスク評価の現状と今後：日本の視点」 講演者：食品安全委員会 委員 山添 康</p> <p>⑥ パネルディスカッション「食品安全分野におけるリスク評価の向上のためには何ができるのか」</p>

薬剤耐性菌の食品健康影響評価に関するワークショップ（12月4日）
<p>【海外からの出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）Prof. Dr. Annemarie KAESBOHRER</li> <li>② フランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES）Dr. Sophie GRANIER</li> <li>③ 欧州食品安全機関（EFSA）Dr. Ernesto LIEBANA CRIADO</li> <li>④ 欧州医薬品庁（EMA）Dr. Jordi TORREN-EDO</li> <li>⑤ ASEAN リスク評価センター（ARAC）Ms. Laila Rabaah Ahmad Suhaimi</li> <li>⑥ タイ農業協同組合省畜産振興局（DLD）Dr. Suchana SUKKLAD</li> <li>⑤ 世界保健機関（WHO）Ms. Yuki MINATO</li> </ul>
カンピロバクターに関するワークショップ（3月22日）
<p>【海外からの出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 英国食品基準庁（FSA）Dr. Kevin D HARGIN</li> <li>② デンマーク工科大学（DTU）国立食品研究所 Dr. Jens Kirk ANDERSEN</li> <li>③ ニュージーランド第一次産業省（MPI）Dr. Judi LEE</li> </ul>

## 2018年度（平成30年度）

国際ワークショップ～ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発～（11月14日）
<ul style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション「食品関連化学物質のヒト健康影響評価の新たな課題」 講演者：食品安全委員会 シニアフェロー 山添 康</li> <li>② 講演「毒性学的閾値(TTC)の利用とヒト健康影響評価における意義（仮訳）」 講演者：欧州食品安全機関 リスク評価及び科学的支援局 主任技官 ジョージ・カス</li> <li>③ 講演「毒性学的閾値(TTC)の考え方をういた器具容器包装の安全性評価」 講演者：岡山大学 薬学部／大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）教授 小野 敦</li> <li>④ 講演「カテゴリーに基づくリードアクロス法～ヒトへの外挿性を考慮して」 講演者：国立医薬品食品衛生研究所 安全性予測評価部 室長 山田 隆志</li> <li>⑤ 講演「肝毒性情報データベース：薬物による肝傷害評価の活用（仮訳）」 講演者：米国食品医薬品局 国立毒性研究センター 生物情報学・生物統計学部部門長 ウェイダ・トン</li> <li>⑥ 講演「食品汚染物質のヒト健康影響評価における生理学的薬物動態モデルを用いた内部ばく露量測定（仮訳）」 講演者：米国食品医薬品局 国立毒性研究センター 上席生物医学研究員 ダニエル・ドーギー</li> <li>⑦ パネルディスカッション</li> </ul>

## 2021年度（令和3年度）

食品安全セミナー（3月25日）
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 国際的な食品のリスク評価のプロセス等</li> <li>② 「WHO Global Strategy for Food Safety 2022-2030」案の概要</li> </ul>

講演者：WHO Standards and Scientific Advice in Food and Nutrition ユニット長 モエス・サナ

## 2022 年度（令和 4 年度）

食品安全シンポジウム～ 国際的な微生物学的リスク評価専門家会議を理解する～（3月22日）

① JEMRA の活動を振り返る

講演者：JEMRA 事務局（モエス・サナ、長谷川 朗生、ジュリアナ・デ オリベイラ モタ）

② JEMRA における微生物学的リスク評価

講演者：Statistical Process Improvement Consulting and Training Pty. Ltd. アンドレアス・キーマイヤー

③ JEMRA のリスク評価に基づく動物由来病原体の管理措置

フランス食品環境労働衛生安全庁 マリアンヌ・ケマリー

④ JEMRA での経験

豊福 肇（山口大学教授）、JEMRA 事務局、アンドレアス・キーマイヤー、マリアンヌ・ケマリー

## 11 英文電子ジャーナルの発行実績

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2013 (H25)	1-1	Carcinogenicity Assessment for Risk Factors in Food: Current Issues and a Proposal	Akiyoshi Nishikawa	リスク評価
2013 (H25)	1-1	Thirty-five Years of Research on Deoxynivalenol, a Trichothecene Mycotoxin: with Special Reference to Its Discovery and Co-occurrence with Nivalenol in Japan	Takumi Yoshizawa	自然毒、 かび毒
2013 (H25)	1-1	Identification and Evaluation of Potentially Genotoxic Agricultural and Food-related Chemicals	Makoto Hayashi , Masamitsu Honma, Motoko Takahashi, Atsuko Horibe, Jin Tanaka, Mai Tsuchiya, Takeshi Morita	リスク評価
2013 (H25)	1-1	Intestinal Transmission of Prions and Role of Exosomes in Enterocytes	Yasuhisa Ano, Akikazu Sakudo, Ryuta Uraki, Juri Kono, Masayoshi Yukawa, Takashi Onodera	プリオン
2013 (H25)	1-1	Fumonisin Toxicity and Mechanism of Action: Overview and Current Perspectives	Kenneth A. Voss, Ronald T.Riley	自然毒、 かび毒
2013 (H25)	1-1	Fluorine (Executive Summary)	Food Safety Commission of Japan	化学物質・汚染物質
2014 (H26)	2-1	Bis(2-ethylhexyl)phthalate (DEHP) (Executive Summary)	Food Safety Commission of Japan	容器・包装
2014 (H26)	2-2	<i>Lysteria monocytogens</i> in foods (Executive Summary)	Food Safety Commission of Japan	微生物、 ウイルス
2014 (H26)	2-2	Possible Carcinogenic Mechanisms Underlying Renal Carcinogens in Food	Takashi Umemura	汚染物質
2014 (H26)	2-2	Methyl Pruvate and Marinedip (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2014 (H26)	2-2	Quinoclamine (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2014 (H26)	2-2	Orbifloxacin (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2014 (H26)	2-2	Ethoxysulfuron (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2014 (H26)	2-3	Norovirus and Foodborne Disease: A Review	Hiroshi Ushijima, Tsuguto Fujimoto, Werner EG Müller, Satoshi Hayakawa	微生物、 ウイルス
2014 (H26)	2-3	Consideration of Risk Variations in Japan Derived from the Proposed Revisions of the Current Countermeasures against BSE (Full Report)	Food Safety Commission of Japan	プリオン
2014 (H26)	2-3	Malathion, Executive (Executive Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2014 (H26)	2-3	Propiconazole (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2014 (H26)	2-3	Metronidazole (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2014 (H26)	2-3	Flumioxazin (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2014 (H26)	2-3	Dibutyl Phthalate (DBP) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	容器・包装
2014 (H26)	2-3	Stearidonic Acid Producing Soybean MON87769 Line (Summary)	Food Safety Commission of Japan	遺伝子組 替え食品
2014 (H26)	2-4	Novel Foodborne Disease Associated with Consumption of Raw Fish, Olive Flounder ( <i>Paralichthys olivaceus</i> )	Yoshiko Sugita-Konishi, Hiroshi Sato, Takahiro Ohnishi	微生物、 ウイルス
2014 (H26)	2-4	Development of a Tool for Evaluating the Risk of Health Damage by Meat-borne Parasite Infection	Hiroshi Yamasaki, Kyoko Arakawa, Takeo Ohashi, Kenji Yagita, Yasuyuki Morishima, Hiromu Sugiyama, Kisaburo Nagamune, Michiru Kakinuma, Yuko Osada, Daihi Oushiki, Atsushi Hasegawa	微生物、 ウイルス
2014 (H26)	2-4	Improving the Efficiency of Organoarsenic Extraction from Seaweeds	Akihisa Hata, Momoko Hasegawa, Hidetoshi Kurosawa, Kenzo Yamanaka, Yuko Yamano, Yoko Endo, Noboru Fujitani, Ginji Endo	汚染物質
2014 (H26)	2-4	Fluoroquinolone Antimicrobials for Chickens (Summary)	Food Safety Commission of Japan	薬剤耐性
2014 (H26)	2-4	2,3-Diethylpyrazine (Summary)	Food Safety Commission of Japan	食品添加 物
2015 (H27)	3-1	Hippocampal Neurogenesis as a Critical Target of Neurotoxicants Contained in Foods	Makoto Shibutani	汚染物質
2015 (H27)	3-1	The Acute Encephalopathy Induced by Intake of Sugihiratake Mushroom in the Patients with Renal Damage Might Be Associated with the Intoxication of Cyanide and Thiocyanate	Hiroshi Akiyama, Hideki Matsuoka, Takanori Okuyama, Kyohei Higashi, Toshihiko Toida, Hiroyuki Komatsu, Yoshiko Sugita-Konishi, Satomi Kobori, Yukio Kodama, Midori Yoshida, Hitoshi Endou	自然毒、 かび毒
2015 (H27)	3-1	Mandestrobin (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2015 (H27)	3-1	Mosapride (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医 薬品
2015 (H27)	3-1	Enramycin Used for Food Producing Animals: Risk of Antimicrobial-resistant Bacteria (Summary)	Food Safety Commission of Japan	薬剤耐性
2015 (H27)	3-1	Tolprocarb (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2015 (H27)	3-1	Sedaxane (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2015 (H27)	3-2	Applications and Safety of Nanomaterials Used in the Food Industry	Kazuma Higashisaka, Yasuo Yoshioka, Yasuo Tsutsumi	新食品
2015 (H27)	3-2	Developmental Neurotoxicology: History and Outline of Developmental Neurotoxicity Study Guidelines	Hiroaki Aoyama, Naofumi Takahashi, Yasufumi Shutoh, Atsuko Motomura, Kevin M. Crofton	毒性学
2015 (H27)	3-2	Ochratoxin A (Summary)	Food Safety Commission of Japan	自然毒、 かび毒
2015 (H27)	3-2	Foods Highly Containing Diacylglycerol (Summary)	Food Safety Commission of Japan	新食品、 添加物
2015 (H27)	3-2	Considerations on Glycidol and Its Fatty Acid Esters in Foods (Executive Summary)	Food Safety Commission of Japan	新食品、 添加物

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2015 (H27)	3-3	Prenatal Exposure to Di(2-ethylhexyl) phthalate and Subsequent Infant and Child Health Effects	Tamie Nakajima, Yumi Hayashi, Yuki Ito	汚染物質
2015 (H27)	3-3	Efficiency of Excess Monitoring for Beef after the Fukushima Accident	Naoki Kunugita, Ichiro Yamaguchi, Hiroshi Terada, Toshihiko Yunokawa, Erik Robert Svendsen, Naoki Kunugita	放射性物質
2015 (H27)	3-3	Embryo- and Testicular-toxicities of Methoxyacetate and the Related: a Review on Possible Roles of One-carbon Transfer and Histone Modification	Yasushi Yamazoe, Takashi Yamada, Kunitoshi Mitsumori	薬理学
2015 (H27)	3-3	Butyl Benzyl Phthalate (BBP) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	容器・包装
2015 (H27)	3-3	Metoclopramide (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2015 (H27)	3-3	Picoxystrobin (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2015 (H27)	3-3	Peracetic Acid Preparation and Its Chemical Components (Peracetic Acid, 1-Hydroxyethylidene-1,1-diphosphonic Acid, Octanoic Acid, Acetic Acid and Hydrogen Peroxide) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	食品添加物
2015 (H27)	3-4	Cadmium Exposure in General Populations in Japan: a Review	Masayuki Ikeda, Takao Watanabe, Haruo Nakatsuka, Jiro Moriguchi, Sonoko Sakuragi, Fumiko Ohashi, Shinichiro Shimbo	汚染物質
2015 (H27)	3-4	Roles of Leucine and Isoleucine in Experimental Models of Bladder Carcinogenesis	Min Gi, Hideki Wanibuchi	食品添加物
2015 (H27)	3-4	Oxathiapiprolin (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2015 (H27)	3-4	Fluazifop (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2015 (H27)	3-4	Albendazole (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2016 (H28)	4-1	Past, Present and Future Directions of <i>gpt</i> delta Rodent Gene Mutation Assays	Takehiko Nohmi	毒性学
2016 (H28)	4-1	Aflatoxin Exposure and Associated Human Health Effects, a Review of Epidemiological Studies	Yun Yun Gong, Sinead Watson, Michael N Routledge	自然毒、かび毒
2016 (H28)	4-1	Mepanipyrim (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2016 (H28)	4-1	Abamectin (Avermectin) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2016 (H28)	4-2	Predictive Modeling for Estimation of Bacterial Behavior from Farm to Table	Shigenobu Koseki	微生物、ウイルス



発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2016 (H28)	4-2	Evaluation of Microbial Loads on Dried and Fresh Shiitake Mushrooms ( <i>Lentinula edodes</i> ) as Obtained from Internet and Local Retail Markets, Respectively	Chyer Kim, Theresa J. Nartea, Steven Pao, Haiwen Li, Krystle L. Jordan, Yixiang Xu, Roslyn A. Stein, Edward N. Sismour	微生物、 ウイルス
2016 (H28)	4-2	Prednisolone (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医 薬品
2016 (H28)	4-2	Methylprednisolone (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医 薬品
2016 (H28)	4-2	Picarbutrazox (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2016 (H28)	4-3	Histopathological Analysis of Rat Hepatotoxicity Based on Macrophage Functions: in Particular, an Analysis for Thioacetamide-induced Hepatic Lesions	Jyoji Yamate, Takeshi Izawa, Mitsuru Kuwamura	リスク評 価
2016 (H28)	4-3	Acrylamide in Foods Generated through Heating (Summary)	Food Safety Commission of Japan	汚染物質
2016 (H28)	4-3	Tolfenamic Acid (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医 薬品
2016 (H28)	4-3	MON 87411 line, a Maize Tolerant to Glyphosate and Resistant to Coleoptera (Summary)	Food Safety Commission of Japan	遺伝子組 換え食 品・飼料
2016 (H28)	4-3	Glyphosate (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2016 (H28)	4-4	Animal Prion Diseases Workshop: Updated Diagnosis and Epidemiology of Animal Prion Diseases for Food Safety and Security (Editorial)	Takashi Yokoyama, Hyun-Joo Sohn, Takashi Onodera	プリオン
2016 (H28)	4-4	Prion Diseases in Animals and Zoonotic Potential	Juan Maria Torres, Alba Marin-Moreno, Olivier Andreoletti, Juan-Carlos Espinosa, Vincent Beringue, Patricia Aguilar, Natalia Fernandez-Borges	プリオン
2016 (H28)	4-4	Scrapie in Swine: a Diagnostic Challenge	Justin J. Greenlee, Robert A. Kunkle, Jodi D. Smith, M. Heather West Greenlee	プリオン
2016 (H28)	4-4	RT-QuIC Assays in Humans ... and Animals	Steven Collins, Shannon Sarros	プリオン
2016 (H28)	4-4	Intra- and Interspecies Transmission of Atypical BSE – What Can We Learn from It?	Anne Balkema-Buschmann, Grit Priemer, Markus Keller, Maria Mazza, Bob Hills, Martin H Groschup	プリオン
2016 (H28)	4-4	Pathogenesis and Transmission of Classical and Atypical BSE in Cattle	Elena Vallino Costassa, Barbara Iulini*, Maria Mazza, Pierluigi Acutis, Cristiana Maurella, Daniela Meloni, Alessandra Pautasso, Lorenzo Capucci, Elena Bozzetta, Marion M. Simmons, Gianluigi Zanusso, Maurizio Pocchiari, Cristiano Corona, Cristina Casalone	プリオン
2016 (H28)	4-4	Evaluating the Species Barrier	Jean C. Manson, Abigail B. Diack	プリオン

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2016 (H28)	4-4	Guidelines for the Assessment of Flavoring Substances in Foods on Health (Guideline)	Food Safety Commission of Japan	食品添加物
2016 (H28)	4-4	Soybean Lines Generated through Cross-breeding of MON87705, MON87708 and MON89788 (Summary)	Food Safety Commission of Japan	遺伝子組換え食品
2016 (H28)	4-4	Triptorelin Acetate (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2017 (H29)	5-1	Pathology of Animal Transmissible Spongiform Encephalopathies (TSEs)	John Spiropoulos, Marion M. Simmons	プリオン
2017 (H29)	5-1	Atypical BSE: Current Knowledge and Knowledge Gaps	Sandor Dudas, Stefanie Czub	プリオン
2017 (H29)	5-1	Modeling Variant Creutzfeldt-Jakob Disease and Its Pathogenesis in Non-human Primates	Corinne Lasmézas	プリオン
2017 (H29)	5-1	Antimicrobial-resistant Bacteria Arising from the Use of Colistin Sulfate in the Livestock (Antimicrobial-resistant Bacteria) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	薬剤耐性
2017 (H29)	5-1	Cyclaniliprole (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2017 (H29)	5-1	Isofetamid (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2017 (H29)	5-2	Shiga Toxin (Verotoxin)-producing <i>Escherichia coli</i> and Foodborne Disease: A Review	Jun Terajima, Hidemasa Izumiya, Yukiko Hara-Kudo, Makoto Ohnishi	自然毒、かび毒
2017 (H29)	5-2	Acrylamide in Stir-fried Potato and Onion for Simmered Dishes in Japan	Mitsuru Yoshida, Marino Isamu, Kazuhiro Chiku	汚染物質
2017 (H29)	5-2	Captan (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2017 (H29)	5-2	Folpet (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2017 (H29)	5-2	Phytase produced using <i>Schizosaccharomyces pombe</i> ASP595-1 strain (Genetically Modified Feed Additives) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	遺伝子組換え飼料添加物
2017 (H29)	5-3	Possible Role of Phosphatidylcholine and Sphingomyelin on Fumonisin B1-mediated Toxicity	Yasushi Yamazoe, Noriko Koyama, Susumu Kumagai	自然毒、かび毒
2017 (H29)	5-3	Pork Loin Treated with High Hydrostatic Pressure as a Food Processing Technology: Subacute Toxicity of the Freeze-Dried Powder and Cytotoxicity of the Methanol Extracts	Masafumi Saito, Miyako Nishida, Takahiro Eitsuka, Yun-Jun Kim, Tadayuki Nishiumi, Tetsuya Konishi, Hiroshi Urakami, Hiroshi Nishida	毒性学
2017 (H29)	5-3	Fenquinotriene (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2017 (H29)	5-3	Flometoquin (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2017 (H29)	5-3	Pyraziflumid (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2017 (H29)	5-4	ESBL-producing <i>Escherichia coli</i> and Its Rapid Rise among Healthy People	Kumiko Kawamura, Noriyuki Nagano, Masahiro Suzuki, Jun-ichi Wachino, Kouji Kimura, Yoshichika Arakawa	微生物、 ウイルス
2017 (H29)	5-4	Enhancement of Uterine Cancer Development after Oocyte Depletion by Juvenile Exposure to Gamma Radiation in Rats	Midori Yoshida, Yoshiya Shimada	毒性学
2017 (H29)	5-4	Melengestrol Acetate (Veterinary Medicinal Products) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2017 (H29)	5-4	The Liver of the Aquacultured Japanese Pufferfish) (Natural Toxins) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	自然毒、 かび毒
2017 (H29)	5-4	2,4-D (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2018 (H30)	6-1	Current Trends in Foodborne Human Listeriosis	Atin Datta, Laurel Bural	微生物、 ウイルス
2018 (H30)	6-1	<i>Aspergillus flavus</i> Secondary Metabolites: More than Just Aflatoxins	Jeffrey W. Cary, Matthew K. Gilbert, Matthew D. Lebar, Rajtilak Majumdar, Ana M. Calvo	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-1	Role of Biomarkers in Monitoring Brevetoxins in <i>Karenia brevis</i> Exposed Shellfish	Ann Abraham, Kathleen R. El Said, Leanne J. Flewelling	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-1	Serotyping of <i>Salmonella Enterica</i> Isolated from Mice Caught on US Poultry Farms 1995 through 1998	Jean Guard, David J. Henzler, Hazem Ramadan, Deana R. Jones, Richard K. Gast, Sherrill Davison, Marc W. Allard	微生物、 ウイルス
2018 (H30)	6-2	Deoxynivalenol and Nivalenol Toxicities in Cultured Cells: a Review of Comparative Studies	Hitoshi Nagashima	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-2	Epidemiology of Foodborne Norovirus Outbreaks – United States, 2009–2015	Zachary Marsh, Minesh P. Shah, Mary E. Wikswo, Leslie Barclay, Hannah Kisselburgh, Anita Kambhampati, Jennifer L. Cannon, Umesh D. Parashar, Jan Vinjé, Aron J. Hall	微生物、 ウイルス
2018 (H30)	6-2	Distribution of Sterigmatocystin-producing <i>Aspergilli</i> in Japan	Naoki Kobayashi, Atsutaka Kubosaki, Yumi Takahashi, Miyuki Yanai, Rumi Konuma, Satomi Uehara, Takashi Chiba, Maiko Watanabe, Jun Terajima, Yoshiko Sugita-Konishi	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-2	Fumonisin-production by <i>Aspergillus</i> section <i>Nigri</i> isolates from Japanese Foods and Environments	Jun-ichi Onami, Maiko Watanabe, Tomoya Yoshinari, Ruiko Hashimoto, Mayumi Kitayama, Naoki Kobayashi, Yoshiko Sugita-Konishi, Yoichi Kamata, Haruo Takahashi, Hiroshi Kawakami, Jun Terajima	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-2	Large-scale Cultivation of <i>Gymnodinium Catenatum</i> for Paralytic Shellfish Poisoning Toxin Standards	Hiroshi Oikawa, Ryuichi Watanabe, Ryoji Matsushima, Toshiyuki Suzuki	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-2	The Molecular Detection of <i>Cryptosporidium</i> and <i>Giardia</i> in Sika Deer ( <i>Cervus Nippon Centralis</i> ) in Japan	Akiko Yamazaki, Shinji Izumiyama, Kenji Yagita, Naohiro Kishida, Atsutaka Kubosaki, Yukiko Hara-Kudo, Yoichi Kamata, Jun Terajima	微生物、 ウイルス
2018 (H30)	6-2	Mycotoxin Contamination in Japanese Domestic Feed	Ryuichi Uegaki, Atsushi Tsunoda	自然毒、 かび毒
2018 (H30)	6-2	Distribution of Diarrhetic Shellfish Toxins in Mussels, Scallops, and Ascidian	Ryoji Matsushima, Hajime Uchida, Ryuichi Watanabe, Hiroshi Oikawa, Yuki Kosaka, Toru Tanabe, Toshiyuki Suzuki	自然毒、 かび毒

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2018 (H30)	6-2	Toxins, Pathogens, and Foods: Challenges and Opportunities for Public Health. Epilogue to the Proceedings of the 12th International Symposium of the Joint Expert Panel on Toxic Microorganisms, United States– Japan Program on Development and Utilization of Natural Resources (Editorial)	Kenneth Voss, Hiroshi Asakura, Jeffrey Cary, Toshiyuki Suzuki	リスク評価
2018 (H30)	6-3	Evaluation of Necessity of 1-year Toxicity Study in Dogs - development of the New Tiered Approach for Toxicity Studies of Pesticide Considering Species Difference in “toxicity profile” and “toxicity dose-response”	Atsushi Ono, Takahiro Yoshizawa, Kiyoshi Matsumoto	農薬
2018 (H30)	6-3	Prevalence of Antibiotics Resistant <i>Listeria monocytogenes</i> Strains in Nigerian Ready-to-eat Foods	Daniel O. Ebakota, Onilude A. Abiodun, Obayagbona O. Nosa	薬剤耐性
2018 (H30)	6-3	Prevalence and Antimicrobial Resistance of <i>Salmonella</i> serotypes Isolated from Poultry Meat in Japan	Tetsuya Mori, Naoko Okamura, Kanae Kishino, Shintaro Wada, Bizhen Zou, Toyohiko Nanba, Takeshi Ito	薬剤耐性
2018 (H30)	6-3	Desmedipham (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2018 (H30)	6-3	Dicyclanil (Veterinary Medicinal Products) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2018 (H30)	6-3	Dexamethasone (Veterinary medicinal products) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2018 (H30)	6-4	Development of a bacteriophage-based Method for Detection of <i>Escherichia Coli</i> O157:H7 in Fresh Vegetables	Hoang A. Hoang, Nguyen T.T. Nhung	微生物、ウイルス
2018 (H30)	6-4	Induction of Mucosal Humoral Immunity by Subcutaneous Injection of an Oil-emulsion Vaccine against <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> serovar Enteritidis in Chickens	Yuuichi Ishida, Eishi Sakai, Katsuo Sato, Einori Sugiyama, Kazuyuki Mima, Akira Taneno, Hirofumi Shimomura, Longzhu Cui, Yoshikazu Hirai	微生物、ウイルス
2018 (H30)	6-4	Association of <i>Salmonella</i> Serotypes with Quinolone Resistance in Broilers	Ayumi Nakatsuchi, Mizuho Inagaki, Michiyo Sugiyama, Masaru Usui, Tetsuo Asai	薬剤耐性
2018 (H30)	6-4	Fumonisin (Natural Toxins and Mycotoxins) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	自然毒、かび毒
2018 (H30)	6-4	Review on the One-year Repeated Dose Oral Toxicity Study in Dogs for the Toxicological Evaluation of Pesticides (Agricultural Chemicals) (Decision of the Expert Committee on Pesticide, FSCJ, 21 December 2017) (Guideline)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2019 (H31)	7-1	Mutant Frequency is not Increased in Mice Orally Exposed to Sodium Dichromate	Yasunobu Aoki, Michiyo Matsumoto, Michi Matsumoto, Kenichi Masumura, Takehiko Nohmi	化学物質・汚染物質
2019 (H31)	7-1	Quantitative Analysis of Houseflies-mediated Food Contamination with Bacteria	Akira Fukuda, Masaru Usui, Chinami Masui, Yutaka Tamura	微生物、ウイルス
2019 (H31)	7-1	Flubenzamide (Pesticides) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2019 (R1)	7-2	Bovine Spongiform Encephalopathy – A Review from the Perspective of Food Safety	Susumu Kumagai, Takateru Daikai, Takashi Onodera	プリオン
2019 (R1)	7-2	Dietary Deoxynivalenol Exposure Assessment in University Students from Japan	Lei Xia, Yoshiko Sugita-Konishi, YunYun Gong, Michael Routledge	自然毒、かび毒

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2019 (R1)	7-2	Isobutylamine, Isopropylamine, sec-Butylamine, Propylamine, Hexylamine, Pentylamine and 2-Methylbutylamine (Flavoring Substances) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	食品添加物
2019 (R1)	7-2	Hexavalent chromium (Contaminants) (Summary)	Food Safety Commission of Japan	汚染物質
2019 (R1)	7-3	Current Status of <i>Campylobacter</i> Food Poisoning in Japan	Torrung Vetchapitak, Naoaki Misawa	微生物、 ウイルス
2019 (R1)	7-3	Examining the Presence of <i>Cronobacter</i> spp. in Ready-to-eat Edible Insects	Jake P. Greenhalgh, Daniel Amund	微生物、 ウイルス
2019 (R1)	7-3	Aluminium Ammonium Sulfate and Aluminium Potassium Sulfate (Food Additives)	Food Safety Commission of Japan	食品添加物
2019 (R1)	7-4	A Summary Report of FSCJ Workshop “Future Challenges and Opportunities in Developing Methodologies for Improved Human Risk Assessments”	Kaoruko Tachibana, George E.N. Kass, Atsushi Ono, Takashi Yamada, Weida Tong, Daniel R. Doerge, Yasushi Yamazoe	リスク評価
2019 (R1)	7-4	Effect of Citric Acid on Prolonging the Half-life of Dissolved Ozone in Water	Yoshichika Hirahara, Kazuyoshi Iwata, Katsuhiko Nakamuro	食品添加物
2019 (R1)	7-4	Aseptically Filled Tofu (Microorganisms and Viruses)	Food Safety Commission of Japan	微生物、 ウイルス
2019 (R1)	7-4	Fosfomycin (Veterinary Medicinal Products)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2020 (R2)	8-1	Current Understanding of Food Safety Assessment Procedure for Stacked Trait Products Derived from Conventional Breeding among Approved GM Plants	Wataru Iizuka	遺伝子組 換え食品
2020 (R2)	8-1	Monepantel (Veterinary Medicinal Products)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2020 (R2)	8-1	Dichlobentazox (Pesticides)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2020 (R2)	8-1	Flumequine (Veterinary Medicinal Products)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品
2020 (R2)	8-1	Fluxametamide (Pesticides)	Food Safety Commission of Japan	農薬
2020 (R2)	8-2	Quantitative Release Assessment of <i>mcr</i> -mediated Colistin-resistant <i>Escherichia Coli</i> from Japanese Pigs	Kohei Makita, Yuri Fujimoto, Nami Sugahara, Takeshi Miyama, Masaru Usui, Tetsuo Asai, Michiko Kawanishi, Manao Ozawa, Yutaka Tamura	薬剤耐性
2020 (R2)	8-2	Prediction and Characterization of CYP3A4-mediated Metabolisms of Azole Fungicides: an Application of the Fused-grid Template* system	Yasushi Yamazoe, Takashi Yamada, Kiyoshi Nagata	薬理学
2020 (R2)	8-2	Betamethasone (Veterinary Medicinal Products)	Food Safety Commission of Japan	動物用医薬品

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2020 (R2)	8-3	Elution of Radioactive Cesium from Tofu by Water Soaking	Mitsuru Yoshida, Hitomi Kaino, Saori Shidara, Kazuhiro Chiku, Mayumi Hachinohe, Shioka Hamamatsu	汚染物質
2020 (R2)	8-3	Risk Management Knowledges about Oysters for Raw Consumption and Norovirus	Kazuo Koyama, Azusa Hirakawa, Chie Uehara, Itsuko Horiguchi	リスクコ ミュニ ケーショ ン
2020 (R2)	8-3	Cattle Meat and Offal Imported from the United States of America, Canada and Ireland to Japan (Prions)	Food Safety Commission of Japan	プリオン
2020 (R2)	8-4	Attempt of Bayesian Estimation from Left-censored Data Using the Markov Chain Monte Carlo Method: Exploring Cr(VI) Concentrations in Mineral Water Products	Yoshinari Suzuki, Noriko Tanaka, Hiroshi Akiyama	汚染物質
2020 (R2)	8-4	Changes in the Risk Perception of Food Safety between 2004 and 2018	Aiko Abe, Kazuo Koyama, Chie Uehara, Azusa Hirakawa, Itsuko Horiguchi	リスクコ ミュニ ケーショ ン
2020 (R2)	8-4	Continuous Estimation of Annual Committed Effective Dose of Radioactive Cesium by Market Basket Study in Japan from 2013 to 2019 after Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident	Hiromi Nabeshi, Tomoaki Tsutsumi, Masataka Imamura, Yoshinori Uekusa, Akiko Hachisuka, Rieko Matsuda, Reiko Teshima, Hiroshi Akiyama	汚染物質
2020 (R2)	8-4	Deoxynivalenol and Nivalenol (2nd edition) [Assuring the Maximum Level of Deoxynivalenol in Wheat] (Natural Toxins and Mycotoxins)	Food Safety Commission of Japan	自然毒、 かび毒
2021 (R3)	9-1	Probabilistic Estimation of Dietary Intake of Methylmercury from Fish in Japan	Takahiro Watanabe, Rieko Matsuda, Chikako Uneyama	汚染物質
2021 (R3)	9-1	Deciphering Key Interactions of Ligands with CYP3A4-Template* system	Yasushi Yamazoe, Takashi Yamada, Akihiko Hirose, Norie Murayama	薬理学
2021 (R3)	9-1	Antimicrobial-resistant Bacteria Arising from the Use of Colistin Sulfate in the Livestock (2nd edition) (Antimicrobial-resistant Bacteria)	Food Safety Commission of Japan	薬剤耐性
2021 (R3)	9-2	Subject fields in Food Safety during 10 years (Editorial)	Yasushi Yamazoe, Shigeki Yamamoto, Midori Yoshida, Toru Kawanishi, Susumu Kumagai	
2021 (R3)	9-2	Effect of transgenic rootstock grafting on the omics profiles in tomato	Hiroaki Kodama, Taira Miyahara, Taichi Oguchi, Takashi Tsujimoto, Yoshihiro Ozeki, Takumi Ogawa, Yube Yamaguchi, Daisaku Ohta	遺伝子組 換え食品
2021 (R3)	9-2	Prevalence of Colistin-Resistant Bacteria among Retail Meats in Japan	Justice O. Odoi, Sayo Takayanagi, Michiyo Sugiyama, Masaru Usui, Yutaka Tamura, Tetsuo Asai	薬剤耐性
2021 (R3)	9-3	Recommended practices to eliminate <i>Campylobacter</i> from the Japanese broiler flocks	Asano Kozi Clarke, Said Ajlouni	微生物、 ウイルス
2021 (R3)	9-3	Antimicrobial Drug-resistance Profile of <i>Vibrio Parahaemolyticus</i> isolated from Japanese Horse Mackerel ( <i>Trachurus Japonicus</i> )	Tatsuro Nishino, Hideki Suzuki, Shiro Mizumoto, Hirota Morinushi, Hiromi Nagaoka, Keiichi Goto, Shigeki Yamamoto	微生物、 ウイルス
2021 (R3)	9-3	On the <i>Campylobacter</i> Papers in this Issue	Shigeki Yamamoto	微生物、 ウイルス
2021 (R3)	9-4	Current Status of Anisakiasis and <i>Anisakis</i> Larvae in Tokyo, Japan	Jun Suzuki, Rie Murata, Yukihiro Kodo	微生物、 ウイルス
2021 (R3)	9-4	Japanese Food Allergy-Labeling System and Comparison with the International Experience; Detection and Thresholds	Hiroshi Akiyama, Reiko Adachi	アレルギー

発行年	掲載 号数	題名	著者	分野
2021 (R3)	9-4	Allergen Labeling for Eggs as Ingredients of Pre-packaged Foods (Food-allergy)	Food Safety Commission of Japan	アレルギー
2022 (R4)	10-1	Radiocesium Concentration in Commercially-Available Foods Produced in Japan: 2017-2019	Hiromi Nabeshi, Masataka Imamura, Tomoaki Tsutsumi, Tomomi Maeda, Akiko Hachisuka, Hiroshi Akiyama	放射性物質
2022 (R4)	10-1	Omics Profiles of Non-transgenic Scion Grafted on Transgenic RdDM Rootstock	Hiroaki Kodama, Yukiko Umeyama, Taira Miyahara, Taichi Oguchi, Takashi Tsujimoto, Yoshihiro Ozeki, Takumi Ogawa, Yube Yamaguchi, Daisaku Ohta	遺伝子組換え植物
2022 (R4)	10-1	Inhibition of CYP3A-mediated Midazolam Metabolism by <i>Kaempferia Parviflora</i>	Yumika Kashiwabuchi, Yuki Nishimura, Norimitsu Kurata, Mariko Iwase, Yuji Kiuchi, Koji Nobe	薬理学
2022 (R4)	10-2	Comparison of the Importance and Prioritization of Information Communicated to Consumers by Experts Regarding Food Safety	Itsuko Horiguchi, Kazuo Koyama, Azusa Hirakawa, Mieko Shiomi, Kaoruko Tachibana, Katsuyuki Watanabe	リスクコミュニケーション
2022 (R4)	10-2	Focusing Points on FSCJ's Guideline Recently Established: Risk Assessment of Food Contact Materials (Guideline)	Masahiro Nakamoto	容器・包装
2022 (R4)	10-2	Lead (Chemicals and Contaminants)	Food Safety Commission of Japan	汚染物質
2022 (R4)	10-3	Combined Risk Assessment of Food-derived Coumarin with <i>in Silico</i> Approaches	Takashi Yamada, Naruo Katsutani, Taeko Maruyama, Tomoko Kawamura, Hiroshi Yamazaki, Norie Murayama, Weida Tong, Yasushi Yamazoe, Akihiko Hirose	リスク評価
2022 (R4)	10-3	Dietary Exposure of the Japanese General Population to Elements: Total Diet Study 2013–2018	Takahiro Watanabe, Yohei Kataoka, Kyoko Hayashi, Rieko Matsuda, Chikako Uneyama	暴露評価
2022 (R4)	10-3	Commentary on the Risk Assessment of Lead by the Food Safety Commission of Japan	Fumi Irie	汚染物質
2022 (R4)	10-4	Japanese Regulatory Framework and Approach for Genome-edited Foods Based on Latest Scientific Findings	Kazunari Kondo, Chie Taguchi	ゲノム編集
2022 (R4)	10-4	Application of CYP1A2-Template System to Understand Metabolic Processes in the Safety Assessment	Norie Murayama, Takashi Yamada, Yasushi Yamazoe	薬理学
2022 (R4)	10-4	Paraquat (Pesticides)	Food Safety Commission of Japan	農薬

## 12 歴代政務一覽

2012年（平成24年）12月26日～2023年（令和5年）3月31日

	大臣	副大臣	大臣政務官
第2次安倍内閣	森 まさこ (平成24.12.26～平成26.9.3)	伊達 忠一 (平成24.12.27～平成25.9.30)	亀岡 偉民 (平成24.12.27～平成25.9.30)
		岡田 広 (平成25.9.30～平成26.9.4)	福岡 資麿 (平成25.9.30～平成26.9.4)
第2次安倍内閣 (第1次改造)	有村 治子 (平成26.9.3～平成26.12.24)	赤澤 亮正 (平成26.9.4～平成26.12.24)	越智 隆雄 (平成26.9.4～平成26.12.24)
第3次安倍内閣	山口 俊一 (平成26.12.24～平成27.10.7)	平 将明 (平成26.12.25～平成27.10.9)	松本 洋平 (平成26.12.25～平成27.10.9)
第3次安倍内閣 (改造内閣)	河野 太郎 (平成27.10.7～平成28.8.3)	松本 文明 (平成27.10.9～平成28.8.5)	酒井 庸行 (平成27.10.9～平成28.8.5)
第3次安倍内閣 (第2次改造内閣)	松本 純 (平成28.8.3～平成29.8.3)	松本 洋平 (平成28.8.5～平成29.8.7)	務台 俊介 (平成28.8.5～平成29.3.10)
			長坂 康正 (平成29.3.10～平成29.11.1)
第3次安倍内閣 (第3次改造内閣)	江崎 鐵磨 (平成29.8.3～平成29.11.1)	ふくだ 峰之 (平成29.8.7～平成29.9.25)	長坂 康正(留任)
		あかま 二郎 (平成29.9.27～平成29.11.1)	
第4次安倍内閣	福井 照 (平成29.11.1～平成30.10.2)	あかま 二郎 (平成29.11.2～平成30.10.4)	山下 雄平 (平成29.11.2～平成30.10.4)
第4次安倍内閣 (改造内閣)	宮腰 光寛 (平成30.10.2～令和元9.11)	左藤 章 (平成30.10.4～令和元9.13)	安藤 裕 (平成30.10.4～令和元9.13)
第4次安倍内閣 (第2次改造内閣)	衛藤 晟一 (令和元9.11～令和2.9.16)	大塚 拓 (令和元9.13～令和2.9.16)	藤原 崇 (令和元9.13～令和2.9.16)
菅内閣	井上 信治 (令和2.9.16～令和3.10.4)	三ツ林 裕巳 (令和2.9.18～令和3.10.4)	吉川 赳 (令和2.9.18～令和3.10.4)
岸田内閣	若宮 健嗣 (令和3.10.4～令和3.11.10)	赤池 誠章 (令和3.10.6～令和3.11.10)	木村 哲也 (令和3.10.6～令和3.11.10)
第2次岸田内閣	若宮 健嗣 (令和3.11.10～令和4.8.10)	赤池 誠章 (令和3.11.11～令和4.8.12)	宮路 拓馬 (令和3.11.11～令和4.8.12)
第2次岸田内閣 (改造内閣)	河野 太郎 (令和4.8.10～)	大串 正樹 (令和4.8.12～)	尾崎 正直 (令和4.8.12～)



# 13 食品安全委員会委員の変遷

内閣総理大臣任命 任期3年 委員長は委員の互選

専門分野	任期(3年)			備考
	H25時点	H27.7.1~	H30.7.1~	
公衆衛生学等	佐藤 洋 (元) 国立環境研究所理事 任期: H24.7.1~R3.6.30 (9年)	委員長 (H27.7.1~R3.6.30)	脇 昌子 (元) 地独 静岡市立静岡病院理事兼病院長補佐 任期: R3.7.1~	常勤委員
有機化学等	山添 康 (元) 東北大学大学院薬学研究科教授 任期: H24.7.1~H30.6.30 (6年)		川西 徹 (元) 国立医薬品食品衛生研究所所長 任期: H30.7.1~	常勤委員
毒性学等	三森 国敏 (元) 東京農工大学大学院農学研究科教授 任期: H24.7.1~H27.6.30 (3年)	吉田 緑 (元) 国立医薬品食品衛生研究所安全生体試験研究センター第二室長 任期: H27.7.1~R3.6.30 (6年)	浅野 哲 (元) 国際医療福祉大学教授 任期: R3.7.1~	常勤委員
微生物等	H26.1.7~ 熊谷 進 (元) 東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授 任期: H23.1.7~H29.1.6 (6年)	委員長 (H24.7.1~H27.6.30)	委員長 (R3.7.1~)	常勤委員
消費者意識、消費行動等	石井 克枝 (元) 千葉大学教育学部教授 任期: H24.7.1~H30.6.30 (6年)		香西 みどり (元) お茶の水女子大学基幹研究院教授 任期: H30.7.1	非常勤委員
情報交流	上安平 冽子 (元) 株式会社NHKグループバブルメディアサービス企画事業部担当部長 任期: H24.7.1~H27.6.30 (3年)	堀口 逸子 (元) 東京理科大学薬学部教授 任期: H27.7.1~R3.6.30 (6年)	松永 和紀 (元) 科学ジャーナリスト 任期: R3.7.1~	非常勤委員
食品の生産・流通システム等	村田 容常 (元) 茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授 任期: H21.7.1~H30.6.30 (9年)		吉田 充 (元) 日本獣医生命科学大学教授 任期: H30.7.1~	非常勤委員



# 14 専門調査会等座長・座長代理の変遷

	2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)		2018年 (平成30年)		2019年 (平成31年 令和元年)		2020年 (令和2年)		2021年 (令和3年)		2022年 (令和4年)		2023年 (令和5年)	
	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	3月
化学物質・汚染物質	座長 面藤 時実 (H24.1.127~H27.9.30)																					
	座長代理 長谷川 隆一 (H23.12.22~H27.9.30)																					
汚染物質等	座長 長谷川 隆一 (H27.12.11~H29.9.30)																					
	座長代理 藤岡 英雄 (H27.12.11~H29.9.30)																					
微生物・ウイルス	座長 深澤 涼輝 (H19.10.19~H25.9.30) 岡部 信彦 (H25.10.21~H29.9.30)																					
	座長代理 品川 邦弘 (H21.11.2~H25.9.30) 吉川 泰弘 (H25.10.21~H29.9.30)																					
フリオン	座長代理 清井 伸夫 (H22.12.24~H25.9.30) 村上 洋介 (H26.2.27~H30.3.31)																					
	座長 水澤 英洋 (H18.6.22~R4.3.31)																					
かび等・自然害等	座長代理 山本 茂真 (H26.2.27~H29.1.6)																					
	座長 芳澤 智重 (H23.3.8~H25.9.30) 高崎 茂 (H25.10.15~H29.9.30)																					
遺伝子組換え食品等	座長代理 宮崎 茂 (H23.11.30~H25.9.30) 合田 幸広 (H25.10.15~H29.9.30)																					
	座長 津田 誠一 (H19.10.9~H29.9.30)																					
新興感染症	座長代理 鶴田 博 (H19.10.9~H26.3.31) 小堀 昌宏 (H26.4.24~H29.9.30)																					
	座長代理 山崎 隆一 (H23.10.27~H29.9.30)																					
新開発食品	座長 清水 隆 (H24.10.18~H29.9.30)																					
	座長代理 尾崎 博 (H24.10.18~H29.9.30)																					
肥料・飼料等	座長 藤木 英明 (H15.10.14~H25.9.30) 津田 修治 (H25.10.10~H27.9.30)																					
	座長代理 津田 修治 (H23.11.2~H25.9.30) 今井 俊夫 (H25.10.10~H27.9.30)																					
医薬品(シニア・リハビリ・ヘルスケア)を営む会社に関するワーキンググループ	座長代理 山崎 隆一 (H22.10.15~H30.4.30)																					
	座長 今井田 克己 (H22.10.15~H30.4.30)																					
いわゆる健康食品(健康機能性食品)に関するワーキンググループ	座長 藤田 昌子 (H27.6.22~H30.4.30)																					
	座長代理 梅原 敬三 (H27.6.22~H30.4.30)																					
化学物質・汚染物質	座長 面藤 時実 (H24.1.127~H27.9.30)																					
	座長代理 長谷川 隆一 (H23.12.22~H27.9.30)																					
汚染物質等	座長 長谷川 隆一 (H27.12.11~H29.9.30)																					
	座長代理 藤岡 英雄 (H27.12.11~H29.9.30)																					
微生物・ウイルス	座長 深澤 涼輝 (H19.10.19~H25.9.30) 岡部 信彦 (H25.10.21~H29.9.30)																					
	座長代理 品川 邦弘 (H21.11.2~H25.9.30) 吉川 泰弘 (H25.10.21~H29.9.30)																					
フリオン	座長代理 清井 伸夫 (H22.12.24~H25.9.30) 村上 洋介 (H26.2.27~H30.3.31)																					
	座長 水澤 英洋 (H18.6.22~R4.3.31)																					
かび等・自然害等	座長代理 山本 茂真 (H26.2.27~H29.1.6)																					
	座長 芳澤 智重 (H23.3.8~H25.9.30) 高崎 茂 (H25.10.15~H29.9.30)																					
遺伝子組換え食品等	座長代理 宮崎 茂 (H23.11.30~H25.9.30) 合田 幸広 (H25.10.15~H29.9.30)																					
	座長 津田 誠一 (H19.10.9~H29.9.30)																					
新興感染症	座長代理 鶴田 博 (H19.10.9~H26.3.31) 小堀 昌宏 (H26.4.24~H29.9.30)																					
	座長代理 山崎 隆一 (H23.10.27~H29.9.30)																					
新開発食品	座長 清水 隆 (H24.10.18~H29.9.30)																					
	座長代理 尾崎 博 (H24.10.18~H29.9.30)																					
肥料・飼料等	座長 藤木 英明 (H15.10.14~H25.9.30) 津田 修治 (H25.10.10~H27.9.30)																					
	座長代理 津田 修治 (H23.11.2~H25.9.30) 今井 俊夫 (H25.10.10~H27.9.30)																					
医薬品(シニア・リハビリ・ヘルスケア)を営む会社に関するワーキンググループ	座長代理 山崎 隆一 (H22.10.15~H30.4.30)																					
	座長 今井田 克己 (H22.10.15~H30.4.30)																					
いわゆる健康食品(健康機能性食品)に関するワーキンググループ	座長 藤田 昌子 (H27.6.22~H30.4.30)																					
	座長代理 梅原 敬三 (H27.6.22~H30.4.30)																					

14 専門調査会等座長・座長代理の変遷

	2013年 (平成25年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2014年 (平成26年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2015年 (平成27年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2016年 (平成28年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2017年 (平成29年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2018年 (平成30年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2019年 (令和元年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2020年 (令和2年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2021年 (令和3年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2022年 (令和4年) 1月 4月 7月 10月 1月 4月 7月 10月	2023年 (令和5年) 1月 4月 7月 10月 1月 3月
座長											
座長代理				青木 康憲(H28.2.1~H30.4.30)							
座長				藤瀬 英樹(H28.2.1~H30.4.30)							
座長代理				吉川 泰弘(H27.10.26~H29.9.30)							
座長				田村 重(H27.10.26~H29.9.30)							
座長代理				田村 重(H27.10.26~H29.9.30)							
座長				長谷川 隆二(H28.7.7~H30.4.30)							
座長代理				長谷川 隆二(H28.7.7~H30.4.30)							
座長				川村 孝(H28.6.1~現在)							
座長代理				広瀬 明彦(H28.6.1~現在)							
座長				長谷川 隆二(H28.7.7~H30.4.30)							
座長代理				長谷川 隆二(H28.7.7~H30.4.30)							
座長				田中 亮太(H29.7.6~R3.6.30)							
座長代理				梅村 隆志(H28.3.30~R3.6.30)							
座長				丸井 英二(H28.12.4~R3.6.30)							
座長代理				宇理須 厚雄(H28.12.4~R元.9.30)							
座長				山崎 社(H30.2.5~現在)							
座長代理				西 信雄(H30.2.5~現在)							
座長				松井 徹(H元.5.16~R3.6.30)							
座長代理				沼田 香苗(H元.5.16~R3.6.30)							
座長				藤田 隆字(R1.10.24~R3.3.31)							
座長代理				重福 肇(R1.10.24~R3.3.31)							
座長				梅村 隆志(H28.6.28~現在)							
座長代理				石塚 真由美(R3.5.26~現在)							
座長				坂野 誠一郎(R6.2.27~現在)							
座長代理				中山 祥嗣(R6.2.27~現在)							

## 15 専門委員一覧

- 企画等専門調査会
- 添加物専門調査会
- 農薬専門調査会
- 農薬第一専門調査会
- 農薬第二専門調査会
- 農薬第三専門調査会
- 農薬第四専門調査会
- 農薬第五専門調査会
- 動物用医薬品専門調査会
- 器具・容器包装専門調査会
- 化学物質・汚染物質専門調査会（～平成 27 年 9 月 30 日まで）汚染物質等専門調査会（平成 27 年 10 月 1 日～）
- 微生物・ウイルス専門調査会
- プリオン専門調査会
- かび毒・自然毒等専門調査会
- 遺伝子組換え食品等専門調査会
- 新開発食品専門調査会
- 肥料・飼料等専門調査会
- 高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するワーキンググループ
- いわゆる「健康食品」に関する検討ワーキンググループ
- 加熱時に生じるアクリルアミドワーキンググループ
- 薬剤耐性菌に関するワーキンググループ
- 清涼飲料水に関するワーキンググループ
- 評価技術企画ワーキンググループ
- 六価クロムワーキンググループ
- 栄養成分関連添加物ワーキンググループ
- アレルゲンを含む食品に関するワーキンググループ
- 香料ワーキンググループ
- 鉛ワーキンググループ
- 菌末を原材料として使用する製粉乳に関するワーキンググループ
- ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ
- 有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ

〈企画等専門調査会〉

2013年(平成25年) 10月改選		2015年(平成27年) 10月改選		2017年(平成29年) 10月改選		2019年(令和元年) 10月改選		2021年(令和3年) 10月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	有路 昌彦	1	有路 昌彦	1	有路 昌彦	1	阿知和 梨香	1	足立 真由	1	足立 真由
2	石川 広己	2	有田 芳子	2	有田 芳子	2	阿部 絹子*	2	阿部 絹子	2	阿部 絹子
3	大澤 幸弘*	3	井川 洋子	3	畠山 智香子	3	有路 昌彦	3	有田 芳子	3	有田 芳子
4	大瀧 直子	4	石川 広己*	4	浦郷 由季	4	有田 芳子	4	今村 知明	4	今村 知明
5	大西 由美	5	今川 みどり	5	大澤 幸弘*	5	石田 茂	5	畠山 智香子	5	畠山 智香子
6	鬼武 一夫	6	大倉 志保子	6	鬼武 一夫	6	稲見 成之	6	浦郷 由季	6	浦郷 由季
7	神村 裕子	7	大澤 幸弘	7	神村 裕子	7	畠山 智香子	7	太田 桂子	7	太田 桂子
8	川西 徹	8	鬼武 一夫	8	亀井 美和子**	8	浦郷 由季	8	神村 裕子	8	神村 裕子
9	藏内 勇夫	9	神村 裕子	9	川西 徹***	9	大塚 真理子	9	亀井 美和子	9	亀井 美和子
10	小出 薫	10	川西 徹	10	合田 幸広**	10	大西 由美	10	川崎 功博	10	川崎 功博
11	河野 康子	11	河野 康子	11	後藤 慶子	11	鬼武 一夫	11	北見 麻里央	11	北見 麻里央
12	迫 和子	12	小西 寛昭	12	小西 寛昭	12	神村 裕子	12	合田 幸広	12	合田 幸広
13	鈴木 春美	13	迫 和子	13	坂野 譲**	13	亀井 美和子	13	白岩 利恵子	13	白岩 利恵子
14	高岡 慎一郎	14	高岡 慎一郎	14	迫 和子	14	合田 幸広	14	田沼 恵理	14	田沼 恵理
15	竹原 智恵子	15	道明 雅代**	15	佐藤 宏哉	15	後藤 慶子	15	千葉 淳一	15	千葉 淳一
16	田崎 達明	16	戸部 依子	16	高岡 慎一郎	16	小西 寛昭	16	米田 千恵	16	米田 千恵
17	民野 摂子	17	中村 重信	17	道明 雅代*	17	坂野 譲				
18	坪田 恵子	18	夏目 智子	18	戸部 依子	18	佐藤 宏哉				
19	局 博一	19	野口 知恵	19	長田 三紀	19	下浦 佳之**				
20	戸部 依子	20	藤原 英憲*	20	中村 重信	20	高岡 慎一郎				
21	中本 絵里	21	松谷 和重	21	春名 草宏	21	戸部 依子				
22	夏目 智子	22	松本 吉郎**	22	松本 吉郎	22	永倉 智子				
23	藤原 英憲	23	宮野 廣美*	23	宮崎 禮子	23	松本 吉郎***				
24	堀口 逸子***	24	山内 正孝	24	両澤 増枝	24	山田 卓郎***				
25	松谷 和重	25	山本 唯子	25	渡邊 和久	25	米田 千恵				
26	宮野 廣美	26	渡邊 和久**	26	渡邊 美幸	26	渡邊 和久***				
27	山田 祥男**		*平成28年9月30日まで		*平成30年7月31日まで		*令和2年10月1日から				
28	山根 香織		**平成28年10月1日から		**平成30年8月1日から		**令和2年9月30日まで				
29	山本 唯子				***平成30年6月30日まで		***令和2年8月31日まで				
30	渡邊 治雄						***令和2年9月1日から				
			*平成26年4月1日から								
			**平成26年3月31日まで								
			***平成27年6月30日まで								



〈農業専門調査会〉

2014年(平成26年) 4月改選		2016年(平成28年) 4月改選		2018年(平成30年) 4月改選		2020年(令和2年) 4月改選		2022年(令和4年) 4月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	相磯 成敏	1	相磯 成敏	1	赤池 昭紀						
2	赤池 昭紀	2	浅野 哲	2	浅野 哲						
3	浅野 哲	3	石井 雄二	3	石井 雄二						
4	井上 薫**	4	太田 敏博	4	乾 秀之						
5	上路 雅子	5	小澤 正吾	5	太田 敏博						
6	太田 敏博	6	小野 敦	6	小澤 正吾						
7	小澤 正吾	7	加藤 美紀	7	小野 敦						
8	小野 敦	8	川口 博明	8	加藤 美紀						
9	加藤 美紀	9	久野 壽也	9	川口 博明						
10	川口 博明	10	柴形 麻樹子	10	久野 壽也						
11	柴形 麻樹子	11	腰岡 政二	11	柴形 麻樹子						
12	腰岡 政二	12	三枝 順三	12	腰岡 政二						
13	三枝 順三	13	佐藤 洋	13	佐藤 洋						
14	佐々木 有	14	篠原 厚子	14	篠原 厚子						
15	佐藤 洋	15	代田 眞理子	15	代田 眞理子						
16	篠原 厚子	16	杉原 数美	16	杉原 数美						
17	代田 眞理子	17	清家 伸康	17	清家 伸康						
18	杉原 数美	18	高木 篤也	18	高木 篤也						
19	清家 伸康	19	高橋 祐次	19	高橋 祐次						
20	高木 篤也	20	塚原 伸治	20	玉井 郁巳						
21	玉井 郁巳	21	豊田 武士	21	豊田 武士						
22	田村 廣人	22	中島 美紀	22	中島 美紀						
23	中島 美紀	23	中島 裕司	23	中島 裕司						
24	永田 清	24	中塚 敏夫	24	永田 清						
25	中塚 敏夫	25	長野 嘉介	25	中塚 敏夫						
26	長野 嘉介	26	中山 眞義	26	長野 嘉介						
27	中山 眞義	27	納屋 聖人	27	中山 眞義						
28	納屋 聖人	28	西川 秋佳	28	納屋 聖人						
29	西川 秋佳	29	根岸 友恵	29	西川 秋佳						
30	根岸 友恵	30	八田 稔久	30	根岸 友恵						
31	八田 稔久	31	林 真	31	八田 稔久						
32	林 真	32	平塚 明	32	平塚 明						
33	平塚 明	33	平林 容子	33	平林 容子						

農薬第一～第五専門調査会に改組



〈農業専門調査会〉

2014年(平成26年) 4月改選		2016年(平成28年) 4月改選		2018年(平成30年) 4月改選		2020年(令和2年) 4月改選	2022年(令和4年) 4月改選	2023年(令和5年) 4月現在
34	福井 義浩	34	福井 義浩	34	福井 義浩			
35	藤本 成明	35	堀本 政夫	35	藤井 咲子			
36	細川 正清	36	本多 一郎	36	藤本 成明			
37	堀本 政夫	37	本間 正充*	37	堀本 政夫			
38	本多 一郎	38	増村 健一	38	本多 一郎			
39	本間 正充	39	美谷島 克宏	39	本間 正充			
40	増村 健一	40	森田 健	40	増村 健一			
41	松本 清司	41	山本 雅子	41	松本 清司			
42	森田 健	42	與語 靖洋	42	美谷島 克宏			
43	山崎 浩史	43	義澤 克彦	43	森田 健			
44	山手 丈至	44	吉田 充	44	安井 学			
45	山本 雅子	45	若栗 忍	45	山手 丈至			
46	與語 靖洋			46	山本 雅子			
47	義澤 克彦		*平成29年9月30日まで	47	與語 靖洋			
48	吉田 充			48	義澤 克彦			
49	吉田 緑*			49	吉田 充*			
50	若栗 忍			50	若栗 忍			
	*平成27年6月30日まで			51	渡邊 栄喜			
	**平成27年9月30日まで							

農薬第一～第五専門調査会に改組

〈農業第一専門調査会〉

2014年 (平成26年) 4月改選	2016年 (平成28年) 4月改選	2018年 (平成30年) 4月改選	2020年 (令和2年) 4月当初	2022年 (令和4年) 4月改選	2023年 (令和5年) 4月現在
			1 赤池 昭紀*	1 井上 真奈美	1 井上 真奈美
			2 浅野 哲**	2 小澤 正吾	2 小澤 正吾
			3 小澤 正吾	3 小野 敦	3 小野 敦
			4 小野 敦	4 栗形 麻樹子	4 栗形 麻樹子
			5 栗形 麻樹子***	5 杉山 圭一	5 杉山 圭一
			6 清家 伸康	6 清家 伸康	6 清家 伸康
			7 中島 美紀	7 祖父江 友孝	7 祖父江 友孝
			8 本間 正充	8 平林 容子	8 平林 容子
			9 松本 清司	9 堀本 政夫	9 堀本 政夫
			10 美谷島 克宏	10 本間 正充	10 本間 正充
				11 美谷島 克宏	11 美谷島 克宏
			*令和3年8月4日から	12 興語 靖洋	12 興語 靖洋
			**令和3年6月30日まで	13 義澤 克彦	13 義澤 克彦
			***令和3年9月30日まで		



〈農業第三専門調査会〉

2014年(平成26年) 4月改選	2016年(平成28年) 4月改選	2018年(平成30年) 4月改選	2020年(令和2年) 4月当初	2022年(令和4年) 4月改選	2023年(令和5年) 4月現在
			1 小澤 正吾	1 小澤 正吾	1 小澤 正吾
			2 久野 壽也	2 久野 壽也	2 久野 壽也
			3 栗形 麻樹子*	3 栗形 麻樹子	3 栗形 麻樹子
			4 古武 弥一郎	4 小嶋 五百合	4 小嶋 五百合
			5 中島 美紀	5 古武 弥一郎	5 古武 弥一郎
			6 平林 容子	6 杉山 圭一	6 杉山 圭一
			7 松本 清司	7 八田 稔久	7 八田 稔久
			8 山手 丈至	8 平林 容子	8 平林 容子
			9 山本 雅子	9 安彦 行人	9 安彦 行人
			10 若栗 忍	10 山手 丈至	10 山手 丈至
			11 渡邊 栄喜	11 義澤 克彦	11 義澤 克彦
				12 渡邊 栄喜	12 渡邊 栄喜
				13 渡邊 雅彦	13 渡邊 雅彦
			*令和3年9月30日まで		

〈農業第四専門調査会〉

2014年(平成26年) 4月改選	2016年(平成28年) 4月改選	2018年(平成30年) 4月改選	2020年(令和2年) 4月当初	2022年(令和4年) 4月改選	2023年(令和5年) 4月現在
			1 石井 雄二	1 石井 雄二	1 石井 雄二
			2 太田 敏博	2 太田 敏博	2 太田 敏博
			3 小野 敦	3 小野 敦	3 小野 敦
			4 楠原 洋之	4 楠原 洋之	4 楠原 洋之
			5 小林 健一	5 小林 健一	5 小林 健一
			6 佐藤 洋	6 佐藤 洋	6 佐藤 洋
			7 杉原 数美	7 杉原 数美	7 杉原 数美
			8 高木 篤也	8 永田 清	8 永田 清
			9 永田 清	9 中山 真義	9 中山 真義
			10 中山 真義	10 納屋 聖人	10 納屋 聖人
			11 藤井 咲子	11 藤井 咲子	11 藤井 咲子
			12 本多 一郎	12 安井 学	12 安井 学
			13 安井 学		

〈農業第五専門調査会〉

2014年(平成26年) 4月改選	2016年(平成28年) 4月改選	2018年(平成30年) 4月改選	2020年(令和2年) 4月当初	2022年(令和4年) 4月改選	2023年(令和5年) 4月現在
			1 乾 秀之	1 乾 秀之	1 乾 秀之
			2 宇田川 潤	2 宇田川 潤	2 宇田川 潤
			3 加藤 美紀	3 籠橋 有紀子	3 籠橋 有紀子
			4 久米 利明	4 加藤 美紀	4 加藤 美紀
			5 代田 真理子	5 川口 博明	5 川口 博明
			6 高橋 祐次	6 久米 利明	6 久米 利明
			7 玉井 郁巳	7 高橋 祐次	7 高橋 祐次
			8 西川 秋佳	8 玉井 郁巳	8 玉井 郁巳
			9 根岸 友恵	9 西川 秋佳	9 西川 秋佳
			10 本間 正充	10 古濱 彩子	10 古濱 彩子
			11 美谷島 克宏	11 本間 正充	11 本間 正充
				12 美谷島 克宏	12 美谷島 克宏
				13 與語 靖洋	13 與語 靖洋

〈動物用医薬品専門調査会〉

2013年(平成25年) 10月改選		2015年(平成27年) 10月改選		2017年(平成29年) 10月改選		2019年(令和元年) 10月改選		2021年(令和3年) 10月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	青木 博史	1	青木 博史	1	青木 博史	1	青木 博史	1	青木 博史	1	青木 博史
2	青山 博昭	2	青山 博昭	2	青山 博昭	2	青山 博昭	2	青山 博昭	2	青山 博昭
3	石川 さと子	3	石川 さと子	3	石川 さと子	3	石川 さと子	3	石塚 真由美	3	石塚 真由美
4	石川 肇	4	石塚 真由美*	4	石塚 真由美*	4	石塚 真由美	4	稲見 圭子	4	稲見 圭子
5	小川 久美子	5	小川 久美子	5	小川 久美子	5	小川 久美子	5	伊吹 裕子	5	伊吹 裕子
6	川治 聡子	6	島田 章則	6	島田 章則	6	島田 章則	6	桑村 充	6	桑村 充
7	須永 藤子	7	島田 美樹*	7	島田 美樹	7	島田 美樹	7	島田 章則	7	島田 章則
8	辻 尚利	8	須永 藤子	8	下地 善弘	8	下地 善弘	8	島田 美樹	8	島田 美樹
9	寺岡 宏樹	9	辻 尚利	9	須永 藤子	9	須永 藤子	9	須永 藤子	9	須永 藤子
10	能美 健彦	10	寺岡 宏樹	10	辻 尚利	10	辻 尚利	10	寺岡 宏樹	10	寺岡 宏樹
11	舞田 正志	11	能美 健彦	11	寺岡 宏樹	11	寺岡 宏樹	11	内木 綾	11	内木 綾
12	松尾 三郎	12	舞田 正志	12	能美 健彦	12	中西 剛	12	中西 剛	12	中西 剛
13	宮田 昌明	13	宮田 昌明	13	舞田 正志	13	能美 健彦	13	宮田 昌明	13	宮田 昌明
14	山崎 浩史	14	山崎 浩史**	14	宮田 昌明	14	宮田 昌明	14	山本 昌美	14	山本 昌美
15	山手 丈至	15	吉田 和生	15	吉田 敏則	15	山本 昌美*				
16	吉田 和生	16	吉田 敏則	16	渡邊 敏明						
17	吉田 敏則	17	渡邊 敏明				*令和2年4月1日から				
18	渡邊 敏明										
			*平成28年4月1日から								
			**平成28年3月31日まで								

〈器具・容器包装専門調査会〉

2013年(平成25年) 10月改選		2015年(平成27年) 10月改選		2017年(平成29年) 10月改選		2019年(令和元年) 10月改選		2021年(令和3年) 10月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	石原 陽子	1	井口 泰泉	1	井口 泰泉	1	井口 泰泉	1	石原 陽子	1	石原 陽子
2	小野 敦	2	石原 陽子	2	石原 陽子	2	石原 陽子	2	尾崎 麻子	2	尾崎 麻子
3	小林 カオル	3	尾崎 麻子	3	尾崎 麻子	3	尾崎 麻子	3	小野 敦	3	小野 敦
4	曾根 秀子	4	小野 敦	4	小野 敦	4	小野 敦	4	佐藤 友美	4	齋藤 文代*
5	田中 亮太	5	小林 カオル	5	小林 カオル	5	小林 カオル	5	曾根 秀子	5	佐藤 友美
6	中江 大	6	曾根 秀子	6	曾根 秀子	6	曾根 秀子	6	高田 十志和	6	曾根 秀子
7	那須 民江	7	田中 亮太	7	田中 亮太*	7	高田 十志和	7	中江 大	7	高田 十志和
8	能美 健彦	8	中江 大	8	中江 大**	8	中江 大	8	能美 健彦	8	中江 大
9	松永 民秀	9	那須 民江	9	那須 民江	9	能美 健彦	9	北條 仁	9	能美 健彦
10	六鹿 元雄	10	能美 健彦	10	能美 健彦	10	北條 仁	10	堀端 克良	10	北條 仁
11	横井 毅	11	松永 民秀	11	北條 仁***	11	堀端 克良	11	増田 修一	11	堀端 克良
12	吉永 淳	12	六鹿 元雄	12	堀端 克良**	12	増田 修一	12	六鹿 元雄	12	増田 修一
		13	横井 毅	13	増田 修一	13	松永 民秀	13	村山 典恵	13	三浦 佳子*
		14	吉永 淳	14	松永 民秀	14	六鹿 元雄	14	渡辺 雅彦	14	六鹿 元雄
				15	六鹿 元雄	15	横井 毅			15	村山 典恵
				16	横井 毅					16	渡辺 雅彦
				17	吉永 淳						
					*平成30年8月31日まで						*令和4年4月1日から
					**平成30年4月1日から						
					***平成30年9月1日から						







〈プリオン専門調査会〉

2014年(平成26年) 4月改選		2016年(平成28年) 4月改選		2018年(平成30年) 4月改選		2020年(令和2年) 4月改選		2022年(令和4年) 4月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	門平 睦代	1	門平 睦代	1	今村 守一	1	今村 守一	1	今村 守一	1	今村 守一
2	筒井 俊之	2	斉藤 守弘**	2	岩丸 祥史**	2	岩丸 祥史	2	岩丸 祥史	2	岩丸 祥史
3	堂浦 克美	3	高尾 昌樹	3	門平 睦代*	3	斉藤 守弘	3	斉藤 守弘	3	斉藤 守弘
4	永田 知里	4	筒井 俊之	4	斉藤 守弘	4	佐藤 克也	4	佐藤 克也	4	佐藤 克也
5	中村 優子	5	堂浦 克美	5	佐藤 克也	5	高尾 昌樹	5	高尾 昌樹	5	高尾 昌樹
6	中村 好一	6	中村 桂子	6	高尾 昌樹	6	筒井 俊之	6	中村 桂子	6	中村 桂子
7	八谷 如美	7	中村 優子	7	筒井 俊之	7	中村 桂子	7	中村 優子	7	中村 優子
8	福田 茂夫	8	中村 好一	8	中村 桂子	8	中村 優子	8	八谷 如美*	8	花島 律子
9	眞鍋 昇	9	八谷 如美	9	中村 優子	9	八谷 如美	9	花島 律子	9	福田 茂夫
10	水澤 英洋	10	福田 茂夫	10	中村 好一	10	福田 茂夫	10	福田 茂夫	10	眞鍋 昇
11	村上 洋介	11	眞鍋 昇	11	八谷 如美	11	眞鍋 昇	11	眞鍋 昇	11	横山 隆
12	山田 正仁	12	水澤 英洋	12	福田 茂夫	12	水澤 英洋		横山 隆		
13	山本 茂貴	13	村上 洋介	13	眞鍋 昇						
14	横山 隆	14	山本 茂貴*	14	水澤 英洋				*令和5年2月5日まで		
		15	横山 隆	15	横山 隆						
			*平成29年1月6日まで		*令和元年9月30日まで						
			**平成29年10月1日から		**令和元年10月1日から						



〈遺伝子組換え食品等専門調査会〉

2013年(平成25年) 10月改選		2015年(平成27年) 10月改選		2017年(平成29年) 10月改選		2019年(令和元年) 10月改選		2021年(令和3年) 10月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	宇理須 厚雄	1	岡田 由美子	1	安達 玲子	1	安達 玲子	1	安達 玲子	1	安達 玲子
2	岡田 由美子*	2	小関 良宏	2	飯島 陽子*	2	飯島 陽子	2	岡田 由美子	2	岡田 由美子
3	小関 良宏	3	橋田 和美	3	小関 良宏	3	岡田 由美子	3	小関 良宏*	3	小野 道之
4	鎌田 博**	4	児玉 浩明	4	橋田 和美	4	小関 良宏	4	小野 道之	4	小野 竜一
5	橋田 和美	5	近藤 一成	5	児玉 浩明	5	小野 竜一	5	小野 竜一	5	近藤 一成
6	児玉 浩明	6	澤田 純一	6	近藤 一成	6	橋田 和美	6	近藤 一成	6	佐々木 伸大
7	近藤 一成	7	柘植 郁哉	7	鈴木 秀幸**	7	児玉 浩明	7	佐々木 伸大**	7	中島 春紫
8	澤田 純一	8	手島 玲子	8	柘植 郁哉	8	近藤 一成	8	中島 春紫	8	樋口 恭子
9	手島 玲子	9	中島 春紫	9	手島 玲子	9	手島 玲子	9	樋口 恭子	9	藤原 すみれ
10	中島 春紫	10	樋口 恭子	10	中島 春紫	10	中島 春紫	10	藤原 すみれ	10	山川 隆
11	飯 哲夫	11	飯 哲夫	11	樋口 恭子	11	樋口 恭子	11	山川 隆		
12	和久井 信	12	山川 隆	12	山川 隆	12	山川 隆				
		13	和久井 信	13	吉川 信幸		吉川 信幸		*令和4年3月31日まで		
	*平成26年4月1日から				*平成31年4月1日から				**令和4年4月1日から		
	**平成26年3月31日まで				**平成31年3月31日まで						





〈高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するワーキンググループ〉

2013年（平成25年） ～2018年（平成30年）4月	
1	石塚 真由美
2	石見 佳子
3	磯 博康*
4	今井田 克己
5	梅村 隆志
6	漆谷 徹郎
7	江馬 真**
8	尾崎 博
9	久保田 紀久枝
10	小堀 真珠子
11	清水 誠
12	頭金 正博
13	中江 大
14	本間 正充
15	松井 輝明**
16	山崎 壮**
17	山本 精一郎
18	吉田 緑
19	脇 昌子
	*平成26年6月17日から
	**平成26年6月16日まで

〈いわゆる「健康食品」に関する検討ワーキンググループ〉

2015年（平成27年）当初		2015年（平成27年）10月 ～2018年（平成30年）4月	
1	石井 邦雄	1	石井 邦雄
2	梅垣 敬三	2	梅垣 敬三
3	尾崎 博	3	尾崎 博
4	合田 幸広	4	合田 幸広
5	平井 みどり	5	齋藤 嘉朗
6	山崎 寛治	6	西 信雄
7	山中 典子	7	平井 みどり
8	脇 昌子	8	松井 徹
		9	山崎 寛治
		10	山中 典子
		11	吉田 宗弘
		12	脇 昌子



〈加熱時に生じるアクリルアミドワーキンググループ〉

2015年（平成27年） 10月～2018年（平成30年）4月	
1	青木 康展
2	浅見 真理
3	今井 俊夫
4	圓藤 陽子
5	川西 徹
6	河原 純子
7	川村 孝
8	熊谷 嘉人
9	祖父江 友孝
10	田中 亮太
11	野原 恵子
12	広瀬 明彦
13	増村 健一
14	村山 典恵
15	吉田 充
16	吉成 浩一
17	鰐淵 英機

〈薬剤耐性菌に関するワーキンググループ〉

2015年（平成27年） 設置当初	2017年（平成29年） 10月改選	2019年（令和元年） 10月改選	2021年（令和3年） 10月改選	2023年（令和5年） 4月現在
1	浅井 鉄夫	浅井 鉄夫	浅井 鉄夫	浅井 鉄夫
2	荒川 宜親	荒川 宜親	荒川 宜親	荒川 宜親
3	今田 千秋	今田 千秋	今田 千秋	今田 千秋
4	植田 富貴子	植田 富貴子	岡村 雅史	岡村 雅史
5	甲斐 明美	岡村 雅史	甲斐 明美	木村 凡
6	佐々木 一昭*	甲斐 明美	佐々木 一昭	小西 典子
7	菅井 基行	佐々木 一昭	菅井 基行	佐々木 一昭
8	砂川 富正	菅井 基行	田村 豊	菅井 基行
9	田村 豊	砂川 富正	豊福 肇	早川 佳代子
10	戸塚 恭一	田村 豊	早川 佳代子	早山 陽子
11	豊福 肇	筒井 敦子*	早山 陽子	早山 陽子
12	細川 正清**	豊福 肇	早山 陽子	蒔田 浩平
13	吉川 泰弘	早川 佳代子**	山岸 拓也	山岸 拓也
	*平成28年4月1日から	*平成30年9月30日まで		
	**平成28年3月31日まで	**平成30年10月1日から		

〈清涼飲料水に関するワーキンググループ〉

2016年（平成28年）7月設置～ 2017年（平成29年）2月	
1	穂山 浩
2	浅見 真理
3	遠藤 裕子
4	太田 茂
5	川村 孝
6	桑村 充
7	渋谷 淳
8	田中 亮太
9	長谷川 隆一
10	福島 哲仁
11	増村 健一
12	松井 徹
13	村山 典恵
14	吉田 宗弘

〈評価技術企画ワーキンググループ〉

2016年（平成28年） 設置当初（4月）	2017年（平成29年） 10月改選	2019年（令和元年） 10月改選	2021年（令和3年） 10月改選	2023年（令和5年） 4月現在
1	赤堀 有美	1 赤堀 有美	1 赤堀 有美	1 赤堀 有美
2	岡田 孝	2 小坂 健	2 猪飼 宏	2 猪飼 宏
3	小坂 健	3 川村 孝	3 小坂 健	3 小坂 健
4	川村 孝	4 小関 成樹	4 川村 孝	4 川村 孝
5	小関 成樹	5 澤田 典絵*	5 澤田 典絵	5 澤田 典絵
6	広瀬 明彦**	6 祖父江 友孝	6 寒水 孝司	6 寒水 孝司
7	山田 隆志	7 竹内 昌平*	7 祖父江 友孝*	7 祖父江 友孝
		8 山田 隆志	8 竹内 昌平	8 竹内 昌平
		9	9 西浦 博	9 西浦 博
		10	10 山田 隆志	10 松本 真理子
	*平成30年3月31日まで		11 山田 隆志	11 山田 隆志
	**平成30年4月1日から			
		*令和2年4月1日から		
			*令和4年4月1日から	

〈六価クロムワーキンググループ〉

2017年(平成29年) 設置当初	2017年(平成29年) 10月改選	2019年(令和元年)10月改選 ～2021年(令和3年)6月
1 穂山 浩	1 穂山 浩	1 穂山 浩
2 浅見 真理	2 浅見 真理	2 浅見 真理
3 圓藤 陽子	3 圓藤 陽子	3 太田 茂
4 太田 茂	4 太田 茂	4 齋藤 嘉朗
5 齋藤 嘉朗	5 齋藤 嘉朗	5 渋谷 淳
6 渋谷 淳	6 渋谷 淳	6 高橋 智
7 高橋 智	7 高橋 智	7 広瀬 明彦
8 田中 亮太	8 田中 亮太*	8 増村 健一*
9 長谷川 隆一	9 長谷川 隆一	9 松井 徹
10 広瀬 明彦	10 広瀬 明彦	10 村山 典惠
11 増村 健一	11 増村 健一	11 吉田 宗弘
12 松井 徹	12 松井 徹	
13 村山 典惠	13 村山 典惠	*令和2年3月31日まで
14 吉田 宗弘	14 吉田 宗弘	
	*平成30年8月31日まで	

〈栄養成分関連添加物ワーキンググループ〉

2015年(平成27年) 設置当初	2017年(平成29年) 10月改選	2019年(令和元年) 10月改選	2021年(令和3年) 10月改選	2023年(令和5年) 4月現在
1 石見 佳子	1 石見 佳子	1 石見 佳子	1 朝倉 敬子	1 朝倉 敬子
2 伊吹 裕子	2 伊吹 裕子	2 伊吹 裕子	2 伊吹 裕子	2 伊吹 裕子
3 上西 一弘	3 上西 一弘	3 上西 一弘	3 上西 一弘	3 上西 一弘
4 宇佐見 誠	4 宇佐見 誠	4 宇佐見 誠	4 内山 奈穂子	4 内山 奈穂子
5 梅村 隆志	5 梅村 隆志	5 梅村 隆志	5 梅村 隆志	5 梅村 隆志
6 合田 幸広	6 合田 幸広	6 合田 幸広	6 澤田 典絵	6 澤田 典絵
7 柴田 克己	7 柴田 克己	7 柴田 克己	7 祖父江 友孝*	7 祖父江 友孝
8 祖父江 友孝	8 祖父江 友孝	8 祖父江 友孝	8 高須 伸二	8 高須 伸二
9 高須 伸二	9 高須 伸二	9 高須 伸二	9 北條 仁	9 北條 仁
10 瀧本 秀美	10 瀧本 秀美	10 瀧本 秀美	10 松井 徹	10 松井 徹
11 頭金 正博	11 頭金 正博	11 頭金 正博	11 横田 惠理子	11 横田 惠理子
12 松井 徹	12 松井 徹	12 松井 徹	12 吉田 宗弘	12 吉田 宗弘
13 横田 惠理子	13 横田 惠理子	13 横田 惠理子		
14 吉田 宗弘	14 吉田 宗弘	14 吉田 宗弘	*令和4年4月1日から	

〈アレルゲンを含む食品に関するワーキンググループ〉

2017年(平成29年) 設置当初		2019年(令和元年) 10月改選		2021年(令和3年) 6月(WG終了)時点	
1	相原 道子	1	相原 道子	1	相原 道子
2	赤松 利恵	2	赤松 利恵	2	赤松 利恵
3	穂山 浩	3	穂山 浩	3	穂山 浩
4	安達 玲子	4	安達 玲子	4	安達 玲子
5	今井 孝成	5	伊藤 浩明	5	伊藤 浩明
6	宇理須 厚雄	6	今井 孝成	6	今井 孝成
7	海老澤 元宏	7	海老澤 元宏	7	海老澤 元宏
8	緒方 裕光	8	緒方 裕光	8	緒方 裕光
9	斎藤 博久	9	斎藤 博久	9	金谷 久美子*
10	手島 玲子	10	手島 玲子	10	斎藤 博久
11	中村 好一	11	中村 好一*	11	手島 玲子
12	丸井 英二	12	丸井 英二	12	丸井 英二
13	森山 達哉	13	森山 達哉	13	森山 達哉
			*令和2年3月31日まで		*令和2年4月1日から

〈香料ワーキンググループ〉

2017年(平成29年) 設置当初		2019年(令和元年) 10月改選		2021年(令和3年) 10月改選		2023年(令和5年) 4月現在	
1	伊藤 清美	1	飯島 陽子	1	飯島 陽子	1	飯島 陽子
2	梅村 隆志	2	梅村 隆志	2	梅村 隆志	2	梅村 隆志
3	紙谷 浩之	3	紙谷 浩之	3	紙谷 浩之	3	紙谷 浩之
4	久保田 紀久枝	4	杉山 圭一	4	杉山 圭一	4	杉山 圭一
5	佐藤 恭子*	5	高須 伸二	5	高須 伸二	5	高須 伸二
6	杉山 圭一**	6	高橋 智	6	多田 敦子	6	多田 敦子
6	高須 伸二	7	多田 敦子	7	戸塚 ゆ加里	7	戸塚 ゆ加里
7	塚本 徹哉	8	戸塚 ゆ加里	8	西 信雄	8	西 信雄
8	戸塚 ゆ加里	9	西 信雄	9	山崎 壮	9	山崎 壮
9	西 信雄	10	山崎 壮	10	吉成 浩一	10	吉成 浩一
10	山崎 壮	11	吉成 浩一				
11	山田 雅巳						
12	吉成 浩一						
	*平成31年1月25日まで						
	**平成30年4月1日から						

〈鉛ワーキンググループ〉

2019年（平成31年） 設置当初		2019年（令和元年）10月改選 ～2021年（令和3年）6月	
1	浅見 真理	1	浅見 真理
2	香山 不二雄	2	香山 不二雄
3	荻田 香苗	3	荻田 香苗
4	松井 徹	4	松井 徹
5	宮川 宗之	5	宮川 宗之
6	吉永 淳		

〈菌末を原材料として使用する調製粉乳に関するワーキンググループ〉

2019年（令和元年）10月設置 ～2020年（令和2年）11月	
1	安達 玲子
2	豊福 肇
3	皆川 洋子
4	脇 昌子
5	脇田 隆宇

〈ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ〉

2021年（令和3年） 設置当初		2021年（令和3年） 10月改選		2023年（令和5年） 4月現在	
1	石塚 真由美	1	石塚 真由美	1	石塚 真由美
2	梅村 隆志	2	伊藤 清美	2	伊藤 清美
3	杉山 圭一	3	梅村 隆志	3	梅村 隆志
4	高須 伸二	4	杉山 圭一	4	杉山 圭一
5	瀧本 秀美	5	高須 伸二	5	高須 伸二
6	多田 敦子	6	多田 敦子	6	多田 敦子
7	戸塚 ゆかり	7	戸塚 ゆかり	7	戸塚 ゆかり
8	松井 徹	8	松井 徹	8	松井 徹

12 〈有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ〉

2023年（令和5年） 設置当初		2023年（令和5年） 4月現在	
1	石塚 真由美	1	石塚 真由美
2	荻田 香苗	2	荻田 香苗
3	川村 孝	3	川村 孝
4	澤田 典絵	4	澤田 典絵
5	渋谷 淳	5	渋谷 淳
6	祖父江 友孝	6	祖父江 友孝
7	田中 徹也	7	田中 徹也
8	中山 祥嗣	8	中山 祥嗣
9	姫野 誠一郎	9	姫野 誠一郎
10	松井 徹	10	松井 徹
11	吉成 浩一	11	吉成 浩一

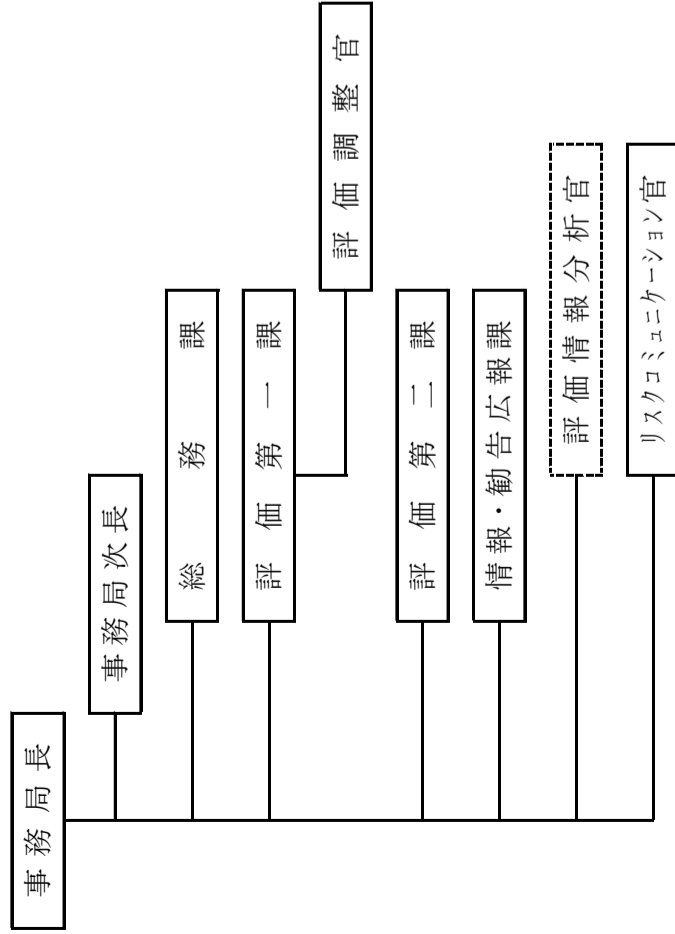
## 16 予算及び定員の推移

	予算額 (百万円)	対前年度増減額 (百万円)	定員 (人)	対前年度増減 (人)
2013年度 (平成25年度)	918	△ 29	60	2
2014年度 (平成26年度)	950	32	59	△ 1
2015年度 (平成27年度)	946	△ 4	63	4
2016年度 (平成28年度)	959	13	63	0
2017年度 (平成29年度)	961	2	64	1
2018年度 (平成30年度)	962	1	64	0
2019年度 (令和元年度)	958	△ 4	64	0
2020年度 (令和2年度)	957	△ 1	64	0
2021年度 (令和3年度)	956	△ 1	64	0
2022年度 (令和4年度)	926	△ 30	64	0
2023年度 (令和5年度)	951	25	65	1

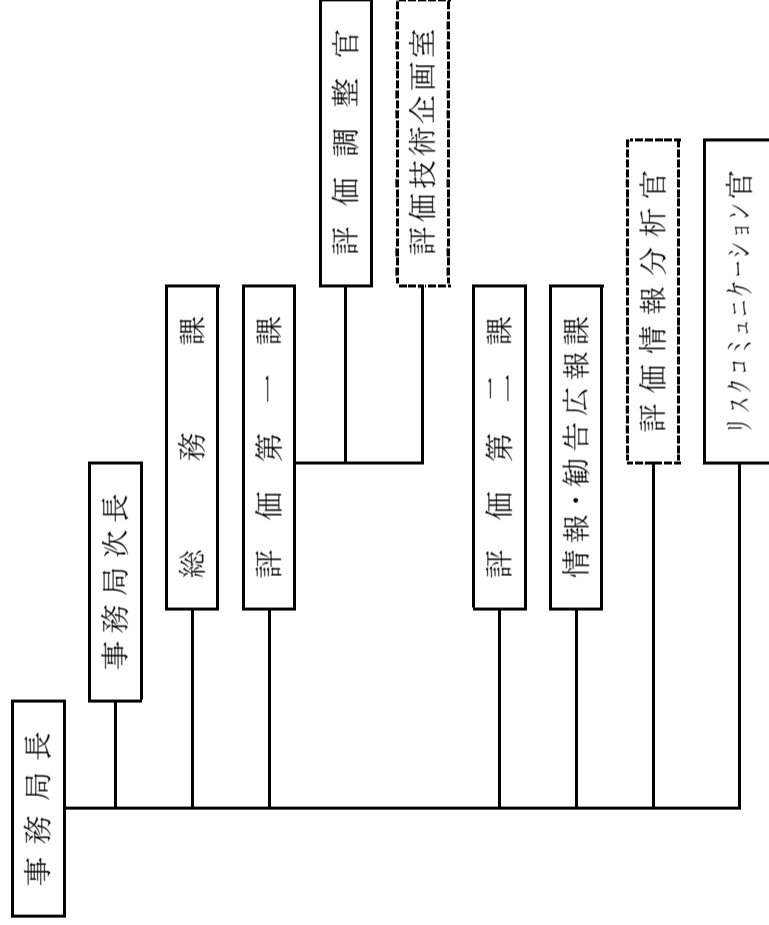
## 17 事務局組織の変遷

※点線囲みは訓令による設置

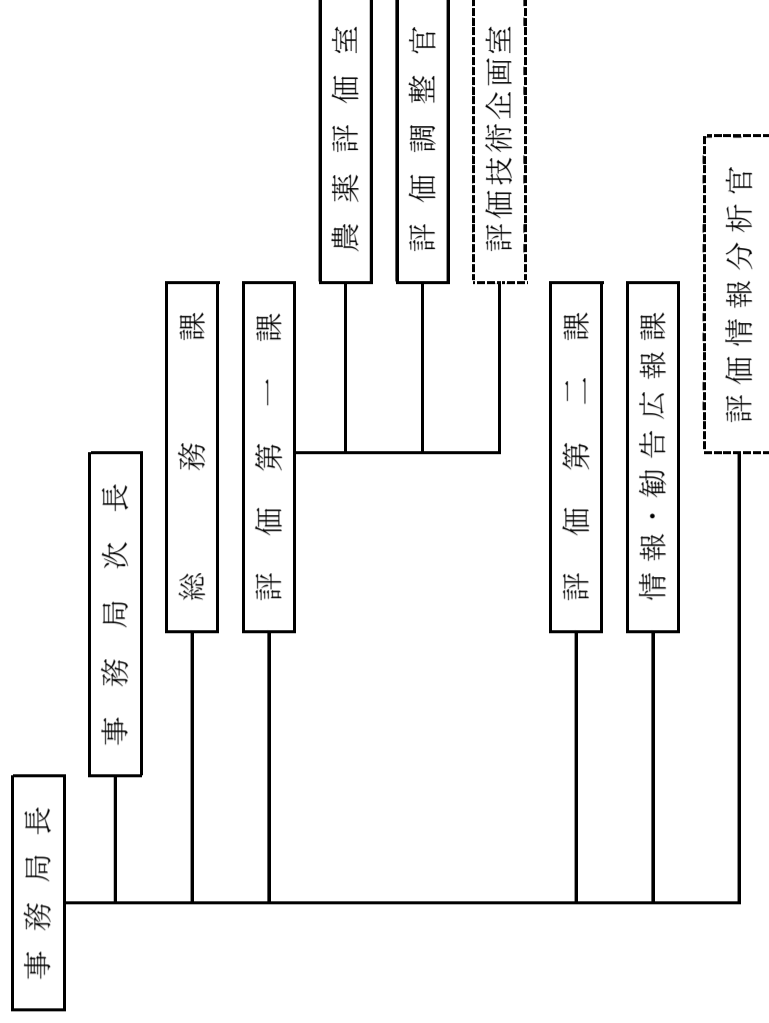
<2013年5月16日～>



<2015年4月10日～>



<2023年4月1日～>





18 食品安全委員会事務局幹部の変遷

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
事務局長		堀田 尚 (24.9.11~28.6.16)	川島 俊郎 (28.6.17~1.7.7)					小川 良介 (1.7.8~3.6.30)	鋤柄 卓夫 (3.7.1~)	鋤柄 卓夫 (3.7.1~)
次長		本郷 秀毅 (24.1.16~26.3.31)	東條 功 (26.4.1~29.7.9)			小平 均 (29.7.10~2.3.31)		鋤柄 卓夫 (2.4.1~3.6.30)		中 裕伸 (3.7.1~)
総務課長		井原 辰雄 (23.7.29~25.7.8)	山本 麻里 (25.7.9~27.9.30)	小森 雅一 (27.10.1~28.6.20)	松原 徳和 (28.6.21~30.7.30)		矢田 真司 (30.7.31~2.8.6)		新 俊彦 (2.8.7~4.3.31)	込山 愛郎 (4.4.1~)
評価第1課長		磯部 総一郎 (25.5.16~26.7.10)	関野 秀人 (26.7.11~29.7.10)	岡野 秀人 (26.7.11~29.7.10)	吉田 易範 (29.7.11~30.7.30)	中山 智紀 (30.7.31~1.12.31)		近藤 恵美子 (2.1.1~4.6.27)		紀平 哲也 (4.6.28~)
評価第2課長		山本 実 (25.5.16~27.3.31)	鋤柄 卓夫 (27.4.1~29.7.9)		吉岡 修 (29.7.10~31.3.31)				石岡 知洋 (2.8.1~4.7.3)	前岡 聡 (4.7.7~)
情報・報告広報課長		植木 隆 (25.5.16~28.3.31)		岡田 正孝 (28.4.1~29.7.9)		渡辺 且之 (31.4.1~2.7.31)			都築 伸幸 (2.8.1~4.7.3)	浜谷 直史 (4.7.4~)
リスクコミュニケーション官		前田 光哉(25.8.1~26.7.14)	野口 武人 (26.7.15~27.3.31)	木下 光明 (27.4.1~28.4.30)	渡辺 且之 (29.7.10~31.3.31)	秋元 京子 (31.4.1~3.3.31)				藤田 佳代 (3.4.1~5.3.31)
評価情報分析官	高山 昌也 (24.4.6~25.3.31)			池田 三恵 (25.4.1~1.8.28)				蛭田 浩一 (1.8.29~3.7.31)		井上 隆弘 (3.8.1~)